

平成19年度文部科学省
現代的教育ニーズ取組支援プログラム選定



平成19年度～21年度

学生個人を大切にしたキャリア教育の推進

—個別対応と個別対応教育による就労意識の喚起・醸成と基本的能力の養成—

—最終報告書—



京都光華女子大学

はじめに

建学の精神とキャリア教育

「現代的教育ニーズ取り組み支援プログラム」に選定されて3年間、「学生個人を大切にしたいキャリア教育の推進」というテーマ実現に向け努力してきたその成果を本「最終報告書」にまとめ江湖に問うことができますことに喜びを禁じえません。

文部科学省によるGP選定は本学にとって初の慶事でありました。テーマ実現に向けての教職員の意識改革を始め体制作り等本学にとっては未知の世界への挑戦であり大きな試練であったことも事実でした。現代的課題であるキャリア教育について社会からの大学への要請、期待に応えることは、大学が行うべき社会的貢献であり、大学が存立するために一層重要視されるべき社会に対するミッションでもあるといえましょう。さらには本プログラムへの取り組みに邁進することは、「選ばれる大学」として生き残るために大学を活性化させる貴重な施策ともなりました。

本プログラムへの取り組みが、本学の建学の精神の具現化として受け止めることが出来たことはありがたいことでした。本学の建学の精神は、校訓の「真実心」に示される。この言葉は、本学の創設者が親鸞聖人の文献から採られた。その文献を渉猟すると、真実心とは、慈悲の心、思いやりの心であることが判明する。

慈悲の心、思いやりの心とは、智慧とならぶ仏教の基本的徳目である。智慧はブッダの悟りの内容である。それは、私という存在が他者との関係の中に生かされている相対的存在でしかないことの発見である。ブッダの悟りは、ブッダ一個人の苦からの解放にとどまらず、苦悩する他者全人への救済に向けて慈悲として自らはたらき出るものである。智慧が慈悲へと展開して一切衆生を救うというのが仏教の道理である。自己を省察する智慧は自ずと他者へ向かう。従って、慈悲とは、利他の心であって、抜苦与楽を本質とする。利他の心情は、他人の苦しみ痛みを我がものとして受けとめ、誰をも差別なく受け入れ、見捨てることをしないことである。かかる慈悲の心情は、摂取不捨の心と換言できる。親鸞聖人は「摂取」とは「もののにぐるをおわえとるなり。ひとたびとりてすてぬなり」とおっしゃっておられる。

この慈悲の心をもって学生を育成することこそ、教育にほかならない。本学では、教職員一同が、慈悲の心をもって学生に接し、学生たちが慈悲の心を身に付けて社会に巣立つことを期待している。

かかる建学の精神に裏付けられたキャリア教育こそ現代社会から求められているものと認識する。最近の世相に思いを致すとき、相手の立場に立って考え、行動するという慈悲の心、思いやりの心が欠如していることを憂えざるを得な

い。一方、最近の学生の動向を見ると大学への進学は希望するものの、自分は何を学びいかなる道に進むのか、いわゆる自分のライフ、キャリアをデザインしえない学生が急増している。さらに、フリーター、ニートと表現されるタイプの学生が出現している状況にある。かかる学生は既存の教育カリキュラムでは吸収、対応できないのが実情である。

かかる学生の就労は、現代社会の深刻な課題である。かれらに手を差し伸べ、就労意識を喚起、醸成し、社会人としての基礎能力をあらためて修得させ、しっかりした判断能力をそなえた、社会人として自立できる学生の教育に取り組むことは喫緊の課題である。本学は、かねてより、エンロールメント・マネジメントの取り組みで、学生一人ひとりに対応した面倒見のいい親切的な教育をほどこすことを心がけている。本学では、在学中は言うに及ばず入学以前から卒業後に至るまで世話する運動を展開している。

建学の精神に基づくエンロールメント・マネジメントという教育システムを背景にして本学 GP プロジェクトを遂行出来たことを喜びとするものであり、この成果に対し広くご意見を賜り今後の指針とさせていただければと願う次第である。

学長 一郷 正道

学生個人を大切にしたキャリア教育の推進 取組体制

代表者	学 長	一 郷 正 道
事業推進責任者	キャリア教育推進センター長	山本嘉一郎
キャリア教育推進連絡会		
	キャリア教育推進センター所員	澤井 律之
		阿部 一晴
		南 章夫
		古賀 正弘
		原田 雅恒
		木村 康子
		松田 真弓
		甲斐 俊清
		伊藤 勝久
		土井 規子
		吉田 咲子
		藤居 朋子
委員	文学部 日本語日本文学科	朝比奈英夫
	国際英語学科	河原 俊昭
		真田 達也
	全学共通教育センター	澤井 律之
	人間科学部 人間関係学科	阿部 一晴
	健康栄養学科	饗庭 照美
		大久保郁子
	社会福祉学科	木村 容子
		山口理恵子
	学務企画部長	古賀 正弘
	学生サポートセンター長	真東 徳博
	学生キャリア支援センター長	原田 雅恒
	学園IT推進部長	伊藤 勝久
オブザーバー	短期大学部	平田 陽子
	ライフデザイン学科	松田 智子
	こども保育学科	高橋 孝輔

学生個人を大切にしたキャリア教育の推進

－ 個別対応と個別対応教育による就労意識の喚起・醸成と基本的能力の養成－

目 次

1. 本事業の目的と取組	1
1.1 概要	1
1.2 取組内容	6
1.3 文部科学省による選定理由	9
2. 取組の実施概要	10
2.1 「就労意識の喚起・醸成」に関する取組	10
2.2 「基本的能力の養成」に関する取組	17
2.3 「社会人基礎力の養成」に関する取組	21
2.4 支援環境	29
2.5 広報	32
2.6 評価	34
2.7 就労意識に関するディスカッション記録	46
3. 取組の詳細	51
3.1 文学部 日本語日本文学科	51
3.2 文学部 国際英語学科	53
3.3 全学共通教育センター	55
3.4 人間科学部 人間関係学科	56
3.5 人間科学部 健康栄養学科	58
3.6 人間科学部 社会福祉学科	59
3.7 学生キャリア支援センター／エクステンションセンター	65
3.8 学園 IT 推進部／情報教育センター	70
3.9 キャリア教育推進センター	73
4. 調査研究	76
4.1 先行事例調査	76
4.2 フォーラムへの出席	76
4.3 外部講師による学内勉強会	79
資料 1. 学生向けリーフレット	80
資料 2. GP 啓発ポスター	82
資料 3. 平成 19 年度ポスターセッション	83
資料 4. 平成 21 年度ポスターセッション	84
資料 5. キャリア教育シンポジウムポスター	85
資料 6. 最終成果報告会ポスター	86
資料 7. 最終成果報告会資料（基本報告）	87
資料 8. 最終成果報告会資料（各学科・関連部署）	91
資料 9. 本取組関連論文	106

1. 本事業の目的と取組

1.1 概要

(1) 要旨

現代社会がかかえる「若者の就労」の問題に対し、キャリア教育の課題を就労意識の喚起・醸成と職業人としての基本的能力の養成ととらえる。基本的能力としては「読む、書く、聞く、話す」の基礎能力の習得から始め、これを発展・高度化した社会人基礎力の習得を目指す。そのため、導入教育から専門教育までをキャリア教育の視点から体系化し、正課の教育課程を大学全体として構築する。さらに、スキルアップを含むキャリア形成・就職支援等の正課外教育との連携を図り、総合的で実践的なキャリア教育課程を構築・推進する。その有効な方法を徹底した個別対応教育に求め、その実現を支援するために ICT の活用を図る。個別対応教育は多様な学生に対して、教育効果を上げるための唯一の解決法である。これを実現するには時間的・空間的に学習およびコミュニケーション形成の場を広げる必要があり、ユビキタスな教育環境を可能にする ICT の活用で解決する。

(2) 取組の要点

本取組の要点は以下のように、①「キャリア教育に関する基本的な考え」(キャリア教育の基本的な目的(ねらい)をどのように考えたか)、②それ(目的)を達成するための「教育体系」(キャリア教育としての教育課程)、③教育課程を実施するための「(広い意味での)教育の方法」といった構成と流れである。

① 「キャリア教育に関する基本的な考え」(人材育成目標)

以下の3点を目標として、社会人として必要な要件を備えた人材を育成する。

- ▶ 就労意識の喚起・醸成
- ▶ 基本的能力の養成
- ▶ 社会人基礎力の養成

② 「教育体系」(教育課程)

以下のように、「正課」および「正課外」教育からなる、総合的で実践的な「キャリア教育課程」を体系化する。

- ▶ 正課教育(=正課のキャリア教育課程)
 - ・ 導入教育
 - ・ 発展・応用教育

から成り、専門課程を含めて関連の科目を「キャリア教育」の視点から体系化する。

- ▶ 正課外教育
 - ・ キャリア形成および就職の支援

③ 「方法」

上記の教育課程を実施し、①の目標を達成するため、次の方法を導入する。

- ▶ 個別的対応教育
- ▶ 個別対応
- ▶ ICTの活用

(3) 教育課程

本教育課程（キャリア教育課程）は、既存の全学共通あるいは、学科ごとの基礎・専門科目をベースにして、「キャリア教育」の視点から構築するバーチャルなもの（学部・学科横断的な課程）である。対象は大学の全学部・学科としている。その教育課程は図1および表1に示すとおりで、大きく次の3つで構成される。また、カリキュラムとの関係は表2のとおりである。

① 正課教育のうち、全学共通で実施されるもの

図1の①-1と-2、②、③（前半部分）

② 正課教育のうち、各学科で実施されるもの

この種の教育は、次の3種類で構成される

- ▶ 導入・基礎教育（図1の①-1、および③の前半）
- ▶ 専門教育（図1の③の後半）
- ▶ 専門職養成教育（学科による）

③ 正課外教育

図1の⑥及び⑦

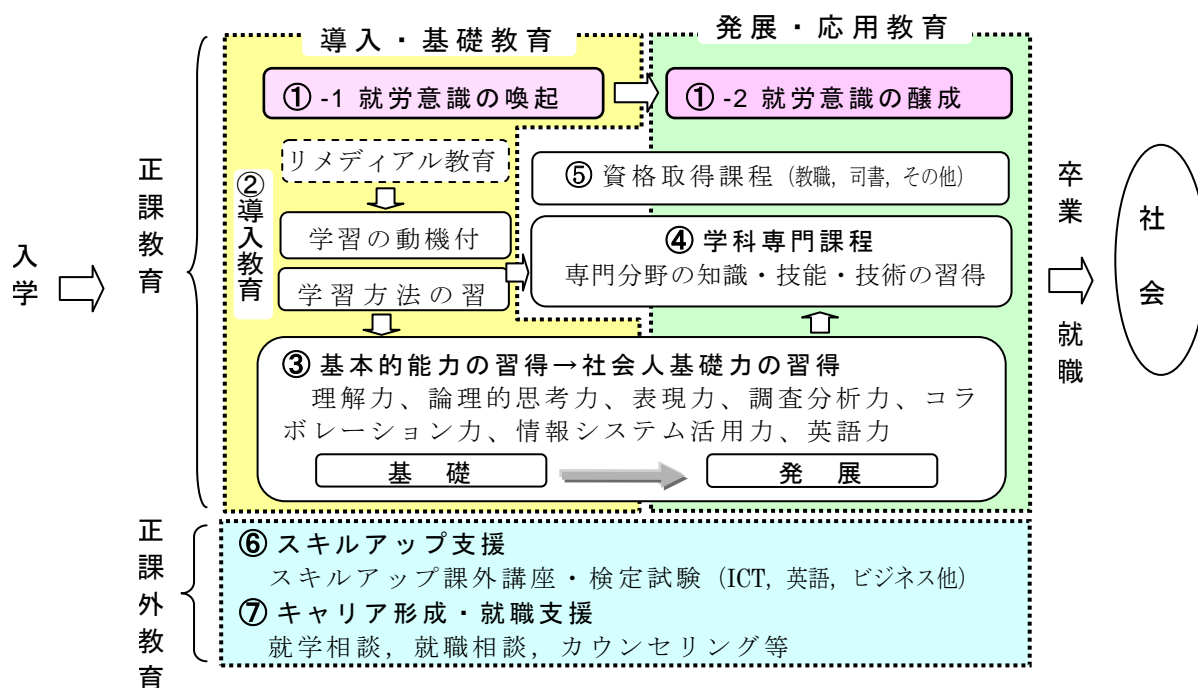


図1 キャリア総合教育課程のイメージ

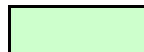
表 1 教育目標と教科・講座

目 標		初期段階（1, 2年次）	発展・応用段階（2～4年次）
① 就労意識の喚起・醸成		A1（基礎ゼミ，キャリア科目）	A2（キャリア科目，インターンシップ，学外施設実習）
② 導入教育	基礎学力の補習	B0（リメディアル教育）	
	学習の動機付け	B1（基礎ゼミ）	
	学習方法の習得	B2（大学基礎講座，基礎ゼミ）	
③ 基本的能力の習得→社会人基礎力の養成	理解力（聞く・読む）	C1 基礎的学習 （大学基礎講座，基礎ゼミ，アカデミックライティングなど）	C2 社会人基礎力養成 （主に講読、専門ゼミ、データ解析などの専門教育の中で実施）
	論理的思考力		
	表現力（話す・書く）		
	調査力（調査・分析）		
	コラボレーション力		
	英語力	D（英語）	
	情報システム活用力	E1（情報処理基礎教育）	E2（応用的情報処理教育）
社会人基礎力		F 社会人基礎力養成講座	
⑥ スキルアップ		G1 スキルアップ講座・検定	G2 スキルアップ講座・検定

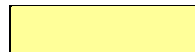
表 2 キャリア教育課程としてのカリキュラム（教育目標と科目）

教育目標	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
① 就労意識の喚起・醸成	基礎ゼミ							
		キャリアデザイン講座Ⅰ	キャリアデザイン講座Ⅱ		キャリアデザイン講座Ⅲ→インターンシップ			
					専門実習（学外施設実習）			
② 導入・基礎教育	基礎ゼミ（学習の動機付け・学習方法の教育）							
	リメディアル							
	大学基礎講座（学習の動機付け・学習方法の教育）							
③-1 基本的能力の養成	大学基礎講座							
	基礎ゼミ							
	情報処理							
	英語							
③-2 社会人基礎力の養成			講読					
					専門ゼミ			
④ 専門職教育			社会人基礎力講座（基礎）		社会人基礎力講座（発展）			
			専門課程		資格取得課程			
⑤ スキルアップ	スキルアップ講座（ICT、英語、ビジネス等）							
	資格検定試験（ICT、英語、漢字、文章能力、ビジネス他）							

凡例



正課教育



正課外教育

(4) 本取組で採用した方法

以下の5点よりなる。

① 徹底した個別対応教育の導入

期待に応えた教育（学習）成果を約束できるよう、徹底した個別的対応教育を実施する。学生個々のさまざまな状況を考えて、最適な指導と支援を行う。これにより、卒業時の到達水準を約束していく。

② 学習効果を保証する新たな教育プログラムの導入

指導と評価を徹底し、きめ細かにまた丁寧に対応することによって、一段と高い学習効果が約束できる学習プログラムを導入する。

③ 学習支援のためのICTとeラーニングの活用

本取組実現の基盤として重要になるコミュニケーション形成をICTにより支援し、個別対応教育としての支援効果を期待する。また、復習・自習教材による各教科の学習支援およびスキルアップ学習用にeラーニングを提供する。

④ 学生総合データベースの構築と活用

学生に関する情報を一元的に管理し、個々の学生の状況を詳細に把握する。これにより、学生個々の状況に応じた支援・指導を可能にし、大学での活動に必要な情報を提供し、円滑な学習と学生生活を支援する。

⑤ 体系的なインターンシップの実施とその支援

目的に応じた各種のインターンシップを置き、働くことの体験を目標に実施する。これにより、職業理解と就労意欲を高める。

(5) 実施体制

図2に示す通りである。このため、次の組織を設置・編成した。

① キャリア教育推進センター

次の役割を担う。

- ▶ 本取組（総合キャリア教育）の組織及び実施についての統括
- ▶ 全体組織の管理・運営
- ▶ 取組全体についての実務

② キャリア教育推進連絡会

▶ 推進センター長、同事務室長、推進センター所員、各担当学科・関連部署等の代表で構成し、次の役割を担う。

- ・ 取組の実施にあたっての各担当学科・部署等間での調整
- ・ 取組結果の点検・評価

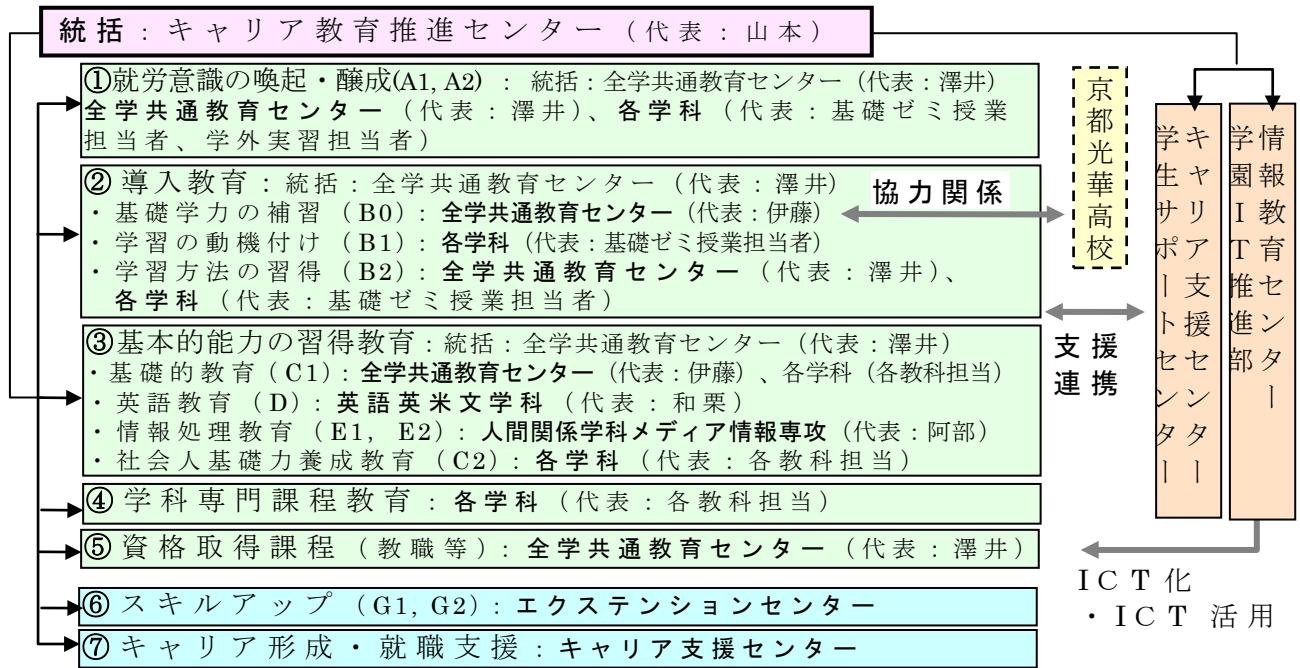


図 2 実施体制（表内の番号・記号は前出の表 1 中のものに対応）

(6) 全体スケジュール

取組の全体スケジュールは表 3 の通り、3 年計画で実施する。この過程を経て、正課教育と正課外教育を総合してキャリア教育全体の体系化を進める。あわせてその実施に必要な支援環境を整備し、効果的で円滑な実施体制を整える。

表 3 取組の全体スケジュール

取組項目		平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
正課教育				
① 就労意識の喚起・醸成	基礎ゼミ・キャリア科目 A1	拡充・強化	継続	継続
	インターンシップ A2	検討・準備	試行	実施
② 導入教育	大学基礎講座 B2、基礎ゼミ B1	拡充	継続	継続
	リメディアル教育 B0	検討	試行	実施
③ 基本的能力の習得	大学基礎講座 C1	拡充	継続	継続
	基礎ゼミ C1	試行	実施	完成
	英語教育の改善 C1	検討・準備	試行	実施
	専門教科の中での実施 C2	検討	実施	継続
④⑤ 専門課程 新教育方法導入	情報システム活用力 E1、E2	拡充	継続	継続
	学科専門課程、資格取得課程 個別対応教育プログラム	検討・試行	実施	実施
正課外教育				
③ 社会人基礎力の養成	講座・能力検定 F	試行	試行・実施	継続
⑥ スキルアップ	講座・検定試験 G1、G2	拡充	継続	継続
⑦ キャリア形成・就職支援	面談支援システムの導入	準備・試行	実施	継続
ICT化と eラーニング				
正課の ICT 化	授業への LMS 導入	拡大	拡大	全授業へ
	学外実習支援システム	開発	開発・試行	運用開始
eラーニング導入	正課への導入	試行	導入拡大	継続
	スキルアップ講座	導入拡大	継続	継続

(表内の番号・記号は前出の表 1 中のものに対応)

1.2 取組内容

(1) 平成19年度

19年度の補助事業の目的を達成するため、次のスケジュールで計画を実施した。本補助事業は3年計画で実施するものであり、本年度はその中で、これまでの準備をさらに進め、試行と一部の本実施を通して、20、21年度の全面的な本実施・完成へと進めることにした。

- ① 10月 全体的な実施体制の始動
- ② 10月～2月 基礎ゼミ、キャリア科目の拡充・強化（本年度は試行が中心。次年度以降で本実施）
- ③ 10月～ 正課教育改革への着手（個別対応教育プログラムの試行、ICT化の推進）（本年度は一部の学科で試行。20年度に全学展開）
- ④ 10月～ 関連の教材の開発（リメディアル教材の検討。英語教材の第1段階開発）（本年度は検討・設計および、20年度の試行向けの開発。20、21年度に改訂・改善し、21年度の同教育の本実施へ備える）
- ⑤ 11月～12月 正課外教育の試行（社会人基礎講座の準備としての能力検定など）（本年度は3学年で試行。20年度から1～3学年へ展開）
- ⑥ 10月～ 支援環境の整備（学生サービスポータルサイトおよび就職・キャリア形成面談支援システムの試験運用）（本年度の環境整備を受けて、20年度から本運用）
- ⑦ 10月～ インターンシップ活動の見直しと制度化作業（本年度末の制度化を受けて、20年度から段階的に実施）
- ⑧ 10月～ 専門課程および資格取得課程での対応体制の整備（本年度の整備を受けて、20年度から実施、21年度にはさらに拡充）
- ⑨ 10月～ 教育（正課及び正課外教育）のICT化とeラーニング授業の導入（本年度はこれまでの実施内容（一部学科を中心に実施）を強化・発展させ、20年度以降、対象の拡大と内容の拡充を図る）。
- ⑩ 10月～3月 個別評価会議（隔月計3回）および全体の評価会議の開催（3月）（次年度以降も、同様の趣旨で継続）

(2) 平成20年度

20年度の補助事業の目的を達成するため、次のスケジュールで計画を実施した。20年度はその中で、19年度の取組の実施結果と準備に基づいて、全面的な本実施へ入り、21年度の完成を目指した。

- ① 4月 20年度の実施内容・方法・体制についての確認
- ② 4月 学生へのオリエンテーションと学生向け案内リーフレットの印刷・配布（19年度に作成済み）
- ③ 4月～2月 基礎ゼミ、キャリア科目の拡充・強化（19年度の試行を受けて、20年度は本実施）
- ④ 4月～2月 正課教育改革（個別対応教育プログラムの導入、ICT化の推進）の実施（19年度の一部の学科での試行を受けて、全学へ展開）
- ⑤ 4月～2月 リメディアル教育の試行（新英語教育の一部学科での試行。21年度には全学科へ展開）と関連の教材の開発（リメディアル教材の開発・改訂）（英語教材については、20年度の試行結果により改訂・改善し、21年度と同教育の本実施へ備える。新たに国語基礎教育用の教材開発に着手）
- ⑥ 4月～3月 正課外教育の実施・試行（社会人基礎力の能力検定、および社会人基礎講座）（能力検定は、19年度の3年次生への試行から1～3年次生へ全面展開。社会人基礎講座は、全学部学科の1～3年次生を対象に試行）
- ⑦ 4月～3月 支援環境（学生サービスポータルサイトおよび就職・キャリア形成面談支援システム）の本運用（19年度の環境整備を受けて試験運用を継続し、20年度後半から本運用）
- ⑧ 4月～9月 新制度によるインターンシップ活動の試行（21年度の本実施へ向けて、20年度に試行）
- ⑨ 4月～2月 専門課程および資格取得課程でのキャリア教育の試行・実施（20年度から実施、21年度にはさらに拡充）
- ⑩ 4月～2月 教育（正課及び正課外教育）のICT化とeラーニング授業の導入（20年度はこれまでの実施内容（一部学科を中心に実施）をさらに強化・発展させ、対象の拡大と内容の拡充を図る。）
- ⑪ 5月～2月 先行事例の現地調査
- ⑫ 5月～3月 個別評価会議（隔月奇数月に実施、計6回）および全体の評価会議の開催（9月、3月）（次年度も、同様の趣旨で継続）
- ⑬ 2月～3月 20年度中間報告書の作成

(3) 平成21年度

21年度の補助事業の目的を達成するため、次のスケジュールで計画を実施した。本補助事業は3年計画で実施するものであり、21年度は其中で、20年度までの取組の実施結果と試行に基づいて、全面的な本実施へ入り、最終年度としての完成を目指した。

- ① 4月 21年度の実施内容・方法・体制についての確認
- ② 4月 学生へのオリエンテーションと学生向け案内リーフレットの印刷・配布（20年度に作成済み）
- ③ 4月～2月 基礎ゼミ、キャリア科目の拡充・強化（20年度より本実施したものを継続実施）
- ④ 4月～2月 正課教育改革（個別対応教育プログラムの導入、ICT化の推進）の強化（20年度の全学展開の結果を受けて、改善・強化）
- ⑤ 4月～2月 リメディアル教育の続行（新英語教育を全学科で実施）と追加（国語基礎教育を試行）、および関連の教材の開発（英語教材の改訂・改善。国語基礎教育用教材の改訂）
- ⑥ 4月～3月 正課外教育の実施（社会人基礎力の能力検定、および社会人基礎力講座を全学部学科の1～3年次生を対象に実施）
- ⑦ 4月～3月 支援環境（学生サービスポータルサイトおよび就職・キャリア形成面談支援システム）の本運用（20年度の試行結果を受けて本運用へ移行）
- ⑧ 4月～9月 新制度によるインターンシップ活動の実施（20年度の試行結果により改善）
- ⑨ 4月～2月 専門課程および資格取得課程でのキャリア教育の拡充（20年度の試行結果により改善）
- ⑩ 4月～2月 教育（正課及び正課外教育）のICT化とeラーニング授業の導入（21年度はこれまでの実施内容（一部学科を中心に実施）をさらに強化・発展させ、対象の拡大と内容の拡充を図る。）
- ⑪ 5月～2月 先行事例の現地調査
- ⑫ 5月～3月 個別評価会議（隔月奇数月に実施、計6回）および全体の評価会議の開催（9月、3月）
- ⑬ 2月～3月 最終報告書の作成（19～21年度）
- ⑭ 3月 本事業の報告会の開催

1.3 文部科学省による選定理由

本取組が文部科学省の補助事業として選定された際の選定理由を以下に報告する。本取組は、以下の選定理由を念頭に置き取り組んできた。

本取組は、貴学の全学的な取組として着手している、エンロールメント・マネジメント（入学から卒業後にいたるまでの一貫した個別対応教育を通じて学生のあらゆる不安や疑問に徹底的に対応し、その過程で主体的な学習意欲を引き出すことによって、より高度な水準で教育理念の具体化を目指す）の一環として位置づけられています。これまで個々に行われてきたキャリア関連教育を体系化し、正課外教育活動のキャリア形成・就職支援との連携を図り、総合的なキャリア教育の体系化を目指したものです。

安易な IT 導入によるキャリア教育支援システムには本来悲観的です。しかしながら、全学生を対象とし、かつ 1～4 年生の 4 学年を通じて、10 名以内を原則としたゼミを置き、ゼミ担当者による徹底した個別対応体制（丹念な学力把握と個別指導、成績評価、出席確認なども含む）により、キャリア形成への恒常的な対応をするという人による運用が計画されており、それを IT 活用による支援システムでバックアップしようと試みています。その相乗効果が発揮されることを期待します。

本取組が効果的に機能し、実効性があがるよう実施プロセスの経過評価、実施結果の評価・検証をしっかりと行っていただけることを期待します。

2. 取組の実施概要

2.1 「就労意識の喚起・醸成」に関する取組

本取組の目標の1つ「就労意識の喚起・醸成」では、十分な就労観（職に就くことへの理解）を持つことにより、働くことの意味を理解し、そこに希望を見出すことができることを目指した。「基礎ゼミ」をはじめとした正課科目と個別対応教育として取り組んだ以下の実施項目で、就労意識の喚起・醸成を図った。その実施項目と特徴を以下に説明する。また、その効果については、アンケートにより就労意識を調査することで分析した。

(1) 実施項目と特徴・内容

① 基礎ゼミ

15名以下の少人数ゼミで行う必修科目。以下の内容を全学共通の学習項目として授業に組み込むこととしていた。

1. 自分史と将来イメージの具体化
2. 将来イメージの視点から大学での学びデザイン
3. 就労体験談（卒業生などの講演）
4. 個別面談
5. 夏休みの社会活動

② キャリアデザイン講座Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

全学共通の比較的多人数で実施する選択科目。学科の枠を超え、毎回違うメンバーによるグループワークを中心にコミュニケーション能力の向上をはかった。

Ⅰは1年生を対象とし、自己分析・自己理解を目的としていた。

Ⅱは2年生を対象とし、社会と職業理解を目的としていた。

Ⅲは3年生を対象とし、実践的な職業体験（インターンシップ）に取り組むことを目的としていた。

③ 大学基礎講座Ⅰ・Ⅱ

「学びの技法」をテーマとし、Ⅰでは、大学の様々な授業で必要とされる基礎的で一般的な「学習技能」について学ぶ。「大学で興味深く・積極的に・楽しく学ぶ」ということを実現するための援助をすることを目的としていた。

Ⅱでは、自分で研究をし、その成果を発表するための技術の習得を目的とした。大学では、高校までと異なり「与えられた課題をこなす」だけではなく、自分で問題を発見し、その解決に取り組むことが要求される。この授業では、そのための基本的な技能について体験的に学修した。

④ ラーニンググループ

個別対応教育として、先輩学生（3年生中心）から後輩（1年生）への個別アドバイスにより大学生活をサポートすることを目的とした。各学科単位でルーム開設し、決められた時間内は、先輩学生（SA）が待機し、相談希望者の対応を行った。

学科によっては必要な知識のリメディアル教育の役割も担っており、基礎統計・文章表現力テスト・漢字検定対策講座などのテーマに従った学習支援も行った。

⑤ クラスアドバイザーの個別面談

全学年で担任制の構成にし、教員による個別面談を実施した。その中で、就労意識の喚起・醸成につながる指導を行った。

⑥ 教育実習・栄養士の臨地実習・社会福祉現場実習・インターンシップ

実際の働く現場を体験することで、就労意識の醸成と社会人基礎力の養成を目的とした。終了後のレポート作成と発表により、省察することで成果の定着を図った。

(2) 実施結果

上記実施項目に関して、各学科・関連部署において年間計画を作成し、それに基づき実施した。実施状況は以下のような共通フォーマットを作成し、キャリア教育推進連絡会で報告し情報共有を行った。

実施事項	③項 就労意識の喚起												
目的	初年次の基礎教育を通じ「就労」「社会人となる」という目的を意識させ、学習意欲の向上につなげる												
実施担当	人間関係学科												
21年度実施事項 (実施内容)	基礎ゼミ(本学科科目名は 基礎演習Ⅰ(前期)・基礎演習Ⅱ(後期))の中で「就労意識の喚起」を中心課題の一つとして取り組む												
実施事項の目標	自分の将来イメージとそのための大学4年間のデザイン形成を吟味し、将来の自分とのかかわりを考えることで、大学で学ぶべき内容をディスカッション、個々の学生が熱意をもって取り組める学習内容を見出し、自発的に学び、キャリア形成に向けた動機づけを高める。												
実施計画と方法	備考	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
科目担当者の意識共有		■						■					
基礎演習Ⅰでの取り組み		■											
基礎演習Ⅱでの取り組み							■						
外部講師による特別講義		各専攻で随時実施(各論入門講義等)											
評価と改善の方法													
前期取り組み状況の報告と後期に向けての情報共有					■								
後期取り組み状況の報告と情報共有・まとめ												■	
取組の状況	現在、前期授業(基礎演習Ⅰ)で各担当者が取り組み中 現代GPが残り半期となり、学科内で再度各教員に意識的に取り組むことを依頼した e-ポートフォリオについてキャリアデザイン講座受講者へのフォローアップの徹底を継続												
今後の予定													
問題点/課題	成果の評価をどのように捉えるか更なる検討が必要 昨年度実施したアンケートをベースに検討する												

取組期間を振り返った各学科からの実施結果報告は以下のとおりであった。

① 日本語日本文学科

各教員によって取り組みの方法・内容にばらつきがあったが、学生の反応を見ると、おおむね効果があったと考えられる。

② 国際英語学科

現在の不況のもと、3回生ぐらいからは就職状況を心配して、自分がどのようなキャリアを選べるのか関心が強まっている。本学科ではある程度だが、学生のそのような関心に応えることが出来た。

③ 全学共通教育センター

各取組において学生に促しており、学生は素直に反応し意欲を見せてはいるが、学生はある一定レベルに到達した時点でそれ以上を目指さなくなる傾向がある。

④ 人間関係学科

具体的テーマとして意識することにより、向上が感じられる。アンケート結果からもそれが読み取れる。

⑤ 健康栄養学科

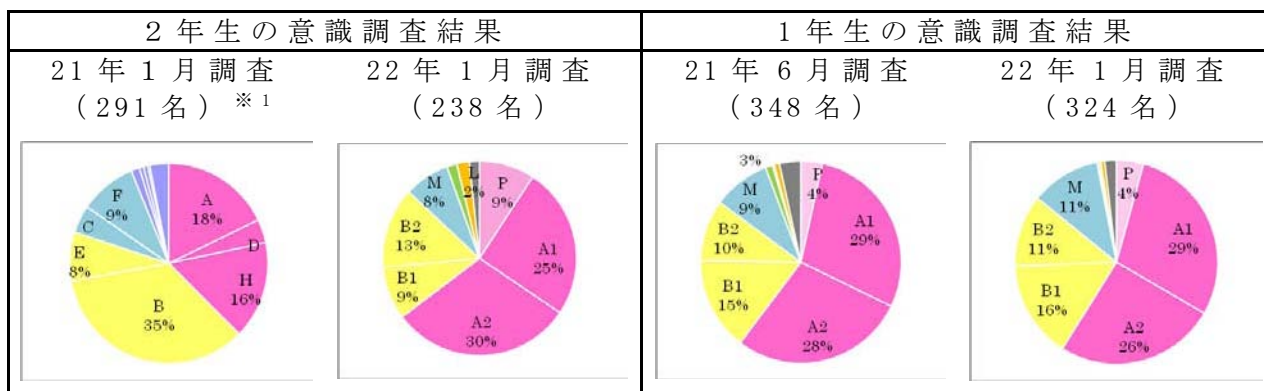
1年生での栄養士・管理栄養士の仕事のイメージを描くこと、1～3年生の「健康栄養学科キャリア支援講座」における卒業生の講演は目指す管理栄養士の職場に対する就労意識の喚起・醸成に効果があったと考えられる。

⑥ 社会福祉学科

1年次の基礎演習から自らの将来像を意識して、その実現に必要な知識・技術を習得するための学習意識を高めるための内容とした。特に、多くの学生が、ゲストスピーカーの話や現場での見学を経験から、その意識は持つ効果があった。また、本学科では、「キャリアデザイン講座Ⅰ」を履修するよう指導しており、履修率は非常に高い。

(3) 就労意識調査の結果

就労意識の喚起測定としては、1, 2年生を対象にアンケートを実施した。平成21年1月に実施したアンケート(図3)、平成21年6月(図4の上部)、平成22年1月(図4)と都度必要と考えられる改善を行いながら実施した。



赤系統：就職して、ずっと働きたい
 黄系統：家事や育児中は、仕事は休みたい
 青系統：就職するがいつかやめる

※1) 平成21年1月実施の初回アンケートでは、1年生には「結婚」が現実的な言葉として受け取ることが難しいとの意見があり、6月実施のアンケートから、設問の見直しを実施した。先に働く事をイメージさせ、人生の延長上には、家事や育児・介護といった選択があることを意識させるアンケートへの変更を行った。

以上の実施結果から考えられるまとめ

- 就職して、ずっと働きたい学生は半数以上
- 就職するがいつかやめるといふ学生は、2年生の方が少ない
- 家事や育児中は、仕事は休みたい学生は1年生の方が多い

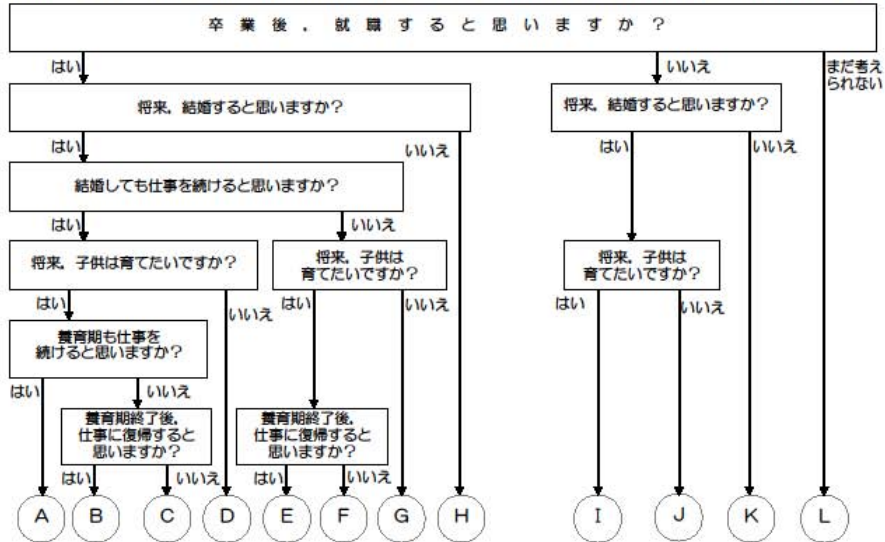
キャリア教育推進センター提出用(今後のカリキュラム等の参考とするものです。無記名部分の提出にご協力ください。)

回答日	年齢	学生証番号の上3桁 (例) 089	現在の意識タイプ	一年間の振り返り	状況が変わった場合 の別添
年 月 日					

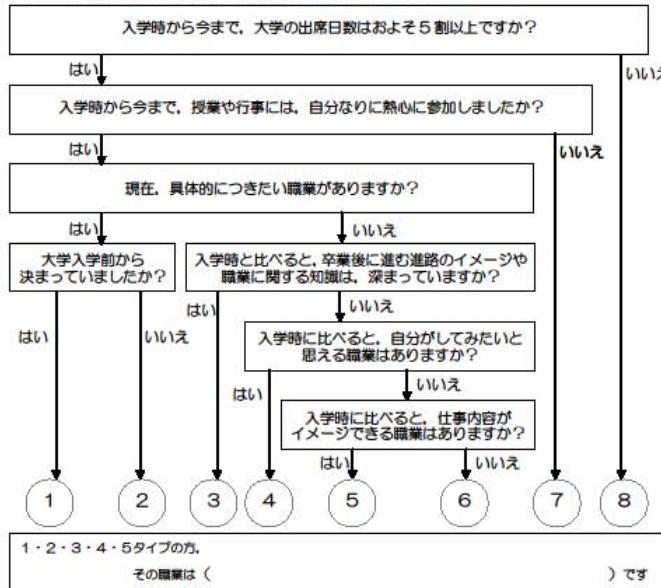
きりとり

就労意欲に関する意識調査(1年生用)

◆ (現在の意識タイプ) 現在の考えで、あなたの将来について質問にそって進み、到達タイプ1つに○をつけると共に、上記記入欄に記入してください。



◆ (一年間の振り返り) 大学生に入学した頃を思い出して、質問にそって進み、到達タイプ1つに○をつけると共に、上記記入欄に記入してください。



※ 学生証番号と氏名は、各学部学科の先生の指示に従い、必要な部分のみご記入ください

学生証番号 _____ 氏名 _____

この調査用紙に記入されたあなたの個人情報は、意識調査の目的以外に使用することなく、第3者に開示することはありません。

◆ (状況が変わった場合の対応) 次の質問に答え、1つに○をつけると共に、上記記入欄に記入してください。

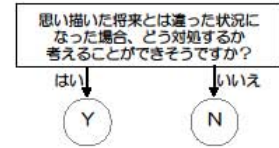


図3 平成21年1月実施 就労意識調査
(京都女子大学のアンケートを参考に作成)

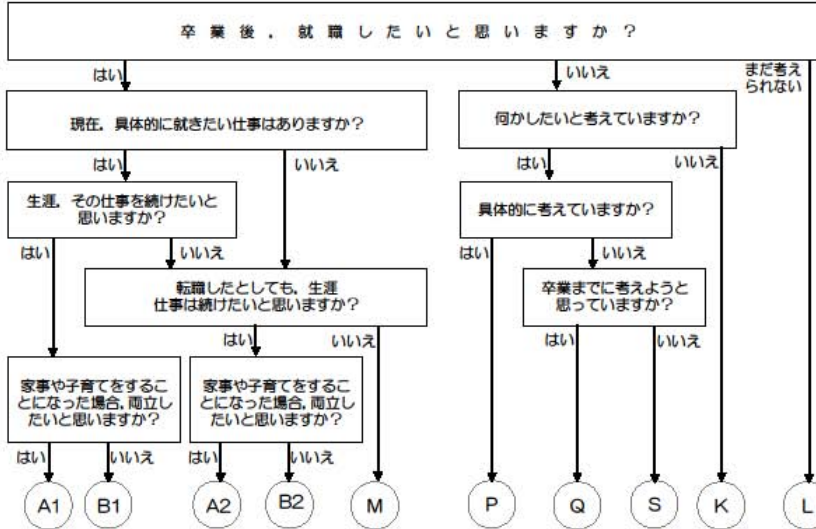
キャリア教育推進センター提出用（今後のカリキュラム等の参考とするものです。提出にご協力ください。）

回答日	年齢	学生証番号の上3桁 (部) O 9 日	現在の意識タイプ	状況が変わった場合 の対応	一年の振り返り	学生生活について	(差し障りなければ) 就きたい職種や業種
年 月 日							

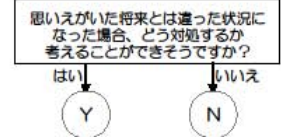
きりとり：下部が必要な学生は切り取って上部のみ提出してください

就労意識調査（1，2年生用）

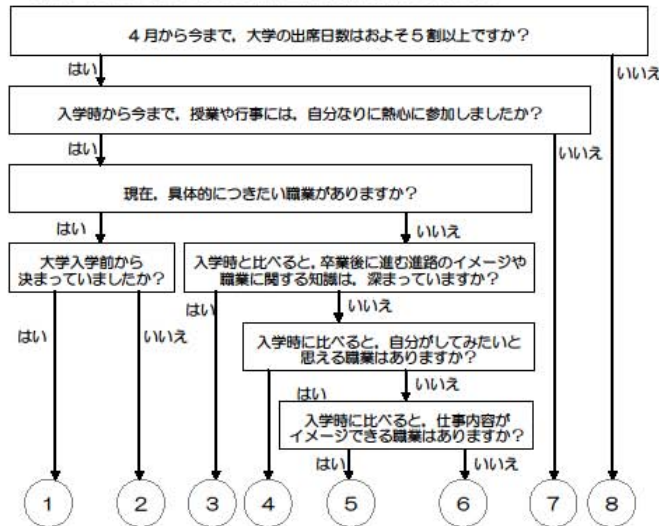
◆（現在の意識タイプ）現在の考えで、あなたの将来について質問にそって進み、到達したタイプ1つに○をつけると共に、上記記入欄に記入してください。



◆（状況が変わった場合の対応）次の質問に答え、1つに○をつけると共に、上記記入欄に記入してください。

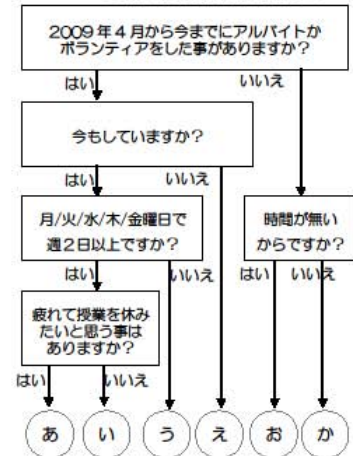


◆（一年間の振り返り）2009年4月の頃を思い出して、質問にそって進み、到達タイプ1つに○をつけると共に、上記記入欄に記入してください。



◆（学生生活について）

次の質問に答え、1つに○をつけると共に、上記記入欄に記入してください。



◆ 差し障りなければ、上記記入欄に、就きたい職種や業種を記入してください。

図4 平成22年1月実施 就労意識調査

(4) 今後の課題

現在、就労意識に関しては低学年でのみアンケートを実施としている。前述の取組が低学年向けの実施内容が中心である事と、4年生には「学生生活に対する満足度」や「進路に関するアンケート」を実施しており、学生への負担軽減を考慮してである。今後、アンケートの負担軽減策を考えることで、卒業時点での就労意識調査により4年間の学習効果を測定について検討が必要である。

2.2 「基本的能力の養成」に関する取組

本取組目標の「基本的能力の養成」では、社会に出て働くときに基本的に必要とされる「読む、書く、聞く、話す」などの「理解力、表現力、論理的思考力」といった基本的能力を、徹底して養成した。リメディアル教育を中心に、個々の能力に応じて学習できるe-ラーニング教材を取り入れた内容となっている。取組効果の測定としては、入学時・就職活動開始時に実施するアセスメントにより測定を行った。本取組期間が、2年6ヶ月であることから、同学生での経年比較はできなかったが、大学全体としての目安として、全国偏差値での効果報告とした。

(1) 実施項目と特徴・内容

① 基礎ゼミ

15名以下の少人数ゼミで行う必修科目。各学科の学習で必要となる基礎的な能力を育成する事を目的の一つとした。

② ラーニンググループ

個別対応教育として、先輩学生（3年生中心）から後輩（1年生）への個別アドバイスにより大学生活をサポートすることを目的とした。各学科単位でルーム開設し、決められた時間内は、先輩学生（SA）が待機し、相談希望者の対応を行った。

学科によっては必要な知識のリメディアル教育の役割も担っており、基礎統計・文章表現力テスト・漢字検定対策講座などのテーマに従った学習支援も行った。

③ クラスアドバイザーの個別面談

全学年で担任制の構成にしており、教員による個別面談を実施し

た。その中で、基礎的な能力を把握し、学習を補うように指導を行った。

④ 国語基礎教育

リメディアル教育として、本学学生の苦手分野のオリジナル教材を開発し講座で活用した。

⑤ 新英語教育

教育の ICT 化を実現し、音声学習を可能としたオリジナル e ラーニング教材を開発し、授業に活用した。自宅学習により、学生個人の学力と進度に応じた学習が可能で、音声教材は携帯音楽プレイヤーにもダウンロードすることが出来る。iTunes を利用するとポッドキャスト機能により自動ダウンロードすることができ、iPod を使用したモバイル学習の環境を実現した。

⑥ 導入教育（大学基礎講座）

文章作成能力や漢字識字能力といった、大学の授業を受けるために必要な能力を学習した。

⑦ ICT リテラシー教育（情報処理）

コンピュータリテラシーに関する実習を中心とした講座を実施した。

⑧ e ラーニング教材による自習教育

Web システムに e ラーニング環境を構築し、実績のある以下の教材を導入し、自習するよう指導した。

- ・ TOEIC 写真描写問題
- ・ TOEIC 応答問題
- ・ リメディアル統計学 I
- ・ 簿記入門
- ・ 正しい日本語入門

(2) 実施結果

上記実施項目に関して、各学科・関連部署において年間計画を作成し、それに基づき実施した。実施状況は、共通フォーマットにまとめキャリア教育推進連絡会で報告し情報共有を行った。取組期間を振り返った各学科からの実施結果報告は以下のとおりであった。

① 日本語日本文学科

学生への周知、提供する内容に工夫すべき余地があり、未実施の内容が出たが、実施した項目については効果をあげることができた。

② 国際英語学科

本学では、英語力の向上が最大の目標だが、各種英語強化科目での授業を通して、ある程度の効果が上がった。

③ 全学共通教育センター

各取組において学生に促しており、学生は素直に反応し意欲を見せてはいるが、学生はある一定レベルに到達した時点でそれ以上を目指さなくなる傾向がある。

④ 人間関係学科

ラーニングルームでの数学、英語リメディアル教育で一定の効果があがっている。学生のモチベーション維持とプレースメントテストでの苦手分野の分析等が今後の課題であると考えている。

⑤ 健康栄養学科

入学時の学生の基本的能力に差があるが、理数系を中心としたリメディアル教育等による底上げについて検討していきたい。

⑥ 社会福祉学科

本学科では、大学基礎講座Ⅰを履修するようにも指導しており、履修率は非常に高くなっている。

平成20年度は1年生を対象に文章表現力テストを導入し、テキストを用いた文章表現の学習も実施した。平成21年は1、2年生を対象に文章表現力テストを実施し、さらに1年生を対象に日本語力テストを実施した。文章表現力テストは1、2年次を比較すると2年年次の結果が1年次をよりも低くなっており原因の追及が必要である。

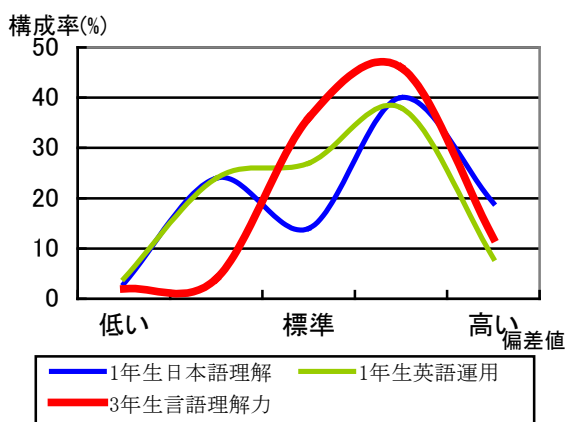
一方で21年度1年生は現2年生の1年次よりも若干基礎能力が高い結果となった。今後これら（文章表現力・日本語能力テスト）の結果をふまえてどのように能力を伸ばすよう指導していくが検討を要する。

(3) 成果

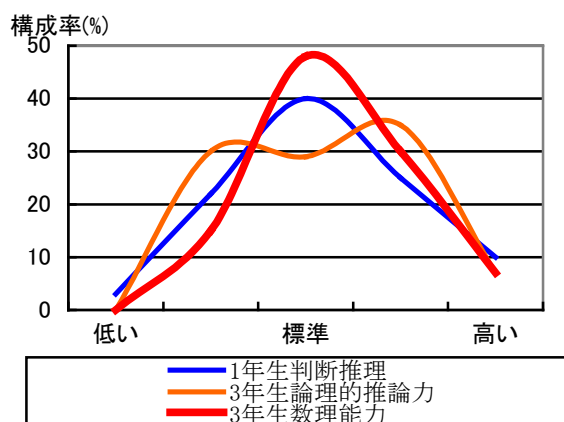
基本的能力の測定としては、入学時に実施するベネッセコーポレーションのアセスメント「自己発見レポート」と3年生の就職活動開始時に実施する「キャリアアプローチ（職業適性検査）」の基本的能力の全国偏差値により、効果測定を実施した。本取組実施後の測定を開始したアセスメントであるため、1年生に関しては、平成20、21年入学の2学年で実施し（入学直後の4月実施）、3年生に関しては、平成17～19年入学の3学年で実施した（平成19～21年11月実施）。同学年生を対象にした経年比較はまだ測定できない状況ではあるが、全国偏差値であることから、大学としての教育効果について取組成果の推定はできると考える。以下にその結果を報告する。

受診人数	平成19年度	平成20年度	平成21年度
自己発見レポート（1年生）	未実施	168名	253名
キャリアアプローチ（3年生）	191名	179名	188名

平成21年度言語能力全国偏差値
1・3年生構成比較



平成21年度数理能力全国偏差値
1・3年生構成比較



上記は、平成21年度実施の自己発見レポート（1年生）とキャリアアプローチ（3年生）の全国偏差値を比較したグラフである。寒色系グラフは1年生、暖色系グラフが3年生の偏差値分布である。

言語能力に関しては、1年生では「標準よりやや低い」ところに、20%強の学生集団が見受けられ、2極化されており、3年生においては「標準からやや高い」学生集団が大きく増加していることがわかる。3年生で偏差値の低い分布が標準に移行していることから、言語理解力に関しては、低学年での基本的能力の教育効果が表れていると予測できる。22年度、3年生に対して「キャリアアプローチ（職業適性検査）」を実施することで、経年比較が実現できることよりその成果確認を実施できる見込みである。

1年生の判断推理が、標準をピークに左右対称の構成になっていることに比べ、3年生の数理能力は、「標準からやや高い」部分に分布のふくらみが見受けられることより、取組効果が表れていと予測できる。しかし、論理的推論力に関しては、「やや低い」と「やや高い」にピークが分散することより、得意不得意に分離していることが予測される。この点に関しては、「間違っている」のか、あるいは「未回答（問題放棄）」なのか、回答状況を分析し、問題に馴染むこと（反復練習）について検討が必要と考える。

（４）今後の課題

学生の学力に差があるため、正課教育として効率的な学習を行うためには、学力別のクラス分けが必要であるが、実際には困難な点がある。中にはやる気が続かない学生も存在する為、e-ラーニング等、学力に応じた学習環境の更なる充実と学習意欲を継続する方法について検討が必要である。

2.3 「社会人基礎力の養成」に関する取組

本取組の目標「社会人基礎力の養成」は、「基本的能力の養成」をさらにすすめて、プレゼンテーション能力、コラボレーション能力（人と共同して問題の解決に当たる能力）、問題発見力・解決能力、情報システム活用能力、英語力等のより実践的で高度な社会人基礎力を養成する。正課教育のみならず、正課外教育として、2,3回生を中心とした希望者への「社会人基礎力養成講座」「スキルアップ講座」を開講した。

その成果指標として、希望者を対象として、株式会社ジェイ・エス・エルのHQ（Human Quotient[®]）テストを取り入れた。その結果を以下に報告する。

（１）実施項目と特徴・内容

- ① インターンシップ・専門実習（教育実習・栄養士の臨地実習・社会福祉現場実習）

実際に働く現場を体験することで、就労意識の醸成と社会人基礎力の養成を行った。

- ② 専門課程（専門ゼミ等）

専門課程教育（専門ゼミ等の正課教育）で、実務に必要な資格取得に関する教育の充実や社会で働く卒業生との交流により社会を身近に感じる教育を行った。

学生の協調学習を促す授業環境の構築、グループワーク、ロールプレイ、ケーススタディ等、実際の働く環境に近い体験型学習を行った。

③ 社会人基礎力養成講座Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（正課外教育）

YESプログラムに準拠したテキストを活用し、企業に精通した外部講師による講義を実施する。ⅠとⅡは2年生、Ⅲは3年生を対象としており、以下のような内容の講座を実施した。

社会人基礎力養成講座Ⅰ：読み書き・コミュニケーション

ビジネス文書の書き方など社会人として必要な読み書きに関することとコミュニケーション技術について、講座と演習を交えて学習を行った。

社会人基礎力養成講座Ⅱ：実務計算・社会人常識

税金、利益率など社会で必要な実務計算と、社会動向など社会人常識について学習を行った。

社会人基礎力養成講座Ⅲ：ビジネスマナー

あいさつの仕方、敬語の使い方、伝言などビジネスマナーについて体験を交えた学習を行った。

④ スキルアップ講座（正課外教育）

資格取得支援、就職活動支援として、以下の対策講座を開講する。

一般企業筆記試験・公務員試験対策講座

話しことば検定対策講座

面接スキルアップ講座

日本語検定対策講座

（2）実施結果

上記実施項目に関して、各学科・関連部署において年間計画を作成し、それに基づき実施した。実施状況は、共通フォーマットにまとめキャリア教育推進連絡会で報告し情報共有を行った。取組期間を振り返った各学科からの実施結果報告は以下のとおりであった。

① 日本語日本文学科

各教員によって取り組みの方法・内容にばらつきがあったが、学生の反応を見ると、おおむね効果があったと考えられる。

② 国際英語学科

学生のコミュニケーション力のアップ、PowerPointなどを使った説明、

各種書類の書き方など、ゼミ授業を通して、一定の成果を挙げた。

③ 全学共通教育センター

各取組において学生に促しており、学生は素直に反応し意欲を見せてはいるが、学生はある一定レベルに到達した時点でそれ以上を目指さなくなる傾向がある。但し、実際に学生の能力を向上させるには十分な時間と教える側の根気よい指導が必要。

④ 人間関係学科

かなり常識に近いレベルの項目が多く、取り組みの成果かどうか判別しにくい。教員間での意識共有は大いに図ることができた。

⑤ 健康栄養学科

専門科目、特に臨地実習は栄養士・管理栄養士になるための社会人基礎力（調査分析力、プレゼンテーション力、レポート作成能力、コラボレーション力、ICT活用能力）を強化するうえで一定の効果があった。

⑥ 社会福祉学科

3年次では実習を通じ、自らの実習における問題や疑問ゼミ員とのディスカッションを通じ解決策を考え、実習にて試すなどして問題解決に取り組む力を養った。

社会福祉現場実習（インターシップ・専門実習）においては、学生の学状況、到達レベルから判断すると個別指導に十分な時間を要する。しかし授業運営面については、今年度より実習指導と実習の教員を固定したことによってスムーズな実施ができたといえる。

⑦ 学生キャリア支援センター

3年生向けの社会人基礎力養成講座Ⅲ（ビジネスマナー）では目的意識をもった参加者が多く、出席者の満足度は高い。しかし、2年生向けⅠ、Ⅱの開講で、申し込み者を増やす工夫が必要。出席率が低下していく点の改善も検討が必要である。

（3）成果

社会人基礎力の測定としては、株式会社ジェイ・エス・エルのHQ（Human Quotient®）テストを利用した。平成19年度に試行的にWebによる受診を実施したところ受診者は約30名であった。平成20年度は、3年生を対象にマークシートに受診を行ったところ、受診者は118名、WEB受診は32名であった。平成21年度は、全学年を対象にマークシートによる受診を取り入れた。

平成 21 年度の受診状況と受診結果を以下に報告する。

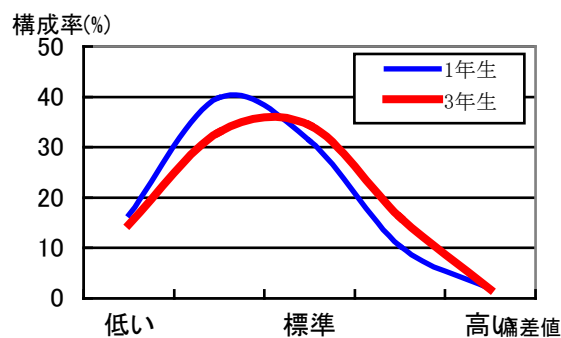
① 受診状況

	1 年 生	2 年 生	3 年 生	4 年 生
受診数	2 1 1	1 5 2	2 4 4	1 7 1
受診率 (対在籍数)	5 2 %	4 1 %	6 0 %	3 9 %

② 1 年 生 と 3 年 生 の 自 己 評 価 比 較

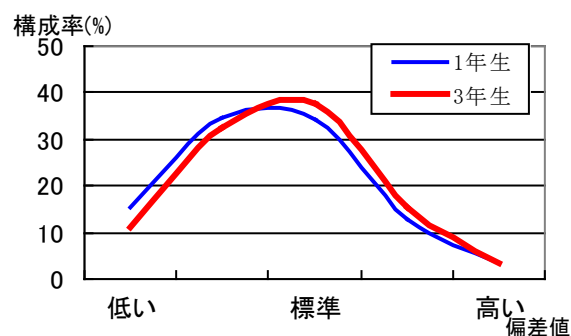
【前に踏み出す力】自己評価

1 年 生 に 比 べ、3 年 生 の 自 己 評 価 が 高 く、自 信 が つ い て き て い る こ と が わ か る。



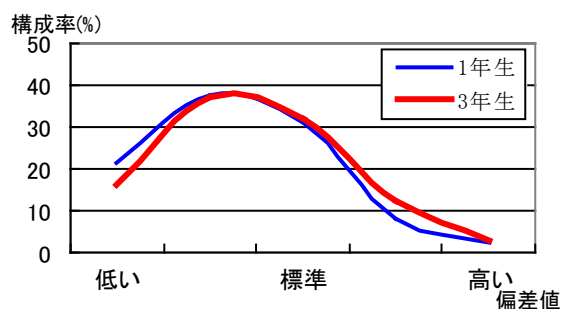
【考え抜く力】自己評価

学 年 が 上 が る に 伴 い、自 己 評 価 が 低 い と 考 え る 学 生 が 減 り、平 均 的 以 上 に シ フ ト し て い る こ と が わ か る。

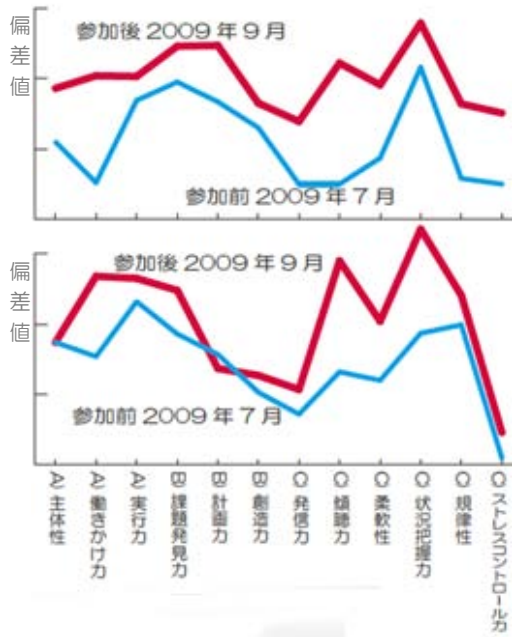


【チームで働く力】自己評価

偏 差 値 が 高 い 方 向 に シ フ ト し て い る も の の、平 均 的 よ り 低 い 位 置 に ピ ー ク が あ る 点 が、今 後 の 課 題 で あ る。



③ インターンシップ参加前後の社会人基礎力比較事例



学生 A) 社会人として就労体験することで、全体的に自信がついた事例

学生 B) インターンシップ体験の中に「働きかけ」「傾聴力」「状況把握力」を必要とする実習があり、実体験することで自信がついた顕著な事例

また、社会人基礎力の成果のひとつとして、経済産業省主催の社会人基礎力育成グランプリに参加し、外部発表を体験した。

経済産業省主催
社会人基礎力
育成グランプリ
2010

西日本予選大会
奨励賞受賞



(4) 株式会社ジェイ・エス・エルによるH Qサーベイ報告

社会人基礎力測定としては、HQ (Human Quotient®) テストを、平成 19 年度に試行的に実施した。20 年度は 3 年生の希望者全員を対象に実施、21 年度は全学年の希望者を対象に実施した。

その結果は受診者個々の診断結果の他、サマリー情報として、社会人と比較した分析 (HQ サーベイ) 報告が得られた。その分析結果を 2 年間連続で受診した学年で、その経年比較を以下に報告する。

① 日本語日本文学科 (平成 20 年度 21 名受診、平成 21 年度 42 名受診)

	3 年生時点の結果分析	JSL アドバイス	社会人基礎力 自己評価上位 3	社会人基礎力 自己評価下位 3
	4 年生時点の結果分析			
H20	自己主張をするよりも相手の状況や気分に合わせて対応を変化させる傾向が見られます。	自分の意思や考えを相手に伝える努力をすることにより、コミュニケーション能力などはもっと向上すると考えられます。	(チームで働く力) 状況把握力 (考え抜く力) 課題発見力 (考え抜く力) 計画力	(チームで働く力) ストレス耐性 (前に踏み出す力) 主体性 (前に踏み出す力) 実行力

H21	<p>自分が行う学問や研究に対して、ある程度の自己完結性を持ちながらも、自己に対する「まだまだ成長する余地がある」という思いを持ちながら研究・学習を行っているように見受けられます。同学科1年に比べ、一般社会人女性に比べて波形や差が近しくなっていることから、社会に向けての自己認識力が備わってきているように見受けられます。</p>	(前に踏み出す力) 実行力	(チームで働く力) ストレス耐性
		(考え抜く力) 課題発見力	(前に踏み出す力) 主体性
		(チームで働く力) 状況把握力	(チームで働く力) 規律性

② 英語英米文学科（平成20年度15名受診、平成21年度32名受診）

	3年生時点の結果分析	JSL アドバイスの結果分析	社会人基礎力 自己評価上位3	社会人基礎力 自己評価下位3
	4年生時点			
H20	<p>自ら目標を設定する力はやや弱い傾向が伺えますが、Goalが確定していることに対しては、事前にしっかりスケジュールを組みコツコツと取り組む姿勢が伺えます。</p>	<p>常にあらゆる媒体から情報を収集する意識を持つことにより、今、必要とされる知識やスキルが明確になり自らGoalを設定する力が養われる可能性が考えられます。</p>	<p>(チームで働く力) 状況把握力</p> <p>(チームで働く力) 規律性</p> <p>(チームで働く力) 柔軟性/傾聴力</p>	<p>(チームで働く力) 発信力</p> <p>(前に踏み出す力) 主体性</p> <p>(考え抜く力) 計画力</p>
H21	<p>自己の研究や学習に対して一定の品質を保ちつつ完了させることができる自信を持ちながら、社会人として必要であると考え、成果に対する考え方や、説明責任に対して弱みを感じているように見受けられます。</p>		<p>(チームで働く力) 状況把握力</p> <p>(前に踏み出す力) 働きかけ力</p> <p>(考え抜く力) 柔軟性</p>	<p>(チームで働く力) 規律性</p> <p>(チームで働く力) ストレス耐性</p> <p>(チームで働く力) 発信力</p>

③ 人間関係学科（平成 20 年度 58 名受診、平成 21 年度 47 名受診）

	3年生時点の結果分析	JSL アドバイス	社会人基礎力 自己評価上位 3	社会人基礎力 自己評価下位 3
	4年生時点の結果分析			
H20	環境の変化にやや弱く、自ら積極的に働きかけるよりも徐々に関係を構築していくコミュニケーションスタイルを好む傾向が伺えます。	意識的に自分から相手に話しかける意識や努力をすることで、積極性がより備わると考えられます。	(チームで働く力) 傾聴力 (考え抜く力) 課題発見力 (考え抜く力) 計画力 (前に踏み出す力) 働きかけ力	(チームで働く力) ストレス耐性 (チームで働く力) 発信力 (前に踏み出す力) 主体性
H21	リスクを排除するために物事を様々な観点から分析することに対しては強みを感じているように見受けられますが、基本的には自己に対してあまり自信がないように見受けられます。		(前に踏み出す力) 実行力 (前に踏み出す力) 働きかけ力 (考え抜く力) 柔軟性	(チームで働く力) 発信力 (チームで働く力) ストレス耐性 (前に踏み出す力) 主体性

④ 健康栄養学科（平成 20 年度 15 名受診、平成 21 年度 0 名）

	3年生時点の結果分析	JSL アドバイス	社会人基礎力 自己評価上位 3	社会人基礎力 自己評価下位 3
	4年生時点の結果分析			
H20	多くの人と関わりながら物事を進めるよりも、自分の関心のあることに対してこだわり、確実に遂行するスタイルを好む傾向にあるようです。	チームで行なう行事や取り組みの機会を増やすことで、コミュニケーション能力をより高められると考えられます。	(前に踏み出す力) 実行力 (考え抜く力) 創造力 (チームで働く力) 柔軟性	(チームで働く力) 規律性 (チームで働く力) 発信力 チームで働く力) ストレス耐性
H21	スケジュールの関係で未実施			

⑤ 社会福祉学科（平成 20 年度 22 名受診、平成 21 年度 50 名受診）

	3 年生時点の結果分析	JSL アドバイス	社会人基礎力 自己評価上位 3	社会人基礎力 自己評価下位 3
	4 年生時点の結果分析			
H20	自己主張をすることをやや避けられる傾向が見られますが、基本的に人と接することを好み、相手を思いやっただ対応を心がけている様子が伺えます。	相手の気持ちを大切にすると同じように、自分の意思も大切にすること、自分の思いを相手に伝える重要性をより認識することができると考えられます。	(前に踏み出す力) 働きかけ力 (考え抜く力) 創造力 (チームで働く力) 柔軟性	(チームで働く力) 発信力 (チームで働く力) ストレス耐性 (前に踏み出す力) 実行力
H21	学生はあまり自信を持っていないように見受けられます。自己を律しながら自分の行動に対して理由をもって動くことがあまり得意ではないように見受けられます。ただし、波形に関しては一般女性社会に近く、自信をもたせる事により、社会で活躍する女性と同様のスキルを持つことができる素養を持っているように見受けられます。		(前に踏み出す力) 働きかけ力 (チームで働く力) 傾聴力 (チームで働く力) 状況把握力	(チームで働く力) ストレス耐性 (チームで働く力) 規律性 (チームで働く力) 発信力

(5) 今後の課題

社会人基礎力養成講座（特に 2 年生を対象とした I と II）の受講率が低く、正課科目だけの教育では、不十分と考えられる。今後、この講座の受講率を向上するための施策を検討する必要がある。

また、「チームで働く力」が弱いことから、「チームで働く力」について自信をつけるために、大学での学習や各種の取組・イベントでチーム活動の場を提供する環境をつくる必要があると考えられる。

2.4 支援環境

上記、取組目標を達成するための支援環境について報告する。

(1) 実施項目と特徴・内容

① 学生ポータルサイト

学内や自宅のパソコンからインターネットを通じて、学生一人ひとりの大学生活をサポートするさまざまな情報にアクセスできるポータルサイト。教務関係の諸手続き・各種情報の照会・教職員とのコミュニケーション・授業支援・就職支援などたくさんの機能を持った総合情報処理システム。



② 就職支援システム

本学に来ている求人情報を検索するシステム。学生自身が勤務地や職種などの条件により検索し、希望の企業を学生キャリア支援センターに申し出て手続きを行う。



③ 学生面談システム

学生の面談データを一元的に保存・管理し、学生の状況を詳細に把握し、これにより学生個々の状況に応じた迅速・的確な支援・指導を行う。



④ e-ポートフォリオ

在学中を通して、学生生活の記録を残す。学生と担当教員の交換日記形式で、教員の指導により学生の成長を促し、卒後の進路を考える時期に参考にする。

⑤ 学外実習支援システム

学外実習に必要な情報を一つに集め、実習中に大学に来なくても、実習先や自宅から情報の閲覧ができ、レポートなどの提出もできる。社会福祉の学外実習支援システムをモデルケースとして、教育実習支援システム、インターンシップ支援システムを順次開発した。

1. 社会福祉の学外実習支援システム
2. 教育実習支援システム
3. インターンシップ支援システム



⑥ eラーニング

オリジナルのeラーニング教材開発、及び市販のeラーニング教材を導入することで、学生の自習環境を整備した。

1. 論文添削（オリジナル）

学生は論文作成をWordで行う為、教員もWordのファイルにコメント追加を行い、ファイルで返却した。24時間自宅からの提出も可能で、提出履歴の管理を自動化した。

2. 新英語教育（オリジナル）

音声学習を可能とした教材を開発し、授業に活用した。

3. 漢検 WBT (市販教材)
4. TAC 基本情報技術者午前対策コース (市販教材)
5. TOEIC 写真描写問題 (市販教材)
6. TOEIC 応答問題 (市販教材)
7. リメディアルコース統計学 I (市販教材)
8. 簿記入門 (市販教材)
9. レポート作成入門 (市販教材)
10. プレゼンテーション入門 (市販教材)
11. ディベート入門 (市販教材)
12. 就職活動入門 (市販教材)
13. 就職面接入門 (市販教材)
14. 正しい日本語入門 (市販教材)
15. 社会人マナー入門 (市販教材)
16. 働く意義と会社のしくみ (市販教材)

⑦ 正課科目の VOD 講義

教職科目「教育方法論」、情報リテラシー科目「コンピュータ基礎」「ネットワーク基礎」に関する VOD 講義を実施した。

2.5 広報

本取組の広報について報告する。

(1) 実施項目と特徴・内容

① 学生への周知

新入生オリエンテーションで、キャリア教育について説明を行った。在学生には年度初めにパンフレット（資料1）を配布し、本事業関連科目の1回目の授業では、GPに関する説明を行った。

学生デザインによるロゴマークを作成し、関連教材や資料への表示を行い、関連事業でのアナウンスを明確にした。GP啓発ポスター（資料2）を作成し、教室に掲示し周知を図った。



② 合同フォーラム・ポスターセッション出展

平成19年度、選定時に出展（資料3）。

平成21年度、完成年度報告時に出展（資料4）。

③ 結果報告書作成

平成19年度、平成20年度に年度報告を作成。完成年度に最終成果報告書（本報告書）を作成。

④ シンポジウム

平成21年3月7日（土）中間報告会をかねたキャリア教育シンポジウム「社会人基礎力を考える」を本学徳風館6階小講堂で実施（資料5）。

⑤ 最終成果報告会

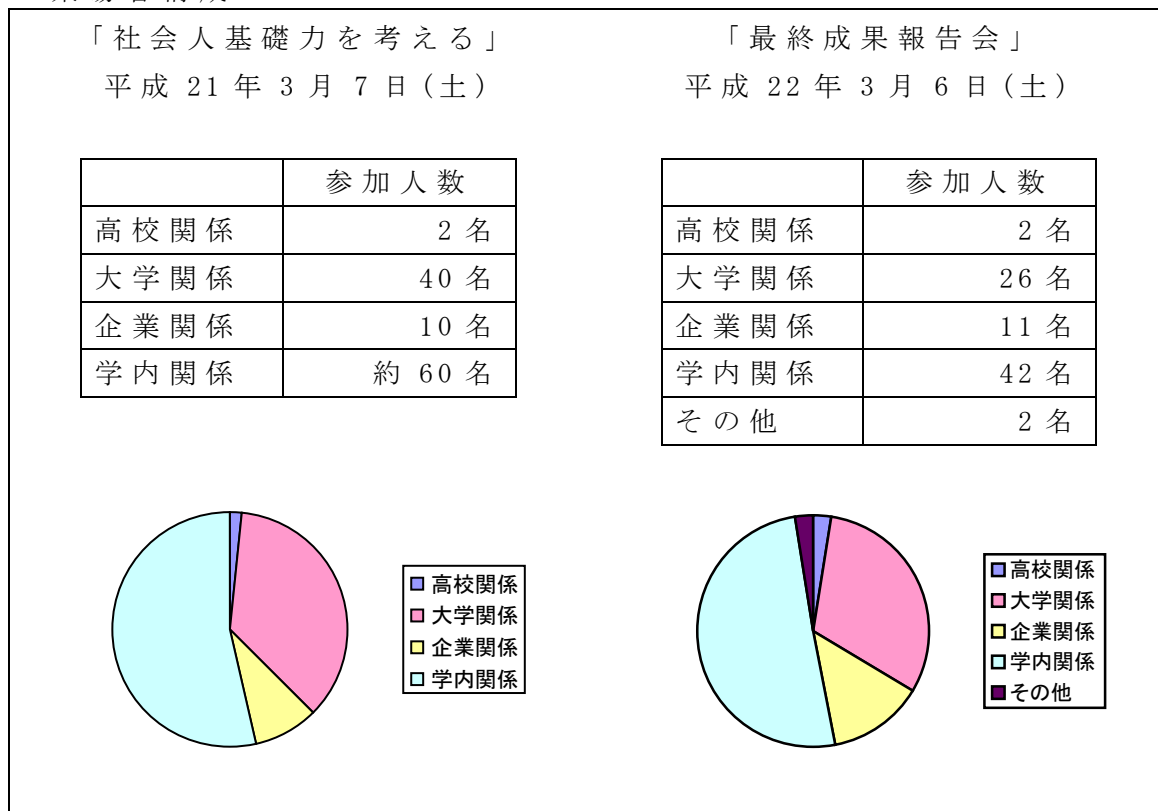
平成22年3月6日（土）最終成果報告会を京都駅前（京都センチュリーホテル 千寿の間）で実施（資料6）。

本取組の基本報告（資料7）に引き続き、外部評価委員からの評価報告を行った。その後、各学科・関連部署の取組担当者による成果報告（資料8）を行った。

(2) キャリア教育シンポジウム・最終成果報告会 実績報告

キャリア教育シンポジウム、及び最終成果報告会では、来場者にアンケートを依頼し、目的や感想について貴重なご意見を賜った。

① 来場者構成



② 最終成果報告会アンケートでのコメント (抜粋)

- ・ いかにも現代の学生に有効な授業を時代の流れに合わせて本気で考えているのを知り驚きました。
- ・ 教職員の方々の熱意、団結があつての成果であつたのだろうなと感動しました。
- ・ 各先生方 10 名が少しずつ成果を発表されたこと自体全学的取組の成果といえると思いました。
- ・ 女子大におけるキャリア教育はトップ、教員、職員それぞれがその目標・意義を共有することが非常に重要であること、成功のポイントはそれができているか否かにかかわっていることを痛感しました。
- ・ GP への取り組みがキャリア形成学部の設置として見える形となって成果に結びついている点が素晴らしいと感じた。
- ・ (企業を含め) 地域との連携の視点について考える機会があればと思いました。

2.6 評価

本取組の評価について報告する。

(1) 実施項目と特徴・内容

① 外部評価

平成20年度 中間外部評価、平成21年度 最終外部評価を外部の有識者を招いて実施した。

平成20年度 中間外部評価委員

キャリアコンサルタント 金子 清美氏

平成21年度 外部評価委員

京都女子大学 現代社会学部現代社会学科

同 大学院 現代社会研究科 教授 榎村 久子氏

元(社)日本造園学会理事

(社)日本都市計画学会評議員

(財)大阪市女性協会研究室室長・副理事長

NPO法人淀川さくら街道ネットワーク理事長

国土交通省国土審議会水資源部会専門委員

地球環境関西フォーラム100人委員会委員

たけだ病院経営研究所 所長 栗原 伸治氏

元京都中央信用金庫 専務

稲盛財団評議員

稲盛福祉財団評議員

盛和福祉会評議員

京都西ローターリークラブ会員(元会長)

② キャリア教育推進連絡会議（内部評価）

各学科、関連部署の代表委員が参加して毎月1回、実施計画や内容について情報共有・意見交換を行うことで取組を評価し、都度、改善を行った。

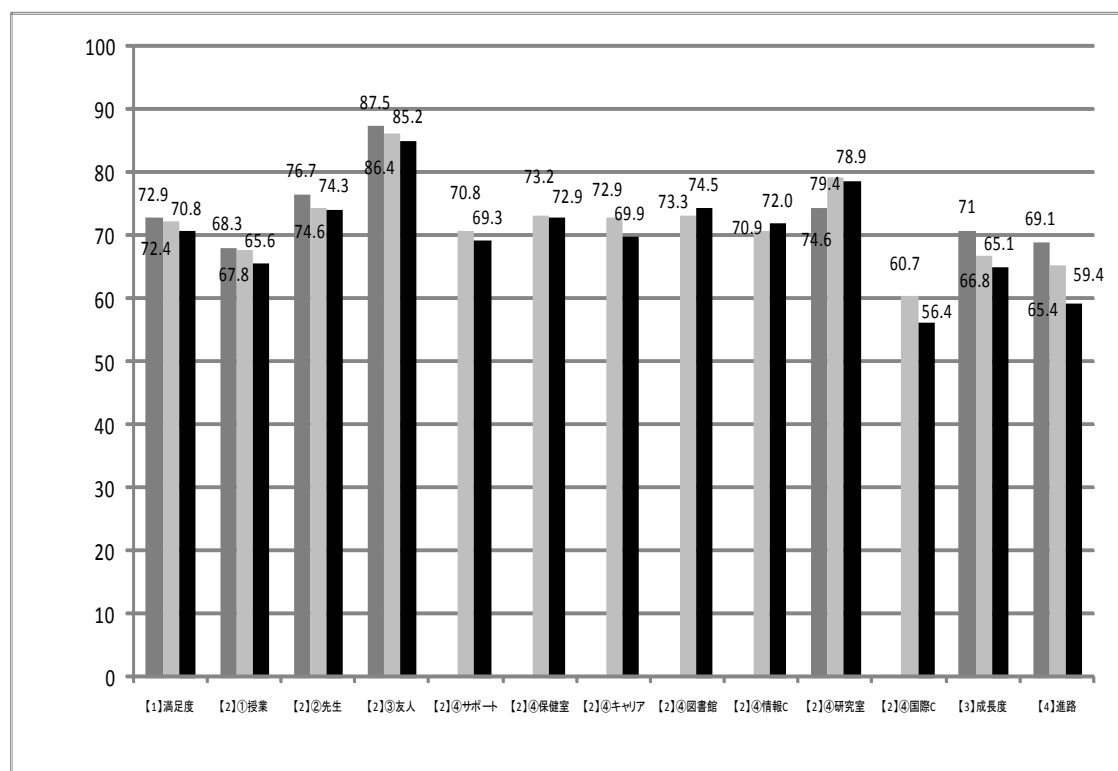
- (1) 平成19年度第一回キャリア教育推進連絡会議（11月7日）
- (2) 平成19年度第二回キャリア教育推進連絡会議（1月24日）
- (3) 平成19年度第三回キャリア教育推進連絡会議（3月14日）
- (4) 平成20年度第一回キャリア教育推進連絡会議（4月24日）
- (5) 平成20年度第二回キャリア教育推進連絡会議（5月22日）
- (6) 平成20年度第三回キャリア教育推進連絡会議（6月19日）
- (7) 平成20年度第四回キャリア教育推進連絡会議（7月24日）
- (8) 平成20年度第五回キャリア教育推進連絡会議（9月25日）
- (9) 平成20年度第六回キャリア教育推進連絡会議（10月23日）
- (10) 平成20年度第七回キャリア教育推進連絡会議（12月4日）
- (11) 平成20年度第八回キャリア教育推進連絡会議（1月22日）
- (12) 平成20年度第九回キャリア教育推進連絡会議（2月19日）
- (13) 平成20年度第十回キャリア教育推進連絡会議（3月18日）
- (14) 平成21年度第一回キャリア教育推進連絡会議（4月23日）
- (15) 平成21年度第二回キャリア教育推進連絡会議（5月21日）
- (16) 平成21年度第三回キャリア教育推進連絡会議（6月25日）
- (17) 平成21年度第四回キャリア教育推進連絡会議（7月23日）
- (18) 平成21年度第五回キャリア教育推進連絡会議（9月24日）
- (19) 平成21年度第六回キャリア教育推進連絡会議（10月22日）
- (20) 平成21年度第七回キャリア教育推進連絡会議（11月26日）
- (21) 平成21年度第八回キャリア教育推進連絡会議（12月17日）
- (22) 平成21年度第九回キャリア教育推進連絡会議（1月28日）
- (23) 平成21年度第十回キャリア教育推進連絡会議（2月25日）
- (24) 平成21年度第十一回キャリア教育推進連絡会議（3月18日）

③ 学生満足度調査（４年生）

調査目的

- ① 現代 GP 「実践的総合キャリア教育の推進」における取組の評価の一環として、卒業時点での満足度を測定する。
これを毎年実施し、その経過を観測することにより、キャリア教育の成果を測定・評価する。
- ② 従来（H18年度以前）の学生満足度アンケートについて項目の簡素化及び満足度の定量化をはかる。

大学全体の項目別集計結果及び経年比較



（注1）棒グラフは、左側 H19 年度、中央 H20 年度、右側 H21 年度。

（注2）H19 年度は事務職員として測定したが、H20 年度以降は、部署別に測定を行った。H19 年度の事務職員は関わりが一番多い研究室に対応させた。

(2) 外部評価報告

① 平成 21 年度外部評価 京都女子大学教授 槇村久子氏の報告

京都光華女子大学現代 GP 外部評価 コメント (報告) 2010.2.14

京都女子大学 槇村久子

京都光華女子大学の現代 GP は、学生個人を大切にしたいキャリア教育の推進である。

キャリア教育の課題を就労意識の喚起・醸成と職業人としての基本的能力の養成と捉え、①導入教育から専門教育までをキャリア教育の視点から体系化し、正課の教育課程を大学全体として構築し、②キャリア形成・就職支援の正課外教育との連携を図り総合的・実践的なキャリア教育課程を構築・推進しようとする。その有効な方法として、徹底した個別対応教育と、その実現を支援するために ICT の活用を図るとしている。

現代 GP の流れについて

この GP の内容を開始するにあたって、明確なキャリア総合教育課程のイメージが作成され、また目的を達成するための入念な科目の目的や配置、担当部署が周到に計画されていたことである。その航路図が、全学部全学科を対象とし、また正課教育と正課外教育、キャリア教育推進センターと教学、事務部門の多くの学内機関が全体として動くという体制作ったものと考えられる。

また、本 GP に至るまで、京都光華女子大学ではキャリア教育について各取り組みと見直しを継続的に実施されており、そのたゆまない PDCA サイクルの延長・展開として本 GP があり、植えられた苗木が生長する過程を見る思いがする。特に、入学前から卒業後まで学生一人ひとりに対してその立場に立ってあらゆる支援を体系的・組織的に行うというエンロールメント・マネジメントの流れが、個別対応教育に結実、展開されたと考える。

正課教育と正課外教育、教学と事務部門との連携について

キャリア教育を実施するにあたり、大学内の課題の一つになるのは単位を出す正課教育と正課外教育の連携・統合であり、またそれに関して教学と事務部門の連携・統合である。

教学も正課外教育を行うが、正課は教学中心、正課外は事務部門中心で取り組んだとのこと、組織として教職員一体の組織で取り組み、事務部門でする部分も多かったためか教職員の連携が取れたことは大きな成果といえる。

個別対応教育と ICT 活用について

本 GP の大きな特徴は、個別対応教育を ICT の活用で支援することである。正課・正課外関係なく活用され、学生とコミュニケーション形成を支援していることである。ユニークな事例は、ラーニングポートフォリオ（e ポートフォリオ）で教員と学生との交換日記形式や、論文添削 e ラーニングでの学生と教員のやりとりである。数量的な評価は困難であるが個別の成長の支援として有効であると考えられる。学生にポートフォリオをしっかりと付けさせることと、教員が同フォローするかが課題であること、学習評価として結果だけでなくプロセス評価を考えていく上で、ポートフォリオが重要であり、今回の取り組みで方針がわかったという点が成果である。学生ポートフォリオとキャリア形成・キャリア支援面談システムは就職の段階で有効である。個人情報保護やプライバシーへの配慮の点で、解決に向けて検討中であり、今後に期待する。

実施組織体制について

全学的に取り組むを進めるには実施組織体制が重要である。「キャリア教育推進センター」を学長の指揮の下、取り組みの全権限と全責任を有する機関として設立したこと、またキャリア教育推進連絡会を中核組織とし、各担当部署が実施し、実施・報告・評価・修正が行われたことは学科等の主体性も担保でき、大いに評価できる。各学科等ではそれぞれ工夫を凝らした科目の内容や方法が考案されている。各学科等の好事例を参考として、学科内から大学標準の構築につなげようとしている経過も成長や PDCA もよく読み取れる。平成 22 年度以降も連絡会の体制の継続が予定されており、その役割を期待したい。

評価システムについて

キャリア教育の取り組みについて、質的な評価をどのようにするか、効果を計りにくい面がある。しかし教育目標とした高い就労意識、基本的能力、社会人基礎力の習得状況を、プレースメントテスト、自己発見レポート、HQ テスト、就職適正検査によりアセスメントを実施している。就労意識は個別面談とアンケート調査により効果を測定している。年度と対象回生ごとにデータを取っていて、さらに改善していくとされていて、実質的な効果に踏み込んでいる。今後も継続的にデータを取り、変化の経過を期待したい。また個々の学生の学習効果の測定による評価と、個々の教育、全体的な評価点検をキャリア教育推進センターが実施されているが、今後とも個々と全体の評価の PDCA を実施するセンターの役割を期待する。

全体評価

これまで学内で個々に行われてきたキャリア教育関連の教育を体系化し、正課教育と正課外教育の連携によりキャリア形成・就職支援の連携を

図り、総合的キャリア教育の体系化が図られている。「日常やっていたことを無理の無い範囲で取り組んでいくという形で進めた」とのことだが、全学部全学科、教学と事務部門、多くの組織と教職員、学生を巻き込んだ大プロジェクトであり、新たに ICT の活用によりユビキタスな教育環境を可能にしようとする実践的で挑戦的な試みを含め、GP 期間中に大きな成果をあげている。全体的に各所で PDCA に基づく改善により進化しており、立ち止まらないスタンスがすばらしい。推進するポイントは、教職員、学生への働きかけ、周知活動であり、今後も継続的取り組みをされると聞いており、実施された関係者の教職員の熱意とご苦勞に敬意を表するとともに今後も大きな期待をする。

② 平成 21 年度外部評価 たけだ病院経営研究所 所長 栗原伸治氏の報告

文部科学省平成 19 年度現代 G P
実践的総合キャリア教育推進選定

取組について

- 学生個人を大切にしたキャリア教育の取組と推進
- キャリア形成と就職活動の支援体制
 - H 6 / 4 大学文学部に人間関係学科を開設
 - H 1 3 / 4 改組人間関係学部・人間関係学科を設置
 - H 1 6 / 4 大学院に人間関係学研究科（修士課程）を設置
 - H 2 0 年（2008 年）4 月 大学の人間関係学部を人間科学部に改称

 - H 2 2 年 4 月～ 大学文学部人間科学部を改組
人文学部・キャリア形成学部・健康学部を設置
キャリア形成学部キャリア形成学科を設置
- 平成 2 2 年 4 月キャリア形成学部を設置、更に学部内にキャリア形成学科を設置し、本取組の構想と、そこで修得した知見から発展実践しようとされてきた短期間による素晴らしい実行力・計画力・指導力に敬意を称する。
- これらの計画・目標取組実践については現代社会に於て機械化・合理化・省力化による 人間性疎外を解消するため優れた先見性により H 6

年から人間関係学科を開設され、着々と将来の構想、企画、推進、段階的に準備されて来た経過からみて、計り知れないご苦勞の積み重ねが伺える。

本取組の評価について

- ① かかるプロセスによる取組の成果は今日社会の無縁化単身生活環境に育つ若者にとってまさに必要欠くべからざる教育方針であり、〈職業意識の喚起・醸成・基本能力の養成、社会人基礎力の養成〉実践こそ社会の求める優れた人材として役立つに違いない。
- ② 個人対応教育の必要性、団体行動を好まない、自己中心主義に育った学生達にとって、10人10色判断基準は個人差があり、社会性に欠け、人間関係（H.R.）も無関心層への教育指導については室内の共同指導では良い結果が得られず、個別対応制度の対応による夫々の能力開発に役立つきめ細かな素晴らしい発想に共感する。
- ③ 基礎ゼミでの就労意識の喚起について
1年2年を基礎ゼミに、3年4年を専門ゼミにむけて段階的に指導される事はベストな方法だと考える。
- ④ これだけの段階的・長期視野に置いて計画推進されてきた先生方並びにスタッフの皆様のご苦勞は、はかり知れないものがあると思う。
今後推進してゆくについて生徒達にかかる方針を理解させるには、かなりの時間を要すると思われる上に指導される先生方スタッフの根気と情熱、努力が必要な事が申すまでもなく、徐々に深まる理解と結果によってこの素晴らしい制度の成果が実を結ぶものと信ずる。

要 望 事 項

① 就業、勤勞意識の認識

大学生としての本来の学業修得の目的に加え、卒業後の社会進出のための就職活動を3回生から強いられる不況長期化による就職氷河期が到来し売手市場から買手市場に化し卒業学生にとって不利な環境となった。

企業の合理化・省力化・機械化・労働市場の国際化等によるリストラ・人員削減、女性の社会進出、高齢化による定年延長、学生バイト就労による労働市場の減少、新入職員の早期離職、厳しい社会での忍耐力不足、甘えた職種選び、派遣社員の増加 etc が就職希望の学生にとって就職活動の大きなマイナス要因となりつつある。

大学卒業学生＝完全就職の時代ではなくなり求人倍率が落ち込み来春卒の大学生にとって優秀な学生に内定が集中する厳選採用が強まる見込である。

- 以上企業の採用条件に対応した方策を研究しなければならない。
採用する側の企業が求める社会人としての基礎を養成したキャリア教育を受けた優秀な学生を如何に送り込むか企業側への P.R. 企業と学校間のコミュニケーション交流が要求される。

② 有資格学生の養成

欧米の資格社会の如く成績優秀な一般学生と同時に様々な資格を有した学生の養成は大学の特性となり受入企業が歓迎される事は間違いない。

現在準備中の看護学科の資格の如く高齢化・少子化社会に於て必然的に不足される業界、保育士・語学の資格・対米英語能力の資格は申すまでもなく飛躍発展中の中国・ベトナム・インドもこれから必要な対象国として大いに新たな分野への開発が要求される。

③ 学校の特質（魅力）確立

女子に対する建学精神に基いた仏教精神による女子の一貫教育
幼稚園～大学までキャリア教育の推進「読み」「書き」「聞く」「話す」の基礎能力の習得は幼児教育からスタート、大学の就職支援に至るまでの徹底指導。

京都光華女子学園

学生定員数の検討、少数精悦コースによる学園の特性発揮

④ 女性に対応・マッチした職種選びと対象企業との交流

これからの若者にとって夫婦共働きは欠かせない時代

- ① 大学卒業 ② 就職 ③ 結婚 ④ 新居購入 ⑤ 子育て ⑥ 幸せな家庭生活の設計

夫婦協力一致による理想の実現

男性の所得 ≤ 女性の所得・・・結婚後の所得差は勤勉な女性が
大であるケースが多い

女子の社会進出、就職の必要性が再認識され、期待に応える就職支援が必要となる。

総じて

キャリア教育の推進、キャリア形成学科新設による更新発展を目指し、

企業側への学園PRの積極化、企業との交流強化、企業からの講師招聘による、セミナーの定期開催等による就職支援体制の確立
講師招聘（例・京セラ、ワコール、堀場、日写、JTB、JAL、中信、京銀、ワタベ、日銀、武田病院、etc）

キャリア教育指導による学生の受入れは企業にとって最も歓迎される事であり、現在最も欠けている家庭教育、学校教育（義務教育）の責任を大学が果し、教育改革を要求される事は文部科学省として改革推進に向けて国を挙げて協力すべき問題であると考えます。

③ 平成20年度外部評価 キャリアコンサルタント 金子清美氏の報告

現代的教育ニーズ取り組み支援プログラム

「学生個人を大切にしたキャリア教育の推進」

—個別対応と個別対応教育による就労意識の喚起・醸成と基本的能力の養成— 評価報告書

1 概要

卒業後社会人となる学生の利益に資するという目的から、専門教育という従来の大学教育に加えてキャリア教育を実施することの意義は大きい。また、本プログラムの課題を就労意識の喚起・醸成と職業人としての基本的能力の養成ととらえ、正課および正課外教育における豊富な取り組みを、個別対応および個別対応教育によって体系的に実施することは、学生および教職員のキャリア形成、キャリア教育に対する感心・意欲を高め、就職や就職後のキャリア形成に実質的な効果が大いに期待できる。

平成19年度からキャリアデザイン講座、各学部学科の基礎ゼミ、社会人基礎力講座、教材開発、ICT化とeラーニングの整備他をスタートさせ、定期的にキャリア教育推進連絡会を開催し、進捗状況の確認やその後の課題設定、意見交換を行い、具体的かつ強力に本プログラムが推進されている。平成20年度は、平成19年度の実施結果に基づき、さらに実効性のある取り組みが実施されている。

今後の課題としては、①それぞれの取り組みの成果評価、②キャリア形成の基本的な流れ（自己理解→職業理解→意思決定→就職→職場定着）について具体的な手法やツールを使っての指導、③卒業後の追跡調査や卒業生に対するキャリア支援体制の整備、などがあげられる。

めまぐるしく変化する産業社会、企業の経営環境において、これまでの企業主体のキャリア形成は終わりつつある。職業人としてのキャリア形成だけでなく、結婚、出産、子育てなどのライフイベントを通じて、自らのキャリアを

自律的に形成し、職業人生を含む人生そのものを豊かで幸福に満ちたものにするということが、これからの社会人に求められている。

貴校の特色である女子教育の立場からも今後ますます本プログラムが発展的に推進されることが、貴校の社会的アイデンティティを明確にするとともに、社会的責任を果たすという意味でも非常に重要であると考えます。学生の意識改革や学内の体制づくりなど短期間で行えるものではないため、今後本プログラムをはじめとするキャリア教育が全学的な取り組みとして、長期的に継続されることが期待される。

2 計画について

2.1 取り組みの有効性

世の中が豊かになり、また少子化ゆえに大学全入時代となった今、明確な目的意識を持たずに大学へ進学する学生が多く存在し、また、国民の義務としての勤労や納税の意識が希薄な若年者の存在も少数ではなくなっている。本プログラムの実施方法として、個別対応及び個別対応教育を基本とするところに大いに意義がある。学生の意識や課題は多様であり、集合教育では、埋もれてしまう一人一人の学生も、個別的な対応をすることで、ていねいできめ細かい支援が可能となる。各学部学科の担当教員と全般的なキャリア形成、就職支援スタッフとの役割分担を明確にし、負担偏重にならないよう、連携をとりながら効率的にすすめていく必要がある。

2.2 本プログラムの着眼点

就労意識の喚起・醸成と職業人としての基本的能力の養成を本プログラムの課題としてとらえていることについては、貴校の現状を踏まえた上での課題設定であると思われるが、就労意識が不足し、モラトリアム型の大学生が増加している現在の社会情勢からも、共感性の高い課題である。

産業社会においてもコスト削減や先が見えない経営環境といった理由から、以前のように新入社員教育に時間やコストをかけられなくなっており、職業人としての基本的能力の養成が困難になっている。今後は企業にかかわって、職業人を送り出す高校や大学にその役割が求められることが予測され、また、職業人としての基本的能力の養成が学生の就職においても競争優位性の要因になると考えられる。特にコミュニケーション能力や職業人意識、読み書き・計算などの基礎学力に加え、自律的な行動力、課題設定力や論理的思考能力なども発展的にテーマとして取り組みが期待される。

2.3 ICT活用の有効性

学生のデータベース、eラーニングなどICT活用の有効性は非常に高いと考えられる。学生に対する個別的な対応内容をデータベースによって一元的に情報を管理することで効率的で円滑な支援、指導が可能になる。eラーニングに

については、時間や場所を選ばずに学習でき、学生の利便性を大いに高めるとともに、VODを繰り返し視聴し、各人の能力や進度に合わせてじっくり学習に取り組めるといふ点で効果が期待できる。

他大学のICT活用例として、限定されたメンバーにのみ解放される「つながりの場」が作られ、キャリア教育や就職活動に活用されている。在学生や企業で働く卒業生、教職員が情報交換や出会いの場として活用できるSNSなどの開設は、今後検討する価値がある。

3 実績について

概要でふれた通り、19年度、20年度（7月まで）の実施および達成状況は、全学的な取り組みおよび各学部学科のそれについて、概ね問題なく進行していると見受けられる。詳細については、今後、各取り組みの現場を視察し、ヒアリングなどを通じて具体的なコメントを提示できればと考えている。

今回の評価にあたって提供された資料から、不明な点は次の通りである。それは、①各取り組みについての評価についてどのように行い、フィードバックさせていくか、②キャリア形成の体系にそった自己理解や職業理解の具体的な指導がどのように行われているか、③職場定着状況を知るための卒業後の追跡調査や卒業生の再就職支援、についてである。

4 提案

以下について、確認あるいは検討を提案する。

4.1 定量的および定性的な目標と評価基準の設定

各取り組みや時限的な課題の実施について定性的な表現だけでは、成果評価やその後の修正行動があいまいになり、各取り組みの効果測定が困難になる。定量的な目標や評価基準の設定を行い、各実施主体となる学部学科間で標準化させることで一人一人の学生への効果的な対応が期待できる。

目標や評価基準の定量化に関する具体的な方法については、例えば①「就労意識の喚起」を課題とする取り組みであれば、一定の取り組み期間の後、学生にレポートを提出させて、その内容に含まれるキーワードやキーセンテンスによって、達成状況を計数化する、②年度初めに担当教員と学生間で面談を行って個人目標を設定し、その達成状況を管理することで評価する（企業経営における人的資源管理の目標管理制度のしくみを活用）、なども考えられる。

4.2 キャリア形成のツールや手法の活用と指導

自己理解、職業理解、啓発的経験、意思決定、就職、職場定着という標準的なキャリア形成の流れを実行するための具体的なツールや手法の紹介やその活用に関する指導をセミナーに加えて、キャリアカウンセラーによる個別的なカウンセリングによっておこなう。

- ・ 自己理解：自己分析のためのキャリアシートやアセスメントツール
- ・ 職業理解：業界・企業研究の指導，卒業生紹介
- ・ 応募活動支援：エントリーシート作成指導，
SPI2・筆記試験・面接試験対策

4.3 職場定着状況などの確認のための追跡調査と卒業生に対する再就職支援

大学生の3割以上が就職後3年以内に離職し、職場定着が困難となっている。卒業生の追跡調査を行い、職場定着状況を確認することで、これからのキャリア教育の課題が明確になり、効率的で満足度の高い取り組みの実施が可能になる。

ミスマッチや進路変更によって就職後離職し、再就職を目指す卒業生の支援は、貴校のエンロールメントの実践として重要な事業である。支援体制の整備・強化とそれに必要な人的資源の確保が望まれる。

以上

以上の通り、報告いたします。

平成20年10月22日

報告者：金子 清美

上記、中間外部評価に対しては、以下のような改善を行った。

1. 上記「2 計画について」の改善

- ① 各学部学科の担当教員と全般的なキャリア形成，就職支援スタッフとの役割分担
→ 学生面談システムなどを活用して、学生への支援状況を共有することで、シームレスなサポートを実現することを目指した。
- ② 在学生・卒業生・教職員の情報交換の場となる SNS の開設
→ 在学生と教員に関して、光華 navi「e-ポートフォリオ」で情報交換を行う環境を構築した。また、本取組外ではあるが学生支援としてラーニングコミュニティ kocolony（光華 SNS）を開設し、在学生・教職員の情報交換の場を開設した。卒業生との情報交換については、順次検討を行う予定とした。

2. 前述「3 実績について」の改善

- ① 各取り組みの評価方法とフィードバック方法
→ 定型フォーマットによる報告を行い、連絡会でフィードバックを行っていたが、外部評価委員への説明が不十分で伝わっていなかった点を改善した。
- ② キャリア形成の体系にそった自己理解や職業理解の具体的な指導方法
→ キャリア形成体系プログラムの資料化を検討した。
- ③ 卒業後の追跡調査や卒業生の再就職支援方法
→ 現状把握後、資料化を検討することとした。

3. 前述「4 提案について」の改善

- ① 定量的な目標と評価基準の設定（学部学科間の標準化）
→ 現状ヒアリングにて原案作成後、各学科担当者合同で評価基準について調整した。
- ② キャリア形成ツールの活用とキャリアカウンセラーによる個別的な指導
→ 能力検定（自己発見レポート、就職適正検査、HQテスト）、キャリアデザイン講座などでツールの紹介と活用を行った。
キャリアカウンセラーによる個別的なカウンセリングとしては、本取組外で平成22年2月よりキャリアメンター制を導入し、個別指導体制を強化した。
- ③ 卒業生に対する支援体制の整備・強化，人的資源の確保
→ 今後の課題とした。

2.7 就労意識に関するディスカッション記録

本取組完了時、「学生の就労意識の喚起、醸成に当たり教員のすべきことは何か」について、キャリア教育推進連絡会議においてフリーディスカッションを行った。その結果を各学科に持ち帰り、教員によるフリーディスカッションへと展開した。その結果を以下に報告する。

テーマ：「就職したいと思ったら、何をすべきか」

① 日本語日本文学科

	入学～3年次前期	3年次後期（就職活動開始）～
あるべき姿	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次から段階的に就職活動に向けた準備を進める ・適切な情報を適切な時期に与える工夫をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動の進み具合を、出来るだけこまめに把握し、適切な助言を与え、意欲を継続させる
学生がしなければならない事	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な自己紹介（自己アピール）の練習 ・資格取得に関わる学外実習，博物館実習 ・グループディスカッションの練習 ・敬語の基礎確認 ・常用漢字表内字の読み書きの徹底 ・敬語表現を含めて口頭での的確な表現法の習得（研究室や事務局に出向いて用件を伝えるときなどをその練習の場とする） ・各自のしっかりとしたスケジュール作り（中長期的なもの、短期的なものを作り、実行する） 	<ul style="list-style-type: none"> ・エントリーシート（自己アピール・志望動機）の作成 ・就職希望先の絞り込み ・面接の実践練習 ・敬語表現を含めて口頭での的確な表現法の習得 ・実践的な問題演習、自己アピールの練習 ・現実的な目標設定と、それに対応した情報収集
学生がした方がいい事	<ul style="list-style-type: none"> ・資格取得 ・インターンシップ ・SPIの問題演習 ・ビジネス日本語についての基礎知識確認 ・新聞を読む習慣をつける ・ボランティア体験など就職に有利になる活動への積極的参加 ・大人のメイク術、就活に有利な着こなしの習得（最近では「スーツ以外を着用」という企業もあると聞く） <p>一般（基礎）教養（特に日本史や地理に関して）養成（教員採用試験の問題集などを解くのがよいか？）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・希望する企業の訪問 ・就職活動に関する情報の積極的な交換（ネット上を含む） ・一般（基礎）教養（特に日本史や地理に関して）養成 ・上級生の成功体験を積極的に聞く（学科、ゼミ単位での機会設定も必要）

② 人間関係学科

	入学～3年次前期	3年次後期（就職活動開始）～
あるべき姿	<p>「なせばなる」という気持を持つ 社会や職業のことをもっと知る 社会との関わりをできるだけ多く持つ 漠然とした将来への不安に負けない 学習意欲を維持する・向上する</p>	<p>過度に落ち込まない 就職に関して前向きな気持を持つ</p>
学生がしなければならない事	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な自己紹介（自己アピール）の練習 ・資格取得に関わる学外実習，博物館実習 ・グループディスカッションの練習 ボランティア活動への参加 対人関係スキルの向上 ライフスケジュールを考える（結婚，就職，出産・・・） そのためにはどんな経験，どんな資格が必要？ ※大学での学びを授業外の活動（ボランティア・アルバイト等も含む）に結びつける e-ポートフォリオの活用も効果的手段の一つ 	<ul style="list-style-type: none"> ・エントリー（自己アピール・志望動機）の作成 ・就職希望先の絞り込み
学生がした方がいい事	<ul style="list-style-type: none"> ・資格取得 ・インターンシップ 実際に仕事をしている人の講演やインタビュー 2回生で意欲を落とさない工夫 成功体験を持つ，何でも良いので自信を持つ 対人関係 知らない人（大人）と話す機会を持つ 他学科，他学年との接触の機会を持つ ラーニングコミュニティへの参加 他大学との交流 学外発表の機会 	<ul style="list-style-type: none"> ・希望する企業の訪問

教職員がする事		就職活動の具体的な状況等をお互いに積極的に話す機会を設ける 3・4回生が合同で顔を合わせる機会を持つ（発表会・昼食会等） 教員が学生の就職活動に積極的に関与する（落ち込んでいる学生に声を掛けるなど）
---------	--	---

③ 健康栄養学科

	入学～3年次前期	3年次後期（就職活動開始）～
あるべき姿	管理栄養士を目指す。	管理栄養士の仕事内容を十分理解する。
学生がしなければならない事	自己アピールの練習。	エントリー用紙の作成と表現。なりたい管理栄養士の絞込み。
学生がした方がいい事	友達を沢山つくる。 クラブ、サークル、バイト等。	企業説明会の参加。 企業訪問。
教職員がする事	管理栄養士の希望を継続させる。 目標を見失わないフォロー。	学生の希望を重要視する。 国家試験への取り組み強化。 就職後の安心できる対応の学生への周知。

④ 社会福祉学科

	入学～3年次前期	3年次後期（就職活動開始）～
あるべき姿	<p>基礎学力をつけ、1年次からある程度将来象をシュミレーションできるようにする。</p> <p>社会福祉専門職への意識づけと事前学習を含め実習を通じて実践力を習得する。</p>	<p>社会福祉士等国家試験対策へ取り組む</p> <p>（講座・勉強会への参加）</p> <p>就職ガイダンスへの参加（社会福祉分野）</p> <p>一般職選択の場合は企業説明会等への早期の参加。</p>
学生がしなければならぬ事	<p>HQテスト等、キャリア支援センター実施のテストを早期に受け、自分の適性や傾向を把握しておく。</p> <p>社会福祉学科では社会福祉士の仕事を体験し資格に対する意識を持つ。</p>	<p>社会福祉関係の中での各専門分野・専門職に対する理解と進路決定（相談援助職・介護職・保育士・福祉科教員等）及び具体的就職活動。</p> <p>一般職希望者はキャリア支援センター等を活用し、希望分野の決定と具体的就職活動。</p> <p>エントリーシートの書き方等の習得</p>
学生がした方がいい事	<p>実習に行く前にボランティア体験等、社会福祉の現場体験を持つ。実習に行かないという選択をした場合は自分の適性を把握し、具体的な方向性を固めていく。</p>	<p>各資格取得へ向けた対策講座・模擬試験受講</p> <p>希望地域の社会福祉人材センターへの登録等</p> <p>一般常識や時事問題について確実に理解できるよう新聞等を読む習慣をつけておく。</p>

3. 取組の詳細

本取組では、全体計画を基に各担当学科・関連部署毎に、年度初めに本年度実施計画書を作成した。その計画書に基づき取組を実施し、個別評価会議（キャリア教育推進連絡会議）で取組の報告と点検を行った。個別の取組の一部について報告する。

3.1 文学部 日本語日本文学科

日本語日本文学科では、以下の7項目について実施することを計画した。

※○番号は、「1. 2 取組内容」で明示した項目に対応している。

1. ③就労意欲の喚起----- 基礎ゼミ（基礎Fセミナー）
2. ④個別対応教育----- ラーニンググループ
3. ④個別対応教育----- 漢字検定対策講座
4. ⑤リメディアル教育----- 国語基礎教育
5. ⑨専門課程改善----- 日本語学研究など18科目，日本語セミナーなど12科目
6. ⑨専門課程改善----- 博物館学関係諸科目
7. ⑩教育のICT化----- 専門セミナーなど

以下は、その最終報告の一例である。

◆実施報告

実施事項	④ 項	ラーニンググループの設置と運用	
目的	就労意識の喚起・醸成／社会人基礎力の養成／基本的能力の養成		
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生指導、休退学対策、課外授業、キャリア教育、FD等に関連する。 ・ 広く学生と話し合い、相談に応じる機会を設け、学生指導の充実をめざす。 ・ 欠席しがちな学生の出席を確認し、毎日の出席を促す機会とする。 ・ 課外授業として、授業での教育を補完するような、幅広い教育の一助とする。 		
実施事項の目標	<p>学習、生活面での不安をできるだけ解消し、学業を継続する活力を導く。 友人関係を構築し、満足感のある就学環境を作る。 教員が、学生の抱える不安や悩みを把握し、今後の支援に役立てる。</p>	到達レベル	原則として、学期中の毎週木曜日に、ラーニンググループを開設し、毎回10名以上の参加を得る。
実施項目		自己評価	効果予測
1	<p>キャリア教育を含む、社会人基礎力の教育、および出口教育。 （例）社会人として職業に就くことについて、さまざまなアドバイスをし、学生の就業意欲を高め、就職活動についての悩みの相談の機会とする。いくつかの参考書も用意しておき、学生に貸し出せるようにしておく。例えば、村上龍『13才のハローワーク』などの職業案内、雨宮処凜『生きさせる！難民化する若者たち』などのフリーター等社会問題のドキュメント類ほか。</p>	<p>■計画通りできた □まあまあできた □あまりできなかった □できなかった □やらなかった</p>	<p>■効果あり継続 □継続し検討 □改善し継続 □不明、要検討 □効果なし中止</p>

2	現代のさまざまな文化に対する意見交換、知識・教養の教育とディスカッション。 (例) 広く教養(カルチャー)への興味の勧誘となる話をし、就学意欲を高め、専門分野の選択などの助けとなる相談の場とする。いくつかの参考書も用意しておき、学生に貸し出せるようにしておく。例えば、大和和紀『あさきゆめみし』などのマンガ類、時雨沢恵一『キノの旅』などのライトノベル類ほか。展覧会やイベントなどの紹介も心がける。	<input checked="" type="checkbox"/> 計画通りできた <input type="checkbox"/> まあまあできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった <input type="checkbox"/> やらなかった	<input checked="" type="checkbox"/> 効果あり継続 <input type="checkbox"/> 継続し検討 <input type="checkbox"/> 改善し継続 <input type="checkbox"/> 不明, 要検討 <input type="checkbox"/> 効果なし中止
3	学生とのコミュニケーションを拡大し、また、FDに利用できるような対話。 (例) 流行している文学や映画・音楽等についての意見や感想を聞き、学生とのコミュニケーションを高めると同時に、学生のニーズや関心を知って、教員が授業等での教え方を工夫するヒントとする。いくつかの参考書も用意しておき、学生に貸し出せるようにしておく。例えば、『バッテリー』『ひぐらしの鳴く頃に』などのベストセラー類、音楽・演劇・映画などの雑誌類ほか。	<input checked="" type="checkbox"/> 計画通りできた <input type="checkbox"/> まあまあできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった <input type="checkbox"/> やらなかった	<input checked="" type="checkbox"/> 効果あり継続 <input type="checkbox"/> 継続し検討 <input type="checkbox"/> 改善し継続 <input type="checkbox"/> 不明, 要検討 <input type="checkbox"/> 効果なし中止
4	欠席しがちな学生の出席を確認し、毎日の出席を促す機会とする。	<input type="checkbox"/> 計画通りできた <input checked="" type="checkbox"/> まあまあできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった <input type="checkbox"/> やらなかった	<input checked="" type="checkbox"/> 効果あり継続 <input type="checkbox"/> 継続し検討 <input type="checkbox"/> 改善し継続 <input type="checkbox"/> 不明, 要検討 <input type="checkbox"/> 効果なし中止
5	課外授業として、授業での教育を補完するような、幅広い教育の一助とする。	<input checked="" type="checkbox"/> 計画通りできた <input type="checkbox"/> まあまあできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった <input type="checkbox"/> やらなかった	<input checked="" type="checkbox"/> 効果あり継続 <input type="checkbox"/> 継続し検討 <input type="checkbox"/> 改善し継続 <input type="checkbox"/> 不明, 要検討 <input type="checkbox"/> 効果なし中止
6	チュートリアルカフェの参加者がまとまって、学園祭・ホームカミングデーに参加する。	<input checked="" type="checkbox"/> 計画通りできた <input type="checkbox"/> まあまあできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった <input type="checkbox"/> やらなかった	<input checked="" type="checkbox"/> 効果あり継続 <input type="checkbox"/> 継続し検討 <input type="checkbox"/> 改善し継続 <input type="checkbox"/> 不明, 要検討 <input type="checkbox"/> 効果なし中止
所 感	本取り組みを通じて、学生が正課以外の場で自己表現・自己実現の機会を求めていることが実感された。		
改善に向けた今後の取組	参加者が固定化する傾向にあるので、学生への周知を図るとともに内容の吟味等を行い、学科のラーニングコミュニティとして取り組みを継続する。		

◆成果

No.	項 目	評価方法	目標値	実 績	自己評価
1	ラーニンググループ開設状況と参加呼びかけ	実施頻度・回数と参加人数	毎回10名以上参加	詳細を以下に報告	<input checked="" type="checkbox"/> 達成できた <input type="checkbox"/> ほぼ達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった

◆ラーニンググループの利用人数

(平成 20 年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開室日数	—	—	2	4	—	—	5	2	2	2	—	—
利用人数	—	—	21	43	—	—	41	25	20	20	—	—

(平成 21 年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開室日数	3	3	3	2	—	—	5	3	—	—	—	—
利用人数	34	31	25	24	—	—	48	29	—	—	—	—

◆補足説明

- 実施回数について、担当教員の会議などのため実施しなかった回を除き、毎週開設という目標はほぼ達成されている。
- また、実施の目標に掲げた「学業を継続する活力」及び「満足感のある就学環境」については、実施項目 6 のホームカミングデー参加を通じて、十分な達成度が得られたと判断される。

3.2 文学部 国際英語学科

国際英語学科では、以下の 5 項目について実施することを計画した。

※○番号は、「1. 2 取組内容」で明示した項目に対応している。

1. ③就労意欲の喚起----- 基礎ゼミ（セミナーA・セミナーB）
2. ④個別対応教育----- ラーニンググループ
3. ⑤リメディアル教育----- 新英語教育
4. ⑨専門課程改善----- セミナーC・セミナーD
5. ⑩教育のICT化----- BlackboardのTOEIC講座、LMS、VOD、インターネット

以下は、その最終報告の一例である。

◆実施報告

実施事項	⑤ 項	新英語教育
目的	基本的能力の養成 光華の学生に対して、一定の英語能力を保証できるようなシステムを作り上げる	
実施内容	全学の1年生の英語教育として実施している。教材ベースとe-learning教材の両者が有機的に結びつくように改訂をしていきたい。	
実施事項の目標	本学学生のおかれた状況（京都にある女子大で英語に苦手意識を持っている学生が多い）に即した共通のテキストを用いて、英語教育の効率を高める。	到達レベル 数字目標は特に決めていない。

実施項目		自己評価	効果予測
1	1年生用の教材の改訂と利用	<input checked="" type="checkbox"/> 計画通りできた <input type="checkbox"/> まあまあできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった <input type="checkbox"/> やらなかった	<input type="checkbox"/> 効果あり継続 <input type="checkbox"/> 継続し検討 <input checked="" type="checkbox"/> 改善し継続 <input type="checkbox"/> 不明, 要検討 <input type="checkbox"/> 効果なし中止
2	1年生用の e-learning の改訂と利用	<input checked="" type="checkbox"/> 計画通りできた <input type="checkbox"/> まあまあできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった <input type="checkbox"/> やらなかった	<input type="checkbox"/> 効果あり継続 <input type="checkbox"/> 継続し検討 <input checked="" type="checkbox"/> 改善し継続 <input type="checkbox"/> 不明, 要検討 <input type="checkbox"/> 効果なし中止
3	2年生用の教材	<input type="checkbox"/> 計画通りできた <input type="checkbox"/> まあまあできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった <input checked="" type="checkbox"/> やらなかった	<input type="checkbox"/> 効果あり継続 <input type="checkbox"/> 継続し検討 <input type="checkbox"/> 改善し継続 <input type="checkbox"/> 不明, 要検討 <input checked="" type="checkbox"/> 効果なし中止
4	2年生用の e-learning の作成と利用	<input type="checkbox"/> 計画通りできた <input type="checkbox"/> まあまあできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった <input checked="" type="checkbox"/> やらなかった	<input type="checkbox"/> 効果あり継続 <input type="checkbox"/> 継続し検討 <input type="checkbox"/> 改善し継続 <input type="checkbox"/> 不明, 要検討 <input checked="" type="checkbox"/> 効果なし中止
所 感	本学の2年次では英語 F を開講する学部としない学部があり、共通のテキストの使用が難しい。全体のカリキュラムの変更により2年次での共通テキストの使用が可能になる可能性もある。		
改善に向けた今後の取組	使用する教員や学生の反応に応えながら、随時テキストを改訂していきたい。		

◆成果

No.	項 目	評価方法	目標値	実 績	自己評価
1	教材の改訂と利用	学生からの使い方アンケートの実施	満足度 100%	アンケート調査は行わず数値は不明。	<input type="checkbox"/> 達成できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった
2	e-learning 利用	学生からの使い方アンケートの実施	利用経験者 50% 3 回以上利用 80%	利用者はきわめて少ない。	<input type="checkbox"/> 達成できた <input type="checkbox"/> ほぼ達成できた <input checked="" type="checkbox"/> 達成できなかった
3	TOEIC の試験	英文の学生全員に実施	受験率 100%	受験率は 80%程度である。	<input type="checkbox"/> 達成できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった

3.3 全学共通教育センター

全学共通教育センターでは、以下の5項目について実施することを計画した。

※○番号は、「1. 2 取組内容」で明示した項目に対応している。

1. ③就労意欲の喚起----- 大学基礎講座Ⅰ，Ⅱ，就労意識の喚起に関わる取りまとめ
2. ⑤リメディアル教育----- 大学基礎講座Ⅲ
3. ⑧インターンシップ(専門実習)
4. ⑨専門課程改善----- 教職科目、司書科目
5. ⑩教育のICT化----- 「教育方法論」のeラーニング化

以下は、その最終報告の一例である。

◆実施報告

実施事項	⑧ 項	専門実習	
目的	就労意欲の醸成 教員という職業への再認識		
21年度実施内容	教職指導室との連携による事前指導の強化		
実施事項の目標	1) 教員という職業への再認識を促す (実務面等) 2) 模擬授業の指導強化	到達レベル	教育実習にむけての準備 教壇に立つ自信を持つ
実施項目		自己評価	効果予測
1	木曜5講時に事前指導として正規授業開講。 教職に対する熱意喚起と意識の再認識を促す。	<input checked="" type="checkbox"/> 計画通りできた <input type="checkbox"/> まあまあできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった <input type="checkbox"/> やらなかった	<input checked="" type="checkbox"/> 効果あり継続 <input type="checkbox"/> 継続し検討 <input type="checkbox"/> 改善し継続 <input type="checkbox"/> 不明，要検討 <input type="checkbox"/> 効果なし中止
2	個別指導による事前・事後指導。 教育実習参加者に対し指導案作成のアドバイスなど個別に指導。	<input checked="" type="checkbox"/> 計画通りできた <input type="checkbox"/> まあまあできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった <input type="checkbox"/> やらなかった	<input checked="" type="checkbox"/> 効果あり継続 <input type="checkbox"/> 継続し検討 <input type="checkbox"/> 改善し継続 <input type="checkbox"/> 不明，要検討 <input type="checkbox"/> 効果なし中止
3	課外授業として光華高校へ授業参観。 授業参観に伴う事前事後指導を重視。	<input checked="" type="checkbox"/> 計画通りできた <input type="checkbox"/> まあまあできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった <input type="checkbox"/> やらなかった	<input checked="" type="checkbox"/> 効果あり継続 <input type="checkbox"/> 継続し検討 <input type="checkbox"/> 改善し継続 <input type="checkbox"/> 不明，要検討 <input type="checkbox"/> 効果なし中止
4	課外授業として模擬授業を実施。 各教科別実施。 教科指導法の担当教員を交えて反省会を実施。	<input checked="" type="checkbox"/> 計画通りできた <input type="checkbox"/> まあまあできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった <input type="checkbox"/> やらなかった	<input checked="" type="checkbox"/> 効果あり継続 <input type="checkbox"/> 継続し検討 <input type="checkbox"/> 改善し継続 <input type="checkbox"/> 不明，要検討 <input type="checkbox"/> 効果なし中止

所 感	各学科との連携をどうとるか、各教科指導法の担当教員と教職科目の担当教員との連携をどのようにとるか、についてさらに検討の余地がある。
改善に向けた今後の取組	教育実習について文科省もカリキュラムの変革を要請している。本学ではさらにキャリア形成学部の教員と教職指導室が連携して特に個別指導を強化していきたい。

◆実施実績（1月19日時点）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
個別指導 (人)	222	145	102	77	33	29	53	129	89	52	26	
授業参観	6月	日文 11	英文 2	人関 5	福祉 0	栄養 8	合計 26					
模擬授業	5月	日文 17	英文 12	人関 13	福祉 3	合計 51						

◆成果

No.	項 目	評価方法	目標値	実 績	自己評価
1	教員という職業への再認識	教育実習参加者が教員として自覚・自信を持つ	目標とする教員像が明確であること	全教育実習参加者が自分なりの教員像を描けた	<input checked="" type="checkbox"/> 達成できた <input type="checkbox"/> ほぼ達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった

3.4 人間科学部 人間関係学科

人間科学部 人間関係学科では、以下の6項目について実施することを計画した。

※○番号は、「1.2 取組内容」で明示した項目に対応している。

1. ③就労意欲の喚起 ----- 基礎ゼミ（基礎演習Ⅰ・基礎演習Ⅱ）
2. ④個別対応教育 ----- ラーニンググループ
3. ⑤リメディアル教育 ----- 基礎統計授業
4. ⑨専門課程改善 ----- 専門ゼミ
5. ⑩教育のICT化 ----- VOD講義
6. ⑩教育のICT化 ----- 全開講科目でのLMS活用

以下は、その最終報告の一例である。

◆実施報告

実施事項	③ 項	就労意識の喚起
目 的	就労意識の喚起 初年次の基礎教育を通じ「就労」「社会人となる」という目的を意識させ、学習意欲の向上につなげる	

実施内容	基礎ゼミ（本学科科目名は 基礎演習Ⅰ（前期）・基礎演習Ⅱ（後期））の中で「就労意識の喚起」を中心課題の一つとして取り組む		
実施事項の目標	自分の将来イメージとそのための大学4年間のデザイン形成を吟味し、将来の自分とのかかわりを考えることで、大学で学ぶべき内容をディスカッション個々の学生が熱意をもって取り組める学習内容を見出し、自発的に学び、キャリア形成に向けた動機づけを高める。	到達レベル	取組開始前に比較し学生の社会への関心の底上げをおこなうことができた。就労意識アンケートにもその結果が反映されているが、より定量的な評価については今後の課題である。
実施項目		自己評価	効果予測
1	科目担当者の意識共有	<input checked="" type="checkbox"/> 計画通りできた <input type="checkbox"/> まあまあできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった <input type="checkbox"/> やらなかった	<input checked="" type="checkbox"/> 効果あり継続 <input type="checkbox"/> 継続し検討 <input type="checkbox"/> 改善し継続 <input type="checkbox"/> 不明、要検討 <input type="checkbox"/> 効果なし中止
2	基礎演習Ⅰでの取り組み 個々の学生が熱意をもって取り組める学習内容を見出し、自発的に学び、キャリア形成に向けた動機づけを高める。	<input checked="" type="checkbox"/> 計画通りできた <input type="checkbox"/> まあまあできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった <input type="checkbox"/> やらなかった	<input checked="" type="checkbox"/> 効果あり継続 <input type="checkbox"/> 継続し検討 <input type="checkbox"/> 改善し継続 <input type="checkbox"/> 不明、要検討 <input type="checkbox"/> 効果なし中止
3	基礎演習Ⅱでの取り組み 個々の学生が熱意をもって取り組める学習内容を見出し、自発的に学び、キャリア形成に向けた動機づけを高める。	<input checked="" type="checkbox"/> 計画通りできた <input type="checkbox"/> まあまあできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった <input type="checkbox"/> やらなかった	<input checked="" type="checkbox"/> 効果あり継続 <input type="checkbox"/> 継続し検討 <input type="checkbox"/> 改善し継続 <input type="checkbox"/> 不明、要検討 <input type="checkbox"/> 効果なし中止
4	外部講師による特別講義	<input checked="" type="checkbox"/> 計画通りできた <input type="checkbox"/> まあまあできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった <input type="checkbox"/> やらなかった	<input checked="" type="checkbox"/> 効果あり継続 <input type="checkbox"/> 継続し検討 <input type="checkbox"/> 改善し継続 <input type="checkbox"/> 不明、要検討 <input type="checkbox"/> 効果なし中止
所感	<p>今年度は実際の成果よりも、担当教員の意識付けとその共有がおこなえたことのメリットが大きいと感じた。学生は就労について考えるきっかけが少なかったと思われる、社会との関わりをテーマとして取り上げたことで、関心を持ってもらえた。学科内で各教員が意識的に取り組むことができた。</p> <p>新たな試みとして、e-ポートフォリオについてキャリアデザイン講座受講者へのフォローアップの徹底を学科としておこなった。</p> <p>平成21年12月10日に戦略的FD連携研究会で本学のe-ポートフォリオの取組について報告を行うなど成果について外部への発信をおこなえたことが非常に良かった。</p>		
改善に向けた今後の取組	定量的な成果の把握方法の確立が課題である。今年度実施した意識アンケート等は非常に有効である、継続してデータ収集をおこなう必要があると考えられる。		

3.5 人間科学部 健康栄養学科

人間科学部 健康栄養学科では、以下の8項目について実施することを計画した。

※○番号は、「1. 2 取組内容」で明示した項目に対応している。

1. ③就労意欲の喚起----- 基礎ゼミ（基礎化学など）
2. ④個別対応教育----- ラーニンググループ
3. ④個別対応教育----- クラスアドバイザーによる個人面談
4. ⑧インターンシップ（専門実習）---臨地実習
5. ⑨専門課程改善----- 健康栄養学科 キャリア支援講座
6. ⑨専門課程改善----- 専門課程改善
7. ⑨専門課程改善----- 国家資格取得
8. ⑩教育のICT化----- インターネット利用

以下は、その最終報告の一例である。

◆実施報告

実施事項	⑨ 項	専門課程改善「健康栄養学科キャリア支援講座」	
目的	社会人基礎力の養成		
実施内容	毎年9月に開催していた「三年生研修」のテーマは「①臨地実習の今後の取り組み、②卒業論文および管理栄養士国家試験対策について、③臨地実習報告、④管理栄養士の現場から（卒業生の講演）、⑤就職活動とその支援」であった。平成20年度は、④、⑤を中心に「健康栄養学科キャリア支援講座」として開催し、管理栄養士の資格を生かし様々な場で働いている卒業生を講演者として迎える。この講座は、病院・福祉施設・食品関連企業など多岐に渡る管理栄養士の職場について理解を深め、自分の将来の管理栄養士としてのイメージの具体化・学習意欲を高める等に寄与することが期待できる。また、学生キャリア支援センターには、健康栄養学科に関係する就職活動・支援の話をしてもらう。		
実施事項の目標	「健康栄養学科キャリア支援講座」開催による就労意識の喚起・醸成	到達レベル	アンケート調査による評価
実施項目		自己評価	効果予測
1	健康栄養学科キャリア支援講座	<input type="checkbox"/> 計画通りできた <input checked="" type="checkbox"/> まあまあできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった <input type="checkbox"/> やらなかった	<input type="checkbox"/> 効果あり継続 <input type="checkbox"/> 継続し検討 <input checked="" type="checkbox"/> 改善し継続 <input type="checkbox"/> 不明、要検討 <input type="checkbox"/> 効果なし中止
所感	アンケート調査の結果は良好であった。		

改善に向けた今後の取組	各学年により就職に対する興味が異なり、3学年合同は難しい。平成21年度は従来の「三年生研修」の形式にもどし、キャリア支援の部分を充実させる。また、1・2年生は自由参加にする予定である。
-------------	--

◆成果

No.	項目	評価方法	目標値	実績	自己評価
1	講座に対する興味	出席率を調査	出席率 80%	1年生：80% 2年生：91.5% 3年生：97.3%	■達成できた □ほぼ達成できた □達成できなかった
2	職場についての理解	アンケート調査	役に立った 90%	1年生 92.3% 2年生 97.3% 3年生 95.3%	■達成できた □ほぼ達成できた □達成できなかった

◆補足説明

三年生のアンケート調査の結果、様々な職種の卒業生の話を聞きたいという希望が多く、急遽、学生と卒業生の自由懇談を実施した。

3.6 人間科学部 社会福祉学科

人間科学部 社会福祉学科では、以下の7項目について実施することを計画した。

※○番号は、「1. 2 取組内容」で明示した項目に対応している。

1. ③就労意欲の喚起----- 基礎ゼミ（基礎演習Ⅰ、基礎演習Ⅱ）
2. ④個別対応教育----- 文章表現力テスト，ラーニングルームと学科内の連携
3. ⑧インターンシップ(専門実習) ---社会福祉実習
4. ⑨専門課程改善----- 専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱ
5. ⑨専門課程改善(国家資格課程)----社会福祉士養成課程
6. ⑩教育のICT化----- 実習支援システムの開発と試行
7. ⑩教育のICT化----- 高齢者福祉論（老人福祉論）

以下は、その最終報告の一例である。

◆実施報告

実施事項	③ 項	就労意識の喚起
目的	一人の人として，女性としての働くこと，家庭をもつことの意味を考える	
20年度実施内容	基礎演習Ⅰ、基礎演習Ⅱの授業の中に、就労意識を喚起させる要素を盛り込む	

実施事項の目標		①社会福祉領域で活躍する女性ゲストスピーカーを招き、たんなる福祉ニーズの理解を超えた、生き方を学ぶところから、女性が働く意義について考える。(基礎演習Ⅰ) ②福祉現場を見学し、そこで働いている人々の姿を見ることで、福祉の仕事の実際を知るとともに、将来像をイメージする。(基礎演習Ⅰ) ③クラスアドバイザー(基礎演習を担当)が個別面談を行い、将来を考える機会としての大学生活を計画立てる支援を行う。(基礎演習Ⅰ・Ⅱ)基礎演習Ⅱあるいは実習指導Aにて、eポートフォリオを活用する。	到達レベル	80%の到達
実施項目		自己評価	効果予測	
1	ゲストスピーカー招聘	<input checked="" type="checkbox"/> 計画通りできた <input type="checkbox"/> まあまあできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった <input type="checkbox"/> やらなかった	<input checked="" type="checkbox"/> 効果あり継続 <input type="checkbox"/> 継続し検討 <input type="checkbox"/> 改善し継続 <input type="checkbox"/> 不明, 要検討 <input type="checkbox"/> 効果なし中止	
2	見学実習(準備・見学・振り返りを含む) →<変更>学生有志が夏休み中体験するボランティア活動や講習会等を題材に、学生プレゼンによる社会福祉関連施設・職種の理解を行う。	<input type="checkbox"/> 計画通りできた <input checked="" type="checkbox"/> まあまあできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった <input type="checkbox"/> やらなかった	<input type="checkbox"/> 効果あり継続 <input checked="" type="checkbox"/> 継続し検討 <input type="checkbox"/> 改善し継続 <input type="checkbox"/> 不明, 要検討 <input type="checkbox"/> 効果なし中止	
3	クラスアドバイザー(基礎演習を担当)が個別面談を行い、将来への迷いや疑問を受け止めると共に、福祉分野で働くことについてのアドバイスを行う。(基礎演習Ⅰ・Ⅱ)	<input checked="" type="checkbox"/> 計画通りできた <input type="checkbox"/> まあまあできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった <input type="checkbox"/> やらなかった	<input checked="" type="checkbox"/> 効果あり継続 <input type="checkbox"/> 継続し検討 <input type="checkbox"/> 改善し継続 <input type="checkbox"/> 不明, 要検討 <input type="checkbox"/> 効果なし中止	
4	eポートフォリオの活用 *「キャリアデザイン講座」にて使い方の指導を含め実施した。	<input type="checkbox"/> 計画通りできた <input checked="" type="checkbox"/> まあまあできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった <input type="checkbox"/> やらなかった	<input type="checkbox"/> 効果あり継続 <input checked="" type="checkbox"/> 継続し検討 <input type="checkbox"/> 改善し継続 <input type="checkbox"/> 不明, 要検討 <input type="checkbox"/> 効果なし中止	

所 感	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲストスピーカーは、福祉現場で活躍する女性4名を招聘し、福祉現場での仕事内容や専門職に就く女性としての仕事観、結婚観、家族観等生の声を聞くことができ、仕事と家庭をもつ生活を学生らは実感できたようである。 ・ボランティア活動や講習会等の参加とそのプレゼンでは、全学生が夏休み中に参加したわけではなかったが、プレゼンターによる学生目線での現場報告は親近感も沸き、夏休み中にボランティア活動等に参加しなかった学生もその後に体験した者もいた。 ・就労意欲に関する意識調査の結果をみると、ポスト調査では「将来仕事に就こうと思うか」で、意識の低い「1」「2」の回答が0になり、平均も0.01ポイント上昇した一方で、「家庭をもつ」と「子どもをもつ」では、ポイントが若干低くなった。仕事と家庭の両立といった点では、その厳しさを感じたのか、家庭をもたず/子どもをもたず、仕事を重視するというように意識が変化した者が若干名いると考えられる。
改善に向けた今後の取組	<p>夏休み中のボランティア活動や講習会等の参加は義務づけとしなかったが、参加者は半数ほどであったため、前期中にどのような活動や講習会等に参加するか計画を立てる授業を入れた方が参加率が上がると思われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就労意欲に関する意識調査の結果から示唆されることは、仕事と家庭の両立について、よいイメージをもてるような工夫をようする。

◆成果

No.	項 目	評価方法	目標値	実 績	自己評価
1	ゲストスピーカーによるセッション	前期3回実施。各回受講レポートを作成し、次週に振り返りのセッションを行う	(出席した)全員が3回のレポートをすべて提出し、振り返りセッションで意見交換をする	ほぼ全学生が目標を達成できた。	<input checked="" type="checkbox"/> 達成できた <input type="checkbox"/> ほぼ達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった
2	学生プレゼンによるセッション	前期4回実施。受講レポートを作成する	全員がレポート提出する	全学生が目標を達成できた。	<input checked="" type="checkbox"/> 達成できた <input type="checkbox"/> ほぼ達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった
3	就業や家庭をもつ意識についての質問紙調査の実施(1年)	年度始めと年度終わりに同一の質問紙調査を実施し、その変化をみる	全員に実施	全員に実施した。 (ポストテストが1/21実施であったため、分析は今年度中に行う)	<input type="checkbox"/> 達成できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった

4	学生との個別面談	面談レポートを学科会議で検討	全員に実施 要支援学生のピックアップと指導	全員との個別面談を行い、学科会議にて要支援学生について対応を検討、実施した。	<input type="checkbox"/> 達成できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった
---	----------	----------------	--------------------------	--	--

◆就労意欲に関する意識調査 プレ/ポスト結果

プレ調査 回答：40名・欠席：1名 ポスト調査 回答：38名・欠席2名

質問1. あなたは、将来仕事に就こうと思っっていますか？

(回答選択肢：1 わからない, 2 仕事には全く就きたくない, 3 結婚するまでは仕事もちたい, 4 育児期間をとおいてその前後仕事もちたい, 5 生涯を通じての仕事を得たい)

質問2. あなたは、将来自分の家庭をもちたいと思っっていますか？

(回答選択肢：とても思う 5 — 4 — 3 — 2 — 1 全く思わない)

質問3. あなたは、将来子どもを育てたいと思っっていますか？

(回答選択肢：とても思う 5 — 4 — 3 — 2 — 1 全く思わない)

* (ポストテストのみ)

質問4. この1年を通じ、基礎演習を通じ、仕事・結婚・育児等についてイメージの変わった点がありますか？

(回答選択肢：変わったと、とても思う 5 — 4 — 3 — 2 — 1 全く思わない)

回答	1		2		3		4		5		平均	
	事前	事後	事前	事後	事前	事後	事前	事後	事前	事後	事前	事後
質問1	3	0	0	0	4	6	14	16	20	16	4.25	4.26
質問2	1	3	3	3	7	4	7	8	22	20	4.15	4.03
質問3	1	2	3	5	5	3	7	5	24	23	4.25	4.11
質問4		1		9		21		6		1		2.92

◆実施報告

実施事項	⑩ 項	教育のICT化
目的	社会福祉現場実習指導における学生の自己学習を促す	
21年度実施内容	開発された実習支援システムを活用し、その実用性について評価する。 実習支援システムを活用し、その実用性について評価し、活用状況について昨年度との比較を行い、システムの充実を図る。	

実施事項の目標	<p>①「社会福祉援助技術現場実習指導A」において、実習支援システムの利用方法を学生に教示し、施設理解や実習計画書の立案等などの自己学習に活用する。</p> <p>②「社会福祉援助技術現場実習指導B」において、実習中の問題解決や実習総括の自己学習に活用する。</p> <p>③実習支援システムの実用性について評価及び昨年度との比較を行い、システムの改善に役立てる。</p> <p>④「社会福祉援助技術現場実習指導A」において、実習支援システムの利用方法について実演を交えた学習を行い、実習支援システムについての学生の理解度および活用度の向上を図る。</p>	到達レベル	<p>①全員(100%)への教示と利用</p> <p>②利用率80%</p> <p>③対象者全員(100%)への実用性</p> <p>アンケートの実施と結果からの改善内容の検討</p>
実施項目		自己評価	効果予測
1	「社会福祉援助技術現場実習指導A」において、実習支援システムの利用方法を学生に教示し、施設理解や実習計画書の立案等などの自己学習に活用する。	<input checked="" type="checkbox"/> 計画通りできた <input type="checkbox"/> まあまあできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった <input type="checkbox"/> やらなかった	<input checked="" type="checkbox"/> 効果あり継続 <input type="checkbox"/> 継続し検討 <input type="checkbox"/> 改善し継続 <input type="checkbox"/> 不明, 要検討 <input type="checkbox"/> 効果なし中止
2	「社会福祉援助技術現場実習指導B」において、実習中の問題解決や実習総括の自己学習に活用する。	<input type="checkbox"/> 計画通りできた <input checked="" type="checkbox"/> まあまあできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった <input type="checkbox"/> やらなかった	<input type="checkbox"/> 効果あり継続 <input type="checkbox"/> 継続し検討 <input checked="" type="checkbox"/> 改善し継続 <input type="checkbox"/> 不明, 要検討 <input type="checkbox"/> 効果なし中止
3	実習支援システムの実用性について評価し、システムの改善に役立てる。	<input checked="" type="checkbox"/> 計画通りできた <input type="checkbox"/> まあまあできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった <input type="checkbox"/> やらなかった	<input type="checkbox"/> 効果あり継続 <input checked="" type="checkbox"/> 継続し検討 <input type="checkbox"/> 改善し継続 <input type="checkbox"/> 不明, 要検討 <input type="checkbox"/> 効果なし中止
4	「社会福祉援助技術現場実習指導A」において、実習支援システムの利用方法について実演を交えた学習を行い、実習支援システムについての学生の理解度および活用度の向上を図る。	<input checked="" type="checkbox"/> 計画通りできた <input type="checkbox"/> まあまあできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった <input type="checkbox"/> やらなかった	<input checked="" type="checkbox"/> 効果あり継続 <input type="checkbox"/> 継続し検討 <input type="checkbox"/> 改善し継続 <input type="checkbox"/> 不明, 要検討 <input type="checkbox"/> 効果なし中止
所感	<p>「学外実習支援システム」は、実習生への教材、事前学習の資料として有効に活用することができたと考える。時間や場所にとらわれることなく、実習生の都合に合わせて、必要な資料や情報を手に入れることができるツールとして利用された。</p> <p>しかし一方、実習が始まると、通年型実習(週1回)であるため、実習での困りごとや不明な点などがあった場合は、翌週に学校に登校し、直接学校に来て担当教員に相談するなどの対応をした学生が多かったため、ほとんどの実習生は「学</p>		

	外実習支援システム」を利用する機会がほとんどなかった。
改善に向けた 今後の取組	実用性アンケートの結果をもとに、今後は「学外実習支援システム」の使われ方を把握した上で、学生のニーズに即してシステム作りを行っていく必要である。事前学習の教材や実習先施設の情報など、学生が必要としている項目を特化する方向で「学外実習支援システム」を改善していく。

◆成果

No.	項目	評価方法	目標値	実績	自己評価
1	実習支援システムの試行とその評価	実用性アンケートの実施	全対象者(100%)への実施	回収率 100% (59名中 59名)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成できた <input type="checkbox"/> ほぼ達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった

◆実用性アンケート結果の概要

平成 22 年 1 月 21 日(木)に、集合調査法にて「社会福祉援助技術現場実習 A・B」履修者全員に対して実施。

<平成 20 年度と平成 21 年度との比較>

平成 20 年度	割合	平成 21 年度	割合
利用経験者	75.6%	利用経験者	55.6%
3 回以上の利用	35.6%	3 回以上の利用	20.4%
満足度(とても満足、満足)	59.0%	満足度(とても満足、満足)	63.3%

*補足説明：平成 21 年度「利用経験者」については、本学のコンピュータ室にて、履修者全員「学外実習支援システム」を使って授業を行っている。

「55.6%」という結果は、この授業以外での使用、または授業で行ったこの「学外実習支援システム」への認知度が低かったことなどが影響しているのではないかと推測される。

*考察：平成 20 年度と比較し、平成 21 年度では「利用経験者」、「3 回以上の利用」ともに低い割合で利用者の減少が見られるが、「学外実習支援システム」に対する学生からの評価は、平成 20 年度と比較して平成 21 年度では高い割合となっている。これは、前年度の課題であったシステムの改善等を行ったことで、内容が充実し、また以前に比べて使いやすくなったことが「満足度」に影響を与えたのではないかと考える。また利用者の減少は、本学の実習(通年型実習)の形態に活かされる形になっていなかったことが影響したのではないかと推測される。学校へ行くことができない集中型実習であれば、この「学外実習支援システム」が活かされたのではないかとこのアンケート結果から考察できる。

3.7 学生キャリア支援センター／エクステンションセンター

学生キャリア支援センター／エクステンションセンターでは、以下の4項目について実施することを計画した。

※○番号は、「1. 2 取組内容」で明示した項目に対応している。

1. ⑥社会人基礎力養成関係---- 社会人基礎力養成講座
2. ⑥社会人基礎力養成関係---- スキルアップ講座
3. ⑦学生情報のICT化
4. ⑧インターンシップ（一般）

◆実施報告1

実施事項	⑥ 項	社会人基礎力養成関係	
目的	社会人としての基本的な能力を十分に備えた人材を育成する		
20年度実施内容	正課外教育として「社会人基礎力養成講座」および「社会人基礎力」の能力検定を全学科を対象に実施する。		
実施事項の目標	講座情報を自分で判断し、講座・能力検定への参加する自主性をつける 講座から有意義な情報を得る力をつける 継続して学習する力をつける	到達レベル	参加率 満足度 出席率
実施項目		自己評価	効果予測
1	社会人基礎力養成講座の開講 I（読み書き・コミュニケーション）	<input type="checkbox"/> 計画通りできた <input checked="" type="checkbox"/> まあまあできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった <input type="checkbox"/> やらなかった	<input type="checkbox"/> 効果あり継続 <input type="checkbox"/> 継続し検討 <input checked="" type="checkbox"/> 改善し継続 <input type="checkbox"/> 不明、要検討 <input type="checkbox"/> 効果なし中止
2	社会人基礎力養成講座の開講 II（計算・社会人常識）	<input type="checkbox"/> 計画通りできた <input checked="" type="checkbox"/> まあまあできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった <input type="checkbox"/> やらなかった	<input type="checkbox"/> 効果あり継続 <input type="checkbox"/> 継続し検討 <input checked="" type="checkbox"/> 改善し継続 <input type="checkbox"/> 不明、要検討 <input type="checkbox"/> 効果なし中止
3	社会人基礎力養成講座の開講 III（ビジネスマナー）	<input type="checkbox"/> 計画通りできた <input checked="" type="checkbox"/> まあまあできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった <input type="checkbox"/> やらなかった	<input type="checkbox"/> 効果あり継続 <input type="checkbox"/> 継続し検討 <input checked="" type="checkbox"/> 改善し継続 <input type="checkbox"/> 不明、要検討 <input type="checkbox"/> 効果なし中止
4	能力検定の実施 自己発見レポート	<input type="checkbox"/> 計画通りできた <input checked="" type="checkbox"/> まあまあできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった <input type="checkbox"/> やらなかった	<input type="checkbox"/> 効果あり継続 <input checked="" type="checkbox"/> 継続し検討 <input type="checkbox"/> 改善し継続 <input type="checkbox"/> 不明、要検討 <input type="checkbox"/> 効果なし中止

5	能力検定の実施 就職適性検査	<input type="checkbox"/> 計画通りできた <input checked="" type="checkbox"/> まあまあできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった <input type="checkbox"/> やらなかった	<input type="checkbox"/> 効果あり継続 <input checked="" type="checkbox"/> 継続し検討 <input type="checkbox"/> 改善し継続 <input type="checkbox"/> 不明, 要検討 <input type="checkbox"/> 効果なし中止
6	能力検定の実施 H Qテスト	<input type="checkbox"/> 計画通りできた <input checked="" type="checkbox"/> まあまあできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった <input type="checkbox"/> やらなかった	<input type="checkbox"/> 効果あり継続 <input type="checkbox"/> 継続し検討 <input checked="" type="checkbox"/> 改善し継続 <input type="checkbox"/> 不明, 要検討 <input type="checkbox"/> 効果なし中止
改善に向けた 今後の取組		社会人基礎力養成講座については、内容を簡略化して平日に開講し、キャリア形成学科では演習として必修化、H Qテストは受診者の増加を目指す	

◆社会人基礎力養成講座の成果

No.	講座名	評価方法	目標値	実績	自己評価
1	I (読み書き・コミュニケーション)	受講人数とアンケートにより	受講人数 20 名 満足度 50%	【H20 年度】 大変役に立った 74.5%	<input type="checkbox"/> 達成できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった
				【H21 年度】 大変役に立った 53.7%	
2	II (計算・社会人常識)	受講人数とアンケートにより	受講人数 20 名 満足度 50%	【H20 年度】 大変役に立った 74.5%	<input type="checkbox"/> 達成できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった
				【H21 年度】 大変役に立った 31.8%	
3	III (ビジネスマナー)	受講人数とアンケートにより	受講人数 60 名 満足度 50%	【H20 年度】 大変役に立った 68.7%	<input type="checkbox"/> 達成できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった
				【H21 年度】 大変役に立った 62.3%	

◆能力検定の成果

No.	講座名	評価方法	目標値	実績	自己評価
1	自己発見レポート	提出人数チェック	100名	【H20 年度】 167 名 (44%)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成できた <input type="checkbox"/> ほぼ達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった
				【H21 年度】 253 名 (62%)	

2	就職適性検査	提出人数チェック	100名	【H20年度】 179名(43%)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成できた <input type="checkbox"/> ほぼ達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった
				【H21年度】 188名(51%)	
3	HQテスト	提出人数チェック	【H20年度】 マークシート100名 Web 30名	【H20年度】 118名 32名	<input checked="" type="checkbox"/> 達成できた <input type="checkbox"/> ほぼ達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった
			【H21年度】 マークシート500名	【H21年度】 760名(48%)	

◆実施報告2

実施事項	⑥ 項	社会人基礎力養成関係
目的	社会人としての基本的な能力を十分に備えた人材を育成する	
実施内容	正課外教育として「スキルアップ講座(キャリア形成・就職支援のための講座)」の充実を図る。	
実施項目		自己評価
1	一般企業筆記試験・公務員試験対策講座	<input type="checkbox"/> 計画通りできた <input checked="" type="checkbox"/> まあまあできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった <input type="checkbox"/> やらなかった
2	話しことば検定対策講座	<input checked="" type="checkbox"/> 計画通りできた <input type="checkbox"/> まあまあできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった <input type="checkbox"/> やらなかった
3	面接スキルアップ講座	<input checked="" type="checkbox"/> 計画通りできた <input type="checkbox"/> まあまあできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった <input type="checkbox"/> やらなかった
4	日本語検定対策講座	<input type="checkbox"/> 計画通りできた <input checked="" type="checkbox"/> まあまあできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった <input type="checkbox"/> やらなかった
所感	全般的に大きな問題点もなく順調に講座を実施できた。	
改善に向けた今後の取組	日本語検定対策講座のみ中止、他は継続	

◆スキルアップ講座の成果

No.	講座名	評価方法	目標値	実績	自己評価
1	一般企業筆記試験・公務員試験対策講座	受講人数とアンケートにより	受講人数 30 名 満足度 50%	【H20 年度】 受講数 45 名 大変役に立った 60%	<input checked="" type="checkbox"/> 達成できた <input type="checkbox"/> ほぼ達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった
				【H21 年度】 受講数 26 名	
2	話しことば検定対策講座	受講者人数と検定合格率	受講人数 80 名 合格率 3 級 90% 2 級 70%	【H20 年度】 受講者 110 名 3 級合格 96% 2 級合格 100%	<input checked="" type="checkbox"/> 達成できた <input type="checkbox"/> ほぼ達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった
				【H21 年度】 受講者 71 名 3 級合格 99% 2 級合格 67%	
3	面接スキルアップ講座	受講人数とアンケートにより	受講人数 50 名 満足度 50%	【H20 年度】 受講者 60 名 大変役に立った 96.7%	<input checked="" type="checkbox"/> 達成できた <input type="checkbox"/> ほぼ達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった
				【H21 年度】 受講者 49 名 大変役に立った 91.3%	
4	日本語検定対策講座	受講人数と検定合格率	受講人数 50 名 4 級 70% 3 級 20% 2 級 5%	【H20 年度】 受講者 67 名 4 級合格 76% 3 級合格 16%	<input type="checkbox"/> 達成できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった

◆実施報告 3

実施事項	⑦ 項	学生情報の ICT 化	
目的	個別対応教育支援のために ICT の活用を図る		
20 年度実施内容	前年度の環境整備を受けて、ICT の本運用に入る		
	実施項目	自己評価	効果予測
1	就職支援システムの本運用開始	<input checked="" type="checkbox"/> 計画通りできた <input type="checkbox"/> まあまあできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった <input type="checkbox"/> やらなかった	<input checked="" type="checkbox"/> 効果あり継続 <input type="checkbox"/> 継続し検討 <input type="checkbox"/> 改善し継続 <input type="checkbox"/> 不明, 要検討 <input type="checkbox"/> 効果なし中止

2	面談支援システムの試用と本運用開始	<input type="checkbox"/> 計画通りできた <input type="checkbox"/> まあまあできた <input checked="" type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった <input type="checkbox"/> やらなかった	<input type="checkbox"/> 効果あり継続 <input type="checkbox"/> 継続し検討 <input checked="" type="checkbox"/> 改善し継続 <input type="checkbox"/> 不明，要検討 <input type="checkbox"/> 効果なし中止
所 感	就職支援システムについては、本運用を開始し学生に十分に活用されているが、面談システムについては、試行の段階にとどまっている		
改善に向けた今後の取組	面談システムの本格的運用開始を目指す		

◆利用実績

No.	項 目	評価方法	目標値	実 績	自己評価
1	就職支援システム	登録件数とアクセス数を調査	登録件数 2500 件 アクセス数 30 件/日	【H20 年度】 3,800 件 61 件/日	<input checked="" type="checkbox"/> 達成できた <input type="checkbox"/> ほぼ達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった
				【H21 年度】 3,855 件 49 件/日	
2	面談支援システム		導入・試行・本格的運用	【H20 年度】 試行まで	<input type="checkbox"/> 達成できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった
				【H21 年度】 525 件/年	

◆実施報告 4

実施事項	⑧ 項	インターンシップ（一般）
目 的	就労意欲の醸成および職業理解	
20 年度実施内容	正課外インターンシップの制度整備と試行開始	
	実施項目	自己評価
1	マニュアルアの整備とインターンシップ情報の整理、試行	<input type="checkbox"/> 計画通りできた <input checked="" type="checkbox"/> まあまあできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった <input type="checkbox"/> やらなかった
	効果予測	<input type="checkbox"/> 効果あり継続 <input checked="" type="checkbox"/> 継続し検討 <input type="checkbox"/> 改善し継続 <input type="checkbox"/> 不明，要検討 <input type="checkbox"/> 効果なし中止
改善に向けた今後の取組	キャリアデザイン講座Ⅲによる単位化	

◆成果

No.	項 目	評価方法	目標値	実 績	自己評価
1	インターンシップ	参加者の人数により評価	10 名	【H20 年度】 17 名（単位無）	<input checked="" type="checkbox"/> 達成できた <input type="checkbox"/> ほぼ達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった
				【H21 年度】 13 名（2 単位）	

3.8 学園 IT 推進部／情報教育センター

学園 IT 推進部／情報教育センターでは、以下の 2 項目について実施することを計画した。

※○番号は、「1. 2 取組内容」で明示した項目に対応している。

1. ④個別対応教育----- e ラーニング
2. ⑦学生情報の ICT 化

◆実施報告 1

実施事項	④ 項	個別対応教育プログラムの実施	
目的	e ラーニングを利用した効果的かつ効率的な学習の支援		
実施内容	<p>Blackboard に e-Learning のコースを開設し、活用を促進する。開設するコースは前年度の利用状況なども参考にし、キャリア教育の視点とニーズに沿って選定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次のような活用促進策を実行する。 <ul style="list-style-type: none"> - 各種媒体による全学学生への PR (学内掲示、光華 navi、説明会での紹介など) - 全学学生の利用に向けた申し込み受け付け - 関係する学科・ゼミへの利用の働きかけ - 教員への授業での利用の働きかけ：Ex. 1 回生の授業「情報処理 I」(全 11 クラス)での紹介と教材への活用 ・学習を後押しし、進捗を見ながら適宜アドバイスできるような仕組みを検討する。 		
実施事項の目標	<p>e-Learning の拡充と利用支援および指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1 人でも多くの学生に活用してもらい、社会人基礎力をはじめとする能力向上に役立ててもらおう。 ・受講登録したコースを最後までやり遂げてもらう。 	到達レベル	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の 3 割程度が利用経験を持つ ・e-Learning コースの中に、各学科が学生に推奨するコースがある
実施項目		自己評価	効果予測
1	1 回生の授業「情報処理 I」(全 11 クラス)での紹介と課題への利用	<input checked="" type="checkbox"/> 計画通りできた <input type="checkbox"/> まあまあできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった <input type="checkbox"/> やらなかった	<input type="checkbox"/> 効果あり継続 <input checked="" type="checkbox"/> 継続し検討 <input type="checkbox"/> 改善し継続 <input type="checkbox"/> 不明, 要検討 <input type="checkbox"/> 効果なし中止
2	関係の学科への利用の呼びかけ	<input type="checkbox"/> 計画通りできた <input checked="" type="checkbox"/> まあまあできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった <input type="checkbox"/> やらなかった	<input type="checkbox"/> 効果あり継続 <input type="checkbox"/> 継続し検討 <input checked="" type="checkbox"/> 改善し継続 <input type="checkbox"/> 不明, 要検討 <input type="checkbox"/> 効果なし中止

3	全学学生の利用に向けた申し込み受け付け	<input type="checkbox"/> 計画通りできた <input checked="" type="checkbox"/> まあまあできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった <input type="checkbox"/> やらなかった	<input type="checkbox"/> 効果あり継続 <input type="checkbox"/> 継続し検討 <input checked="" type="checkbox"/> 改善し継続 <input type="checkbox"/> 不明, 要検討 <input type="checkbox"/> 効果なし中止
所 感		<p>この e-Learning は自習の形をとるのが基本的な使い方であるが、学習を進めるには一定の意欲と根気が必要であり、受講登録まで導いて後は本人に任せるという現在の方式では、最後までやり遂げさせるのは簡単ではなさそうである。学習そのものを後押しし、進捗を見ながら適宜アドバイスを与えるような仕組みを作ることにより、活用を促進させることができると考えられる。</p> <p>また、コースの選定にあたっては関係学科・関係部門とよく相談のうえ、また、学生の希望もサーベイして、よりニーズの高いコースを選定する必要がある。</p>	
改善に向けた今後の取組		<p>①これまでの利用状況をもとに、関係学科・関係部門とも相談して選定コースを見直す。場合によっては、授業のサブ教材として使ってもらおうよう働きかける。</p> <p>②これまでの新入生オリエンテーションでの紹介や Web 中心の広報手段に加えて、新たな方法で広報する（ポスター、関係授業での紹介依頼、関係学科・関係部門による紹介の依頼など）。また、今年度、学生へのアンケートを実施中であり、これにより把握できた学生のニーズや意見をさらに反映していく。</p>	

◆学習実行状況

H20 年度～H21 年度に開設した各コースの実際の学習実行者の人数は以下の通りである。両年度にわたるコース (No. 4～9) については 2 年分の合計となる。

なお、これらの e-ラーニングコースは学習状況が把握できないため、学習を最後まで完了したかどうかは明確ではなく、ログイン実行者の人数である。

状況 (◎：よく使われている，○：使われている，△：少し利用されている，×：ほとんど利用なし)

	e-Learning コース	状況
1	TAC 基本情報技術者午前対策コース	×
2	就職活動入門	×
3	簿記入門	△
4	TOEIC 写真描写問題	○
5	TOEIC 応答問題	△
6	レポート作成入門	◎
7	就職面接入門	△
8	リメディアルコース統計学 I	○
9	プレゼンテーション入門	◎
10	ディベート入門	×
11	正しい日本語入門	△
12	社会人マナー入門	△
13	働く意義と会社のしくみ	△

◆補足説明

H21 年度の 1 月現在、光華 navi を活用して学生にコース希望のアンケート調査を実施中である。まだ中間結果であるが、これによると「就職面接入門」や「社会人マナー入門」、H20 年度のみ実施した「就職活動入門」などの就職に直結するコースへの希望がとりわけ多い。また、自由記述による希望として、現在はコースの少ない各種の資格対策講座への希望があげられている。

◆実施報告 2

実施事項	⑦ 項	学生情報の ICT 化	
目的	学生と教職員のコミュニケーションの促進 学生情報の一元化と活用		
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・大学ポータルサイトとしての「光華 navi」の定着化と活用促進および利便性向上に向けた改良 ・学生・教務・就職などのデータベースの整備と活用促進 ・e-ポートフォリオの活用促進と運用支援、改良 ・面談システムの活用促進と運用支援 ・クラスプロフィール機能の活用促進と運用支援 ・携帯版「光華 navi モバイル」の活用促進と運用支援 		
実施事項の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学生とのきめ細かいコミュニケーションに基づく教職員の的確かつタイムリーな指導 ・進路検討や就職活動にあたっての学生の支援 ・レポート、発表、コラボレーション等の力の養成 	到達レベル	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の8割が週に2～3回は光華 navi を利用する
実施項目		自己評価	自己評価
1	学生・教務・就職などのデータベース整備	<input checked="" type="checkbox"/> 計画通りできた <input type="checkbox"/> まあまあできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった <input type="checkbox"/> やらなかった	<input checked="" type="checkbox"/> 効果あり継続 <input type="checkbox"/> 継続し検討 <input type="checkbox"/> 改善し継続 <input type="checkbox"/> 不明, 要検討 <input type="checkbox"/> 効果なし中止
2	ポータルサイト（光華 navi）の運用 <ul style="list-style-type: none"> ・履修登録、成績処理 ・就職システム ・スチューデントプロフィール（学籍データ閲覧など） ・クラスプロフィール（授業支援システム） 	<input checked="" type="checkbox"/> 計画通りできた <input type="checkbox"/> まあまあできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった <input type="checkbox"/> やらなかった	<input type="checkbox"/> 効果あり継続 <input type="checkbox"/> 継続し検討 <input checked="" type="checkbox"/> 改善し継続 <input type="checkbox"/> 不明, 要検討 <input type="checkbox"/> 効果なし中止
3	面談システム試行と本運用	<input type="checkbox"/> 計画通りできた <input checked="" type="checkbox"/> まあまあできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった <input type="checkbox"/> やらなかった	<input type="checkbox"/> 効果あり継続 <input type="checkbox"/> 継続し検討 <input checked="" type="checkbox"/> 改善し継続 <input type="checkbox"/> 不明, 要検討 <input type="checkbox"/> 効果なし中止
4	e-ポートフォリオの試行と本運用	<input type="checkbox"/> 計画通りできた <input checked="" type="checkbox"/> まあまあできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった <input type="checkbox"/> やらなかった	<input type="checkbox"/> 効果あり継続 <input type="checkbox"/> 継続し検討 <input checked="" type="checkbox"/> 改善し継続 <input type="checkbox"/> 不明, 要検討 <input type="checkbox"/> 効果なし中止

5	利用促進にむけた利用アンケート実施	<input checked="" type="checkbox"/> 計画通りできた <input type="checkbox"/> まあまあできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった <input type="checkbox"/> やらなかった	<input type="checkbox"/> 効果あり継続 <input type="checkbox"/> 継続し検討 <input checked="" type="checkbox"/> 改善し継続 <input type="checkbox"/> 不明, 要検討 <input type="checkbox"/> 効果なし中止
所 感	<p>光華 navi が学生ポータルサイトとして学生・教職員の間に徐々に定着してきたといえる。積極的活用というにはまだ時間がかかるかもしれないが、別途採択された学生支援G Pでも光華 navi が中核的な役割を担っており、着実に利用率は高まりつつあると評価できる。今後これをさらに学生生活必須のツールとするためにも、現状の問題点の洗い出しと改善をさらに急ぎ、より実用的で使いやすいシステムに磨き上げていく必要がある。</p>		
改善に向けた今後の取組	<p>①面談システムを実運用しながら、運用上の問題点の洗い出しと改善をすすめる。 ②クラスプロフィールや e-ポートフォリオの利用を積極的にサポートし、利用教員を増やす。 ③学生・教職員の声を聞く機会を増やし、より便利なツールへのシステム改良をすすめる。</p>		

◆ポータルサイト利用アンケート結果

No.	項 目	目標値	実 績	自己評価
1	利用率（週に2～3回以上使う率）	80%	60%	<input type="checkbox"/> 達成できた <input type="checkbox"/> ほぼ達成できた <input checked="" type="checkbox"/> 達成できなかった

3.9 キャリア教育推進センター

キャリア教育推進センターでは、主に全体の取りまとめと各学科・関連部署のフォローを行った。

◆目的と実施報告

実施事項	③ 項	就労意識の喚起（キャリアデザイン講座、インターンシップ）		
目 的	キャリアデザイン講座による就労意識の喚起			
実施内容	「キャリアデザイン講座」の実施			
実施事項の目標	以下について意識させる 1) 職業に就きたいという気持ちがある 2) 就きたい職業の具体的なイメージが持てる	到達レベル	講座 I でのアンケート評価 1) 単位取得者の 100% 2) 単位取得者の 60%以上	
実施項目		自己評価		効果予測
1	キャリアデザイン講座 I 開講 1) 講義 15 回 H20：レポート提出 8 回	<input checked="" type="checkbox"/> 計画通りできた <input type="checkbox"/> まあまあできた		<input checked="" type="checkbox"/> 効果あり継続 <input type="checkbox"/> 継続し検討

	H21：e-ポートフォリオ レポート提出4回 2) 卒業生の講演 (1回30分) 3) 意識調査アンケート (2回)	<input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった <input type="checkbox"/> やらなかった	<input type="checkbox"/> 改善し継続 <input type="checkbox"/> 不明, 要検討 <input type="checkbox"/> 効果なし中止
2	キャリアデザイン講座Ⅱ 開講 1) 講義15回	<input checked="" type="checkbox"/> 計画通りできた <input type="checkbox"/> まあまあできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった <input type="checkbox"/> やらなかった	<input checked="" type="checkbox"/> 効果あり継続 <input type="checkbox"/> 継続し検討 <input type="checkbox"/> 改善し継続 <input type="checkbox"/> 不明, 要検討 <input type="checkbox"/> 効果なし中止
3	キャリアデザイン講座Ⅲ インターンシップを含めた授業計画検討し H21年度実施	<input checked="" type="checkbox"/> 計画通りできた <input type="checkbox"/> まあまあできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった <input type="checkbox"/> やらなかった	<input type="checkbox"/> 効果あり継続 <input checked="" type="checkbox"/> 継続し検討 <input type="checkbox"/> 改善し継続 <input type="checkbox"/> 不明, 要検討 <input type="checkbox"/> 効果なし中止
4	光華独自のキャリアデザイン講座の準備 H22年度からのキャリアデザイン講座内容の検討	<input type="checkbox"/> 計画通りできた <input checked="" type="checkbox"/> まあまあできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった <input type="checkbox"/> やらなかった	<input type="checkbox"/> 効果あり継続 <input checked="" type="checkbox"/> 継続し検討 <input type="checkbox"/> 改善し継続 <input type="checkbox"/> 不明, 要検討 <input type="checkbox"/> 効果なし中止
所 感	<p>H20年度前期のキャリアデザイン講座Ⅱについては、カリキュラムの関係で受講人数は少なかったが、その分、授業効果は高かった。当初、人前で挨拶もできなかった学生が、最終発表では、十分な発表を行えるまでに成長していた。</p> <p>H20年度後期のキャリアデザイン講座Ⅰは、「人数が多い(最終80名)」との不満の声が聞かれた。他大学では100名を超えるクラスでの実績がある。また、この講座には「初対面の人とのコミュニケーション形成」という目的もあり、他学科の学生とのグループワークの必要性から、多人数でのクラス構成は必要である。不満の本来の意味を分析し、多人数クラスでの有意性を活かした講座を計画したい。H21年度では、1クラス130名ほどの履修登録があるが、実際の出席は約半数である。出席することの意義を感じるカリキュラム作りが必要である。</p> <p>これまで(現代GP期間)はキャリア教育で実績のある企業に委託して、キャリアデザイン講座を行ってきた。この実績と学生アンケートをもとに、H22年度以降の講座は、本学独自のカリキュラムで実施する。課題中心の「自らが考え・グループで話し合っって新たな考えを導くこと」を模索していきたい。</p>		
改善に向けた 今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回違う人とグループワークを行うための効率的な座席指定 ・多人数でも、受講満足度にムラがでない工夫 ・振り返り学習の時間配分 		

◆成果

No.	項目	評価方法	目標値	実績	自己評価
1	インターンシップ参加	参加人数	10名	13名	<input checked="" type="checkbox"/> 達成できた <input type="checkbox"/> ほぼ達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった

2	就労意識	意識調査アンケート	就労意識 100%	H20：76%（どちらともを加えると97%） H21：86%（どちらともを加えると98%）	<input type="checkbox"/> 達成できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった
3	職業の具体的なイメージ	意識調査アンケート	職業イメージ 60%以上	H20：45%（どちらともを加えると86%） H21：55%（どちらともを加えると89%）	<input type="checkbox"/> 達成できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成できた <input type="checkbox"/> 達成できなかった

◆キャリアデザイン講座 I における意識調査結果

	平成 20 年度 Ia		平成 20 年度 Ib		平成 21 年度 Ia		平成 21 年度 Ib	
	11/11 26 名	1/27 25 名	11/11 80 名	1/27 84 名	9/29 134 名	1/26 99 名	9/29 123 名	1/26 94 名
職業に就きたい	65%	76%	71%	76%	71%	87%	76%	85%
職業の具体的なイメージ	38%	52%	29%	42%	45%	50%	47%	60%
職業3年間継続意志	77%	88%	65%	75%	69%	83%	79%	83%
職業の適性を考える	58%	76%	81%	81%	66%	76%	78%	87%
専業主婦は希望しない	27%	44%	29%	35%	36%	46%	44%	45%
職業について考える	38%	28%	28%	37%	28%	39%	36%	42%
キャリアデザイン理解	73%	84%	75%	76%	75%	86%	75%	88%

4. 調査研究

4.1 先行事例調査

本事業の円滑に進める為、今後のキャリア教育に反映させる方法を検討する為に、先行事例調査を行った。その訪問先を以下に報告する。お忙しい中、丁寧なアドバイスをいただいた事、改めて感謝する。

- (1) 熊本大学（平成 19 年 11 月 15 日）

調査担当者： 山本 嘉一郎，阿部 一晴

- (2) 法政大学（平成 20 年 3 月 11 日）

調査担当者： 山本 嘉一郎

- (3) 龍谷大学（平成 20 年 7 月 17 日）

調査担当者： 南 章夫

- (4) 京都女子大学（平成 20 年 8 月 5 日）

調査担当者： 阿部 一晴，南 章夫

- (5) 吉備国際大学（平成 22 年 2 月 9 日）

調査担当者： 原田 雅恒，吉田 咲子

4.2 フォーラムへの出席

キャリア教育関係の考え方、内容、効果の確認など方法論を収集する目的で、各種シンポジウムやフォーラムに参加し、学内関係者へ報告と情報共有を実施した。以下に、参加実績を報告する。

- (1) 平成 19 年度「大学改革プログラム合同フォーラム」（平成 21 年 2 月 9, 10 日）

出席者： 山本 嘉一郎，阿部 一晴，古賀 正弘，南 章夫

- (2) 阪南大学現代 GP 成果フォーラム（平成 20 年 2 月 21 日）

出席者： 阿部 一晴

- (3) 大阪大谷大学現代 GP 最終成果報告会（平成 20 年 3 月 1 日）

出席者： 阿部 一晴

- (4) 初年次教育学会設立総会（平成 20 年 3 月 11 日）

出席者： 阿部 一晴

- (5) 京都女子大学現代GP成果報告会（平成20年7月5日）
出席者： 阿部 一晴
- (6) 関西国際大学 特色GPシンポジウム（平成20年9月26日）
出席者： 阿部 一晴
- (7) 21世紀の大学教育と人材育成（平成20年10月4日）
主催：京都大学経済研究所、財団法人総合経済研究所
出席者： 阿部 一晴
- (8) 関西学院大学講演会「これからの学士課程教育」（平成20年10月25日）
出席者： 山本 嘉一郎，阿部 一晴，吉田 咲子
- (9) 京都女子大学シンポジウム「女子学生のキャリア開発」（平成20年11月26日）
出席者： 阿部 一晴，吉田 咲子
- (10) 追手門学院大学キャリア教育シンポジウム（平成20年11月28日）
出席者： 阿部 一晴
- (11) 平成20年度インターンシップ成果報告会（平成20年12月3日）
主催：特定非営利活動法人 日本インターンシップ推進協会主催
出席者： 吉田 咲子
- (12) 羽衣国際大学インターンシップフォーラム（平成20年12月4日）
出席者： 吉田 咲子
- (13) 同志社大学現代GPシンポジウム（平成20年12月6日）
出席者： 吉田 咲子
- (14) 平成20年度「大学改革プログラム合同フォーラム」（平成21年1月12,13日）
出席者： 山本 嘉一郎，伊藤 勝久，吉田 咲子
- (15) 大学コンソーシアム京都 FDフォーラム（平成21年2月28日）
出席者： 阿部 一晴
- (16) 関西大学現代GPシンポジウム（平成21年2月28日）
出席者： 吉田 咲子

(17) 阪南大学現代 GP フォーラム (平成 21 年 3 月 13 日)

出席者： 山本 嘉一郎, 阿部 一晴

(18) 大阪樟蔭女子大学現代 GP 第 2 回シンポジウム (平成 21 年 3 月 13 日)

出席者： 吉田 咲子

(19) 追手門学院大学キャリア教育シンポジウム (平成 21 年 11 月 30 日)

出席者： 阿部 一晴, 吉田 咲子

(20) 平成 21 年度「大学改革プログラム合同フォーラム」(平成 22 年 1 月 7, 8 日)

出席者： 山本 嘉一郎, 阿部 一晴, 伊藤 勝久, 吉田 咲子

(21) 学生支援意見交換会 (平成 22 年 2 月 1 日)

出席者： 阿部 一晴

(22) 武蔵野大学 (平成 22 年 2 月 9 日)

出席者： 阿部 一晴

(23) 追手門学院就職支援フォーラム (平成 22 年 3 月 2 日)

出席者： 吉田 咲子

(24) 阪南大学現代 GP 成果フォーラム (平成 22 年 3 月 8 日)

出席者： 阿部 一晴, 吉田 咲子

(25) 大学関西フォーラム第 9 回シンポジウム (平成 22 年 3 月 15 日)

出席者： 阿部 一晴, 吉田 咲子

4.3 外部講師による学内勉強会

本取組では、外部の情報を広く取り入れる目的で、外部講師を招いて勉強会を実施した。特に企業の人材育成に携わる方を招いて、社会のニーズに対しての意見交換会を行った。

(1) 社会人基礎力の測定（平成20年9月25日）

講師： 株式会社 ジェイ・エス・エル

(2) 企業が求める人材（平成20年12月4日）

講師： 株式会社 ロートレ・アモン SHOP 運営部教育担当者

(3) 企業が求める人材の移り変わり／就職支援講座を受け持つて感じる事（平成21年1月22日）

講師： Runway 代表 はしもと氏

(4) 生き生き輝く！人材育成道場（平成21年5月21日）

講師： 人材育成コンサルタント 水谷氏

(5) 現代GP最終年度で見てきたキャリア教育の成果と課題（平成21年7月23日）

講師： 追手門学院大学 講師 長尾博暢氏

(6) ハッピーキャリアを考えよう（平成21年12月17日）

講師： 戦略マーケティング研究所ケイ・ファクトリー取締役 佐野氏

Q & A

Q1 どのような体制で取り組んでいますか

- ①本取組全体の業務と管理を行なう組織としてキャリア教育推進センターを設置しています。
 - ②各学科、部署への推進依頼・調整はキャリア教育推進連絡会で行ないます。
- 「キャリア教育」「自分の進路」に関するご質問、ご相談がありましたら、**キャリア教育推進センター**（1号館学生キャリア支援センター事務室内、電話075-325-5315、電子メールcareered@mail.koka.ac.jp）にお気軽にご連絡・ご来室ください。

Q2 就労理解の向上としての具体的な取り組みは何ですか

- ①現在のキャリアデザイン講座Ⅰ（1年生後期）を発展させてキャリアデザイン講座Ⅱ、Ⅲを開設します。
- ②キャリアデザイン講座Ⅰでは自分の長所、適性を考えます。キャリアデザイン講座Ⅱでは働くことの高義、魅力を知り、学生時代の過ごし方を考えます。キャリアデザイン講座Ⅲではいろんな業界・仕事を知るとともに、仕事体験をします。
- ③自分の進路を早くから考えて、大学生活において目標をもって過ごすために、キャリアデザイン講座を受講することをお薦めします。
- ④基礎ゼミ（科目名は学科によって異なります）の中でも就労理解の向上を主要な教育目標にして授業を進めます。
- ⑤学外のインターンシップ（大学コンソーシアム京都主催のものなど）を活性化させる仕組みを導入します。またキャリアデザイン講座Ⅱについてはインターンシップを授業の中に組み入れます。

インターンシップを体験したい、どんなものか知りたいと思っている方は、上記のキャリア教育推進センターまたは学生キャリア支援センターにご相談ください。

Q3 基本的能力の向上及び社会人基礎力の向上としての具体的な取り組みは何ですか

- 正課教育（基本的能力の向上）
 - ①基礎的教育科目の昇直しと強化（基礎ゼミの導入、リメディアル教育の実施、本学独自の英語教材の開発など）を行ないます。
 - ②学習支援室（ラーニングルーム）を設置し、上級生による学習支援を実施します。
 - 平成19年度は人間関係学科で試行しました。場所は、慈光館4Fの人間関係学科共同研究室で、毎週月曜から金曜日の12:00～12:50、16:10～17:40に開室しました。さまざまな科目について基礎から学び直したいと思っている方は、是非ラーニングルームにお立ち寄りください。またその他学習に関する質問に、先輩が丁寧に応えてくれます。平成20年度からは、すべての学科で開室の予定です。
 - ③学力向上の度合いをはかるため、毎年基礎学力テストを実施します。（平成20年度は、人間関係学科と社会福祉学科で試行予定）
 - 正課教育（社会人基礎力の向上）
 - ①専門ゼミ等で社会人基礎力の養成（レポート作成、発表、コラボレーション力などの教育）を強化します。
 - ②専門課程と資格取得課程（国家資格課程、教職、司書など）において、社会人基礎力を備えた人材の育成の観点から教育内容・方法を改善します。
- ※社会人基礎力は社会人として活躍するための共通の基本的能力のことです。具体的には基礎学力、社会での常識、マナー、基本的能力（問題発見・解決力、協調性、プレゼンテーション能力など）のことです。

■ 正課外教育

① 社会人基礎力養成講座

対象学年	2 年生	3 年生
内 容	①読み書き ②コミュニケーション ③計算 ④社会人常識	⑤ビジネスマナー
② 社会人基礎力チェックプログラム		
対象学年	1 年生 2 年生	3 年生
プログラム	自己発見レポート	就職適性検査
	HQ 診断	

(注) HQ (Human Quotient) (人間の基本能力)：・格性・思考・態度・スキル・行動

正課外教育の①社会人基礎力養成講座は無料です。また②社会人基礎力チェックプログラムは一部学生負担となります。申し込み時期は学内掲示板、光華naviでお知らせします。特に企業に就職を希望されている方にお薦めです。

Q4 学生ポータルサイト(光華navi)とは何ですか

- ①学生ポータルサイトで一人ひとりの学生生活と学習環境を強力にバックアップします。具体的には履修する科目の登録、休講情報の確認、卒業要件・資格取得要件の確認などの修学情報の登録・閲覧がパソコンで簡単にできます。平成19年度は試行の段階でしたが、20年度から履修科目の登録など本格的に活用できるようになります。光華naviの使い方については、**学生サポートセンター**（電話075-325-5308、電子メールkykyomu@mail.koka.ac.jp）にお問い合わせください。
- ②今後、就職に活用する情報（求人情報など）のシステムを導入すると共に、修学・学生生活情報を含めた学生個別情報により、学生一人ひとりの就職支援を効果的に行なっていきます。（システムは平成20年度に運用開始予定）

Q5 ICTの活用とは具体的にどのようなことをするのですか

キャリア教育用として「簿記入門」「就職面接入門」「プレゼンテーション入門」などのeラーニング講座をBlackboardで公開しています。さらに、学習復習に便利な授業の視聴(現在一部の授業で可能)も進めていく予定です。問い合わせは**情報教育センター**（電話075-325-5390、電子メールecis@mail.koka.ac.jp）まで。

Q6 就職支援はどのようになされるのですか

就職活動の準備として就職ガイダンス（対象：大学3年生・短大部1年生、参加無料）及び就職活動中の支援（求人紹介、履歴書添削、模擬面接、進路相談、企業情報の提供、就職試験報告書の情報提供など）は**学生キャリア支援センター**（1号館1階 電話075-325-5323、電子メールcareer@mail.koka.ac.jp）が担当しています。また1～2年生に対しては、自分の将来の進路、インターンシップ、資格取得に関する相談などに対応しています。

就職のことなどからのご質問でも、お気軽にご連絡・ご来室ください。

Q7 資格取得支援

本学で取得可能な資格、受験対策講座などについての総合窓口は**エクステンションセンター**（電話075-325-5288、電子メールkcc@mail.koka.ac.jp）です。（「資格検定」「対策講座」のガイドブックも無料で配布しています）

Q8 キャリア教育とは何ですか

キャリア教育とは、社会人として必要な要件を備えた人材を育成するための教育です。本学では、「就労意識の向上」「基本的能力の養成」「社会人基礎力の養成」を主な目標として、正課教育（授業）と正課外教育（講座や支援）を融合させ、総合的に体系的なキャリア教育を実施していく予定です。

啓蒙1 学生向けリーフレット

本学がテーマ「実践的総合キャリア教育の推進」に応募した次のプログラムが平成19年度現代GPに選定されました。本学がこれを取り組んできたキャリア教育および就職支援への姿勢と実績、評価されたものです。本学では今後、文部科学省の補助事業としてさらに強力なキャリア教育とキャリア支援を推進していきます。

文部科学省平成19年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」

学生個人を大切にしたいキャリア教育の推進

一個別対応と個別対応教育による就労意識の喚起・醸成と基本的能力の養成

キャリア教育とキャリア支援

こ | 案 | 内 |

現代GPとは

文部科学省が各種審議会からの提言等、社会的要請の強い政策課題に対応したテーマを設定を行い、全国の国公私立大学・短期大学・高等専門学校から申請された取組の中から、特に優れた教育プロジェクト(取組)を選定するものです。



京都光華女子大学

キャリア教育推進センター

電話 075-325-5315 電子メール career@mail.koka.ac.jp

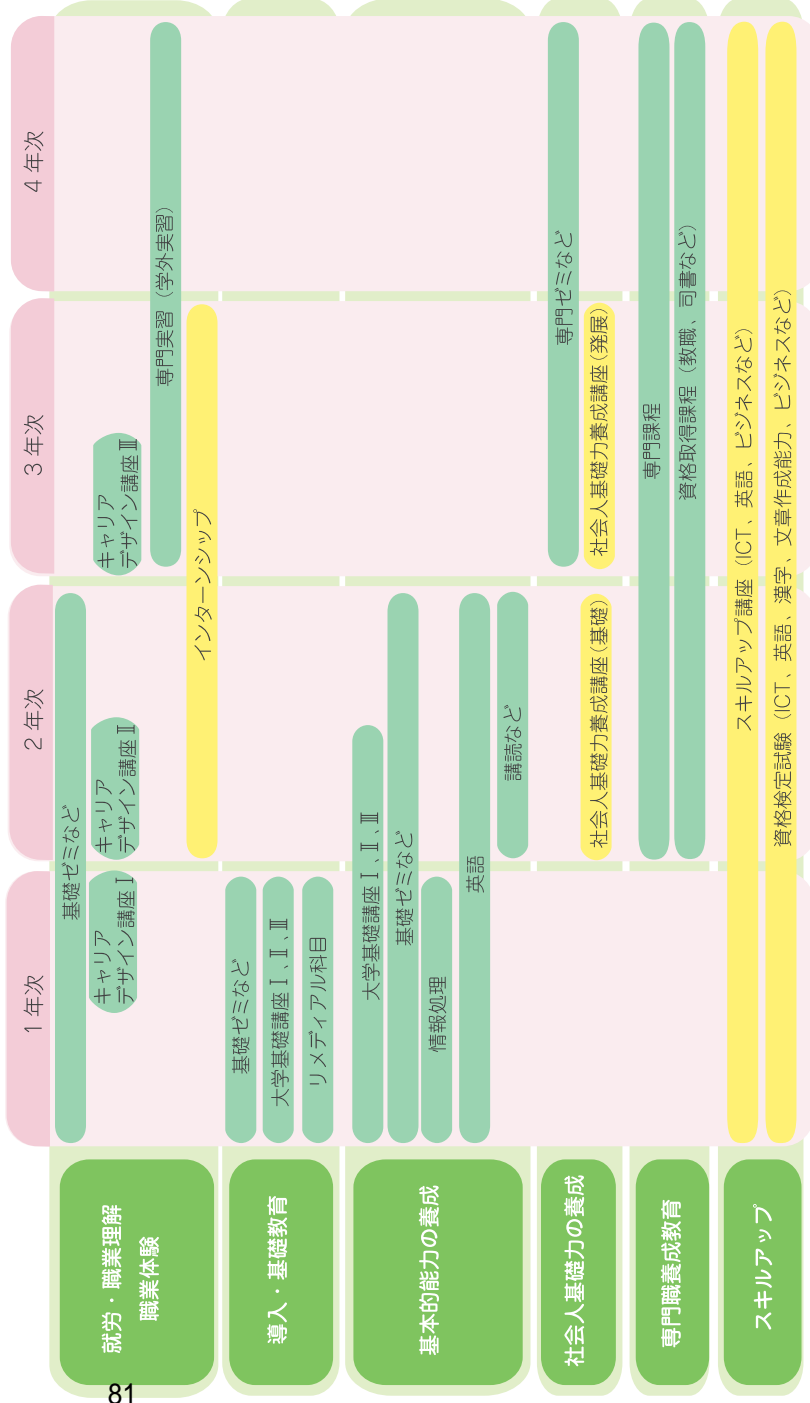
取組の目標（どのような人にならなってもらうことを目指すのか）

「自信と希望を持って社会に出ていくことのできる人材の育成」を目指します。そのため、皆さんが就職をして社会に出て行く時、そこで必要な意識と基本的に必要とされる能力を養成します。具体的には次の3点が目標です。

- ① 就労意識の喚起・醸成
十分な就労観（職に就くことへの理解）を持つことにより、働くことの意味を理解し、そこに希望を見出すことができれば、目指します。
- ② 基本的能力の養成
社会に出て働くときに基本的に必要とされる「読む、書く、聞く、話す」などの「理解力、表現力、論理的思考力」といった基本的能力を、徹底して養成します。
- ③ 社会人基礎力の養成
基本的能力をさらに進めて、プレゼンテーション能力、コラボレーション能力（人と共同して問題の解決に当たる能力）、問題発見・解決能力、情報システム活用能力、英語力等のより実践的で高度な社会人基礎力を養成します。

正課教育

正課教育



教育の内容（どのような科目や授業でこの教育を実施するのか）

教育内容は下の表のとおりで、6つの項目からなります。このように、導入教育から専門教育までの「正課教育」と資格取得講座や就職支援などの「正課外教育」を「キャリア教育」の視点から総合的・体系的に実施することによって、目標を達成します。そのため、いくつかのキャリア教育専門の科目を開設することと合わせて、基礎および専門の科目の中で、皆さんのキャリア形成を目指した教育を実施していきます。とくに、基礎ゼミと専門ゼミはこの中で大きな役割を担います。具体的な実施内容は以下の各項を見てください。

実施内容（どのようなことを実施するのか）

充実した基礎教育

基礎ゼミ（1、2年時の基礎演習など学科によって科目名称は異なります）や大学基礎講座で、働くことの意味と意義、生き方、学び方などについて学びます。合わせて、国、英、数といった基礎学力については、修得不足を補うための教育（リメディアル教育）の実施を予定しています。リメディアル教育は授業として行うだけでなく、eラーニングなどによる自習形態での学習も計画しています。

英語教育の改善と新英語教育の実施

社会人として必要最小限の英語能力を備えることを目的として、無理なく修得できる本学独自の英語教育を開発し、実施します。また、これを補完するために、自宅でもできるeラーニング教材を開発しています。

キャリアデザイン講座

職業への理解を深め、社会人として必要とされることを学びます。現在のⅠ、Ⅱに加えてⅢを開設の予定です。Ⅲ（21年度開講予定）ではインターンシップを導入し、職業体験を通してさらに就労意識を育て、職業理解を深めます。

専門教育におけるキャリア教育的視点からの教育

専門演習などの専門教育科目にもキャリア教育の視点を導入し、プレゼンテーション、レポート作成、コラボレーション、問題発見・解決といった、より進んだ基本的能力（社会人基礎力）の養成を行います。

インターンシップの大幅な導入

目的に応じた各種のインターンシップを置き、「働くことの体験」を目標に実施します。

徹底した個別対応教育

みなさんの期待に応える教育（学習）成果を約束できるよう、徹底した個別対応教育を実施します。みなさん一人ひとりのさまざまな状況を考えて、最適な指導と支援を行います。これにより、卒業時の到達水準を約束していきます。

新たな教育プログラム（方法）の導入

指導と評価を徹底し、きめ細かにまた丁寧に対応することによって、一段と高い学習効果が約束できる学習プログラムを導入します。

ICTとeラーニングによる学習支援

学習効果の向上、受講者の利便性向上などを図ることを目的として、ICTとeラーニングの活用を進めます。これにより、個別対応教育を支援します。また、みなさん自身による資格取得を促進します。

ICTによる学生生活および就職の支援

入学前から卒業後に至るまで、皆さんの情報を記録・蓄積し、学生生活・修学（学業）・就職が一体となった情報システムにより、学生生活と将来の進路（就職など）について、一人ひとりに対応した指導と相談を支援していきます。

スキルアップと資格取得の支援

各種の講座を開催して、スキルアップと有為な資格の取得を支援します。また、円滑で効率的な資格取得を進めるため、eラーニングを利用していきます。インターネットを利用した資格取得支援のeラーニング講座が開かれます。

社会人基礎力養成講座の開講

厚生労働省がモデルを提示する「社会人基礎力講座」および「その評価テスト」を実施し、同省が提唱する社会人として働くための「社会人基礎力」の養成を進めます。

GPとは・・・



--- このロゴマークは人間科学部4回生がデザインしました ---

Good Practice

「優れた取組」

文部科学省では、各大学が実施する
教育改革の取組みの中から
優れた取組を選び、サポートしています。

本学の取組みは、2年連続、「優れた取組」として認められました。

エンロールメント・マニファスト（入学から卒業までの一貫した教育目標）を掲げ、その実現に向けて、平、中、高の3段階にわたって、その目標達成に向けた教育プログラムを構築し、その実践に取り組んでいる。

平成19年

現代GP（現代的教育ニーズ取組支援プログラム）

例えば・・・
キャリア関連教育の体系化

4学年を通じてゼミ担当者に
よる個別対応体制

平成20年

学生支援GP（新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム）

光華naviによる個別対応の
バックアップ

現代GP「実践的総合キャリア教育の推進」(平成19年度採択) 学生個人を大切にしたキャリア教育の推進

～個別対応と個別対応教育による就労意識の喚起・醸成と基礎的能力の養成～

教育目標としての全体イメージ



社会人基礎力

問題発見/解決力をつける
学科専門課程・資格取得講座
社会人基礎力養成講座
スキルアップ講座・資格取得講座

基本的能力

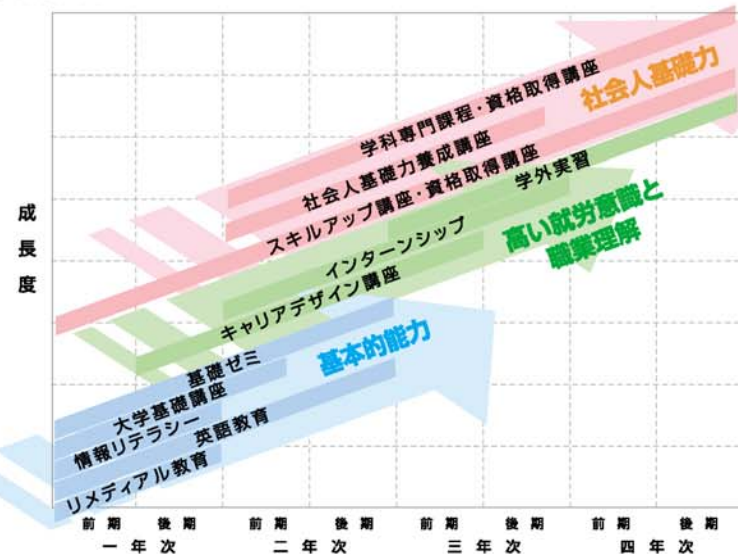
学び・伝える力を備える
基礎ゼミ
大学基礎講座
情報リテラシー
英語教育
リメディアル教育

高い就労意識と職業理解

私が歩む未来を描く
学外実習
インターンシップ
キャリアデザイン講座

社会で輝く
光華レディー

教育課程

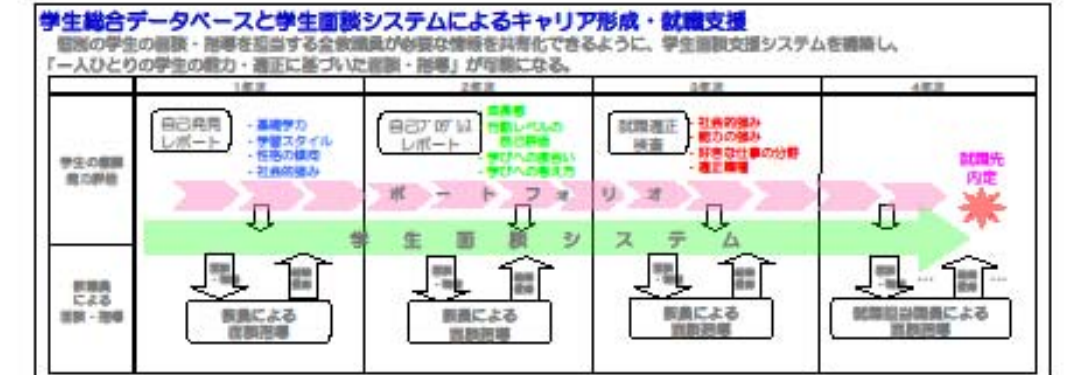


本取組で採用する新たな教育方法

- 徹底した個別対応体制の導入**
3・4年生の「専門ゼミ」に加えて、1・2年生に「基礎ゼミ」を設け、4年間を通じてのゼミ担当者による学生とそのキャリア形成への恒常的な対応を可能にします。個々の学生の学習状況をきめ細かく把握し、状況に応じた支援と指導を行います。
- 学習効果を保証する新たな教育プログラム**
「指導と評価の精緻化」による学習効果の高い教育を導入し、目標とする学力(知識・技能の習得)への到達を保証します。
- 学習支援のためのICTとeラーニングの活用**
キャリア教育の基盤として重要なコミュニケーション形成をICTで補完し、「個別対応教育」を支援します。授業では、LMS(学習支援システム)上で、授業情報や教材の提供に加えて、質疑応答を中心とした教員と学生のコミュニケーションの場を開設します。また、復習・自習などの学習支援やスキルアップ学習用にeラーニング講座を提供します。
- 学生総合データベースの構築と活用**
修学情報等の学生総合データベースと面談を統合することにより、常に個々の状況に応じた迅速かつ的確な支援・指導を行います。
- 体系的なインターンシップの実施と支援**
インターンシップを授業と連携させることで、体系的に実施します。また、実習中の知識・技能面はもちろん、精神面の支援のためにLMSや電子メールといったICTを活用します。さらに、新たにインターネットを活用した学外実習支援システムを開発します。

取り組みの詳細

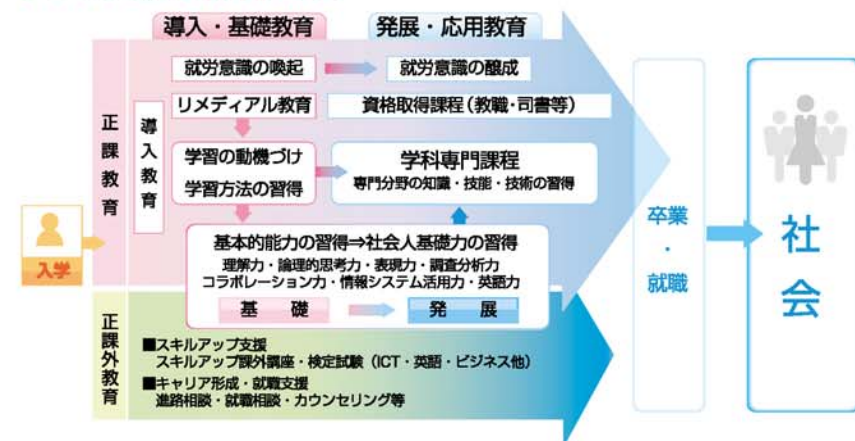
「新たな教育プログラムの導入」と「個別対応体制・教育の導入」
指導と評価を徹底し、きめ細やかにまた丁寧に対応することによって、一般と高い学習効果が約束できる学習プログラムを導入します。
<指導の精緻化>: 「内容な学力の把握」と「個別指導」の2点から構成され、学生一人ひとりの進捗度を教員と学生の双方が高度に把握し、進捗状況を把握しフィードバックします。
<評価の精緻化>: 「新設な成績評価」、「出席簿の体系化」、「GPAによる確かな学力評価」より構成され、定期試験に加え、中間・小テスト・出席など複数の評価ポイントをもとに評価を行います。これにより、学生には授業時間外での学習の努力の定着を促し、努力と能力に応じて公正/適切な評価が行えるようになります。
個別対応体制・教育の導入として、従来の3・4年生の「専門ゼミ」に加えて、1・2年生に「基礎ゼミ」をおきます。いずれも10名以内を原則として、4年間を通じてのゼミ担当者による学生とそのキャリア形成の恒常的な対応を可能にします。



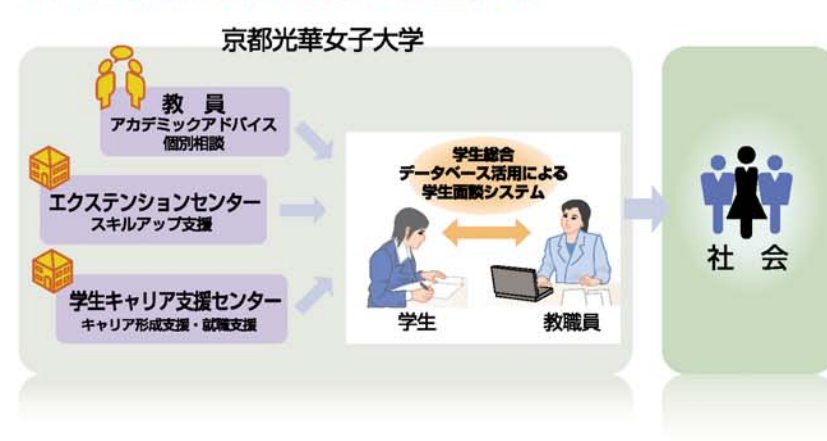
ICTとeラーニングによる学習指導と支援
学習効果の向上、受講者の利便性などを高めることを目的として、ICTとeラーニングの活用を進めます。これにより、個別対応教育を支援します。また、学生による資格取得を促進します。
本学では、「サイバーキャンパス」を核とするeラーニング環境を構築し、教育とその支援を行おうとするものである。
◎授業支援ポータルサイト(LMS) ◎VOD遠隔授業システム ◎WEB
又、eラーニングの教材として、コピキタス環境のもと
◎資格講座 ◎初級シニア試験対策 ◎基本情報技術者 ◎TOEIC学習 ◎リメディアル 統計学 ◎就職面接入門
◎レポート作成 ◎簿記 ◎就職活動 ◎プレゼンテーション 等教材を準備し学生の学習支援を行っています。

自己発見レポート	社会人基礎力の評価と養成講座			キャリア形成と就職支援
	1年生	2年生	3年生	
自己発見レポート - 基礎学力 - 学習スタイル - 性格の傾向 - 社会的適応力	自己発見レポート - 基礎学力 - 学習スタイル - 性格の傾向 - 社会的適応力	自己発見レポート - 基礎学力 - 学習スタイル - 性格の傾向 - 社会的適応力	就職適性検査 - 社会的適応力 - 能力の傾向 - 得意な仕事分野 - 適性検査	キャリアデザイン講座 就職ガイダンス インターンシップ スキルアップ講座 個別就職支援 【進捗の取り組み】 学生面談システム <進捗・適性 の共有化>
HQ (Human Quality)	第1回HQ診断 - 性格 - 思考 - 態度 - スキル - 行動	第2回HQ診断 - 性格 - 思考 - 態度 - スキル - 行動	第3回HQ診断 - 性格 - 思考 - 態度 - スキル - 行動	キャリアデザイン講座 就職ガイダンス インターンシップ スキルアップ講座 個別就職支援
前期/後期	前期(15単位)	後期(15単位)	前期(15単位)	前期(15単位)
内容	①基礎学力(読み書き) - 読解力を高める(読みと基本) - 筆記文を書く(読解と基本) - 漢字文を書く	②基礎学力(社会人基礎力) - 読解力を高める - 筆記文を書く - 漢字文を書く	③基礎学力(社会人基礎力) - 読解力を高める - 筆記文を書く - 漢字文を書く	④コミュニケーション - 社会的スキル - プレゼンテーション - 面接 - ディスカッション ◎社会のマナー - 挨拶の基本 - 電話と訪問のマナー - 接客対応のマナー - 仕事の基本とマナー

キャリア総合教育課程



キャリア形成と就職活動の支援体制



ラーニングルームとピアサポート
各学科に、上級生によるピアサポートを提供するラーニングルームを開設します。大学での学習方法や授業内容への疑問・相談に上級生が答えることにより、初年度生の悩みや不安を解消します。また、基礎教育では、TAによる授業内でのピアサポートを実施し、学習効果の向上を図ります。

新英語・新国語教育とリメディアル教育
社会人として必要とされる英語能力・国語能力を高めることを目的として、無償で修得できる本学独自の英語・国語教育を開発し、eラーニング教材として学べるようにし、又、進捗をばいめ学外でも学習が可能にします。

京都光華女子大学

～学生個人を大切にしたいキャリア教育の推進～

今後の展開
H22改組

キャリア形成学部

専門的な分野を超えた汎用的な力
総合的な社会人基礎力を
身につける事を目標とした学部

取組目標①

就労意識の喚起・醸成

基礎ゼミ

少人数クラスによる個別対応教育

【基礎ゼミにおける就労意識の喚起】
 ◆「働くことの意味」を見出させる。
 ◆そのきっかけを作っていく（喚起していく）。
 ◆十分な時間を充て、(ごく)少人数の授業の利点を生かし、効果的な教育を実施する。
 ◆PDCAと情報の共有化により、大学全体の標準を目指す。
 ◆学生が興味を持ち自主的に参加できるよう、対話および体験の要素を取り入れる。
 ◆将来の自分があることを意識させ、夢あるいは希望を持つきっかけを作る。
 ◆個々の学生との十分なコミュニケーションを形成し、働くことへの意識を引き出すことに努める。

【具体的な内容】
 ◆自分史と将来イメージの具体化・発表
 ◆将来イメージの視点から大学の学びをデザイン
 ◆個別面談
 ◆夏休みの社会活動(計画・結果の発表)
 ◆職業および就職に関する講演

【科目(例)】基礎セミナー(日本語日本文学科)
 【授業展開】
 第1期:自分のスケジュールを作る
 例)資格について専門部署に講義を依頼し、担当教員と職員との協働による授業運営を実施
 第2期:体験談を聴く
 例)就職活動体験・インターンシップ体験談を上級生より直接聞き能動的に捉える
 第3期:日本語実用力を養う
 例)状況にふさわしいコミュニケーション能力を修得するために実用的側面に即した課題を設定
 まとめ:自分のスケジュールを明確にする
 担当教員との個人面談で各自の将来計画を確認し、適切な助言を与える

【成果】
 具体的な事例をもとに手の届く目標を示した事も、各自が実感をもつことに効果的であった。

【課題】
 第1に受講生に提供する具体例の吟味
 第2に学んだ事を実感する為の振り返りの充実
 第3に質疑応答に留まらないアクティビティ導入

キャリアデザイン講座I・II・III

Iの学習テーマ:自己分析・自己理解

◆受講前後の意識調査(2008年後期実施)

キャリアデザインの意識理解

自分の自覚できるところがある

一年以内に達成したい目標がある

26名クラス

キャリアデザインの意識理解

自分の自覚できるところがある

一年以内に達成したい目標がある

84名クラス

IIの学習テーマ:職業理解

◆平均理解度の推移(2009年前期実施)

42名クラス 全平均

学ぶ意味

自己理解

職業内容の理解

進路条件の明確化

働くことの意味

【課題】
 講座I受講後には、より多くの学生が希望職業(希望進路)を具体的にイメージできるようにする。

IIIの学習テーマ:職業体験(インターンシップ)

◆インターンシップ前後の社会人基礎力診断結果(2009年前期実施)

参加後 2009年9月

参加前 2009年7月

参加後 2009年9月

参加前 2009年7月

【総括】
 「傾聴力」「状況把握力」を伸ばしたいと思っており、インターンシップに参加したのですが、診断結果を見て驚きました。

【課題】
 掲載情報の追加・変更がより簡単に誰でも行えるようになると、更に情報が充実し、利用場面が拡大すると考えられる。

専門実習

学外実習支援システムの活用

【目的】現場実習指導における自己学習を促す
 【科目名】社会福祉援助技術現場実習指導 A・B

◆公開初年度の実習生アンケート結果(2009年11月実施)

学外実習システムを利用したことがありましたか?

このサイトを主に利用する場所はどこですか?

◆公開初年度の実習生アンケート結果(2009年11月実施)

このサイトを主に利用する時間帯はいつですか?

全体的にこのサイトの満足度はどのくらいですか?

◆2009年11月実施(325名)

◆2009年6月に実施(348名)

◆2010年1月に実施予定

最終成果報告会で発表

2010.3.6

取組目標②

基本的能力の養成

英語教育

ICTを活用した新英語教育

◆音声と文字情報による自宅学習教材
 ◆iPodでモバイル学習を実現
 画面に表示されるテキストを見ながらヘッドホンで聴上げの音声を聞くことができる。コンテンツはポッドキャストとして配信している。
 学生は、自身のパソコン上で配信サイトの登録をしておけば動画・音楽の再生・管理ソフトiTunesを使用して自動的に最新のコンテンツをダウンロードすることができる。ダウンロードしたコンテンツは、iPodで視聴できる。

◆テキスト学習後の練習問題

iPod touchの画面

文章力教育

論文添削指導にeラーニングを活用

◆光華naviの「課題管理」

【利用手順】
 1.(教員)コースの課題を光華naviの「課題管理」にアップ
 2.(学生)光華naviの「課題提出」で課題を受け取り答案を作成しアップする
 3.(教員)答案の添削を行い、添削結果を「課題管理」を通じて返却する
 4.(学生)要点の解説を受けた後、受講者が添削結果を参照して答案を推敲後、課題管理にアップする
 5.(教員)提出された答案修正版を採点。採点結果を「課題管理」の採点結果通知によって、受講者に通知する

【成果】
 ワードなどを用いて文書作成が主流となった現在、言語の活用現場に適應した学習環境が得られ、受講者の側にも、積極的に課題に取り組む意欲が高まった。

【課題】
 答案ファイルの統合的な管理や複数回の添削対応等システム強化の検討が必要。

情報処理

eラーニングによる授業

【概要】
 講義内容は、IC3の試験合格を目標としているeラーニング、対面授業と同内容・同試験を実施VOD講義を受講し、各種課題やレポートに取り組み

【総括】
 受講人数が圧倒的に異なるため、eラーニングの学習効果が高いと断定はできないが、少なくとも情報処理技術の基礎力・デラシーに関しては、eラーニングには対面授業と比較した学習阻害要素はないと考えられる。

【課題】
 eラーニングでの受講者を増やす等、条件を統一して分析と評価を行う必要がある。

1,2年生への就労意識調査結果

◆現2年生 2009年1月に実施(325名)

◆現1年生 2009年6月に実施(348名)

◆2010年1月に実施予定

最終成果報告会で発表

2010.3.6

取組目標③

社会人基礎力の養成

社会人基礎力養成講座と社会人基礎力診断結果

YESプログラムに準拠(正課外)

社会人基礎力養成講座I
 読み書き(ビジネス文書の基礎知識)役に立った
 コミュニケーション能力
 大変役に立った

社会人基礎力養成講座II
 基礎学力(社会人として必要な計算)役に立った
 社会人常識(政治経済など)
 大変役に立った

社会人基礎力養成講座III
 ビジネスマナー
 役に立った
 大変役に立った

スキルアップ講座
 一般企業筆記試験対策講座
 公務員試験対策講座
 話しことは検定対策講座
 面接スキルアップ講座
 日本語検定対策講座

効果測定アセスメント
 自己発見レポート(1年生)
 就職適正検査(3年生)
 SPI、一般常識(3年生)
 社会人基礎力診断(HQテスト)(全学年)

【総括】
 目的意識を持った参加が多く、講義が役に立ったという意見が多数をしめる。

【課題】
 講座受講者を更に増やす(開講案内の工夫)
 出席率の向上(モチベーションの持続)

3年生受診率 60%(224名)
 1年生受診率 52%(211名)

2009年7月全学生を対象に社会人基礎力診断(HQテスト)を実施。大学に入学して3ヶ月、期待していた1年生と就職活動を半年後に控えた3年生の自己評価を比較したグラフである。

「前に踏み出す力」の自己評価

「考え抜く力」の自己評価

「チームで働く力」の自己評価

2009年7月全学生を対象に社会人基礎力診断(HQテスト)を実施。大学に入学して3ヶ月、期待していた1年生と就職活動を半年後に控えた3年生の自己評価を比較したグラフである。

「前に踏み出す力」では、1年生に自分が平均よりやや低いと控えめな評価の学生が多いが、3年生には平均的からやや高めと評価する学生が多く、自信がついてきていることがわかる。「考え抜く力」では、学年が上がるに伴い、自己評価が低いと考える学生が減り、平均的以上にシフトしていることがわかる。e-learningなど自分のペースで学習することで、計画力などが培われていることも要因と考えられる。「チームで働く力」は、偏差値が高い方向にシフトしているものの、平均的より低い位置にピークがある点が、今後の課題である。大学の学習や取組、チーム活動を増やす方向を提案していく。

ICTによる学生生活と就職の支援

学生ポータルサイト「光華navi」
 教職員からのお知らせ、教務・授業支援、学生支援など

e-ポートフォリオ
 学生生活の記録を残す

就職情報システム
 条件を設定し求人情報を検索できる

学生面談システム
 学生との面談記録を登録

【目的】
 学内や自宅のパソコンからインターネットを通じて、学生一人ひとりの大学生活をサポートする様々な情報にアクセスできるポータルサイト

【目的】
 学生のキャリア形成など、様々な面での成長を支援する。学生は担当教員とのコミュニケーションに励まされ、教員の指導により成長を図る。卒業後の進路を考える時、エントリーシートに活用する。

【目的】
 学生サービスの満足度向上
 就職支援業務の効率化

【目的】
 学生の面談データを一元的に保存・管理し、学生個々の状況を詳細に把握する。これにより学生一人ひとりの状況に応じた迅速・的確な支援・指導を可能にする。



京都光華女子大学 キャリア教育シンポジウム

社会人基礎力を考える

～学生個人を大切にしたいキャリア教育の推進～

文部科学省平成19年度現代GP「実践的総合キャリア教育の推進」選定

日 時： 2009年3月7日(土) 13:00～16:30 (12:30開場)

会 場： 京都光華女子大学 徳風館6階 小講堂

参加費： 無 料

申込方法： **E-mail FAX** 電話にてお申し込みください

申込締切： 開催日当日まで受け付けております

プログラム

13:00～13:05 開催挨拶

13:05～13:50 [基調講演] 学士力と社会人基礎力

文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター長
中岡 司様

13:50～14:30 [招待講演1] 「情報基礎力」と社会人基礎力
—女子学生キャリア教育の展開と展望—

京都女子大学現代社会学部教授 水野義之様

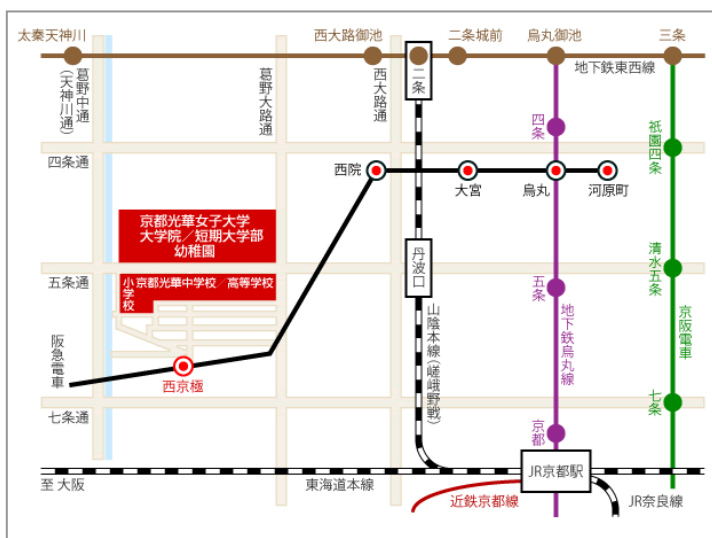
14:40～15:20 [招待講演2] 企業の「求める人材像」
—社会人基礎力との関係について—

京都銀行 人事部 様

15:20～16:20 本学におけるキャリア教育の取り組み報告

16:20～16:30 質疑応答・閉会

※ 講演題目、講演者などは都合により変更になる場合があります



お申し込み・お問い合わせ

京都光華女子大学 キャリア教育推進センター
〒615-0882 京都市右京区西京極葛野町38

TEL: 075-325-5315 FAX: 075-325-5287

(月)～(金)10:00～16:00 ※祝日を除く

E-mail symposium@mail.koka.ac.jp

氏名、連絡先、所属を明記してお申し込みください

<http://www.koka.ac.jp/enrollment/gp.html>

2008.11.26版

2010.3.6 土

京都光華女子大学 キャリア教育シンポジウム

学生個人を大切にしたキャリア教育の推進

最終成果報告会

文部科学省平成19年度現代GP「実践的総合キャリア教育の推進」選定

会場：京都センチュリーホテル

時間：12:45～16:00（12:15開場）

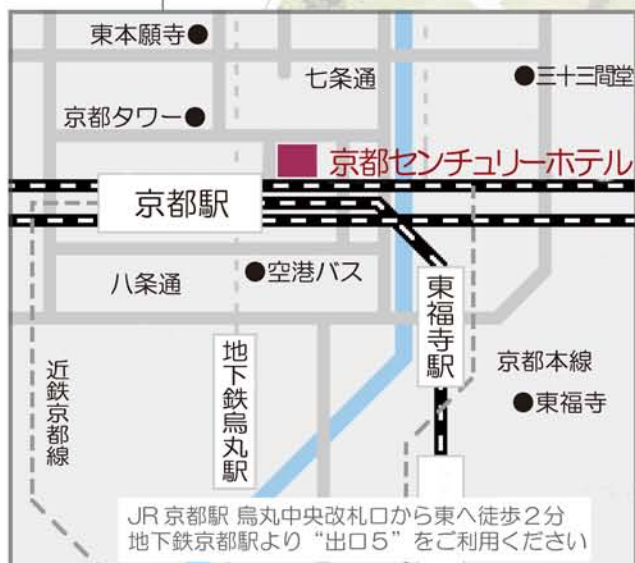
参加費：無料

申込方法：E-mail, FAX, 電話にてお申し込みください。

申込締切：2/26（金）定員80名になり次第締め切ります。

プログラム

- 12:45 開会挨拶（学長 一郷 正道）
- 13:00 基本報告「本学におけるキャリア教育」
（キャリア教育推進センター長，人間科学部教授 山本 嘉一郎）
- 13:30 外部評価報告（京都女子大学現代社会学部教授 榎村 久子氏）
- 14:20 取組報告「各学科・関連部署からの報告」
- 15:40 質疑応答・閉会挨拶



お申し込み・お問い合わせ

京都光華女子大学 キャリア教育推進センター
〒615-0882 京都市右京区西京極葛野町 38
TEL: 075-325-5315 FAX: 075-325-5287
(月)～(金)10:00～16:00 ※祝日を除く

E-mail symposium@mail.koka.ac.jp

氏名，連絡先，所属を明記してお申し込みください

<http://www.koka.ac.jp/enrollment/gpsympo.html>

「文部科学省」平成19年度選定 「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」 学生個人を大切にしたキャリア教育の推進

現代GPとは
文部科学省が社会的要請の強い政策課題に対応したテーマを設定を行い、全国の大学等の学校から申請された取組の中から、特に優れた教育プロジェクト（取組）を選定するものです。

平成19年度、本学がこれまで取り組んできたキャリア教育および就職支援への姿勢と実績が評価されて、選定されました。本学ではこれを受けて、文部科学省の補助事業として、さらに強力なキャリア（形成）教育と（就職などの）キャリア支援を推進してきました。

京都光華女子大学

文部科学省による大学教育改革の支援

支援	支援と募集年度						
	15年度	16	17	18	19	20	21
特色GP プログラム					←		
現代GP プログラム					←		
学生支援GP プログラム						←	
教育GP プログラム						←	
大学教育・学生支援推進事業 大学教育推進プログラム							←
大学教育・学生支援推進事業 学生支援推進プログラム							←
大学教育・学生支援推進事業 就職支援推進プログラム							←

京都光華女子大学

「学生個人を大切にしたキャリア教育の推進」 取組の概要

正課と正課外教育を統合する「総合キャリア教育」

■ キャリア（形成）教育

- 以下の3点を目標として、社会人として必要な要件（どのような職に就くにもまず必要な意識と能力）を備えた人材を育成する。
 - 高い就労意識と職業理解の喚起・醸成
 - 基本的能力の養成
理解力、課題的思考能力、表現力、基礎学力
 - 社会人基礎力の養成
調査分析力、プレゼンテーション力、レポート作成能力、コラボレーション力、ICT活用能力、問題発見・解決力

■ キャリア形成支援

- キャリアデザインの支援
自己を発見し、その将来を描く
- スキルアップの支援
仕事に生かすスキルを備える

■ 就職支援

京都光華女子大学

キャリア教育課程 教育目標と授業科目・講座

すべての科目において「キャリア教育」の視点をもつことで編成

教育目標	正課外教育			
	1年次	2年次	3年次	4年次
経済・職業理解 職業意識	基礎ゼミなど キャリアデザイン講座	キャリアデザイン講座	キャリアデザイン講座	キャリアデザイン講座
個人・集団意識	基礎ゼミなど 大学基礎講座Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ メディア実習科目	基礎ゼミなど	基礎ゼミなど	基礎ゼミなど
基本的能力の養成	基礎ゼミなど	基礎ゼミなど	基礎ゼミなど	基礎ゼミなど
社会人基礎力の養成	基礎ゼミなど	基礎ゼミなど	基礎ゼミなど	基礎ゼミなど
専門的責任教育	基礎ゼミなど	基礎ゼミなど	基礎ゼミなど	基礎ゼミなど
スキルアップ	基礎ゼミなど	基礎ゼミなど	基礎ゼミなど	基礎ゼミなど

京都光華女子大学

4年間を通じたキャリア形成支援と就職支援

学生の意識・能力評価	1年次	2年次	3年次	4年次
	自己発見	自己発見	自己プロセス	就職適性評価
基礎学力 学習スタイル 性格 強み	基礎学力 学習スタイル 性格 強み	成長感 行動の自己評価 学びへの度合 学びへの考え方	社会的強み 能力的強み 好きな仕事分野 適性職種	就職
教職員による 面談・指導	記録・参照	記録・参照	記録・参照	就職支援
職員による面談・指導	職員による面談・指導	職員による面談・指導	職員による面談・指導	就職支援

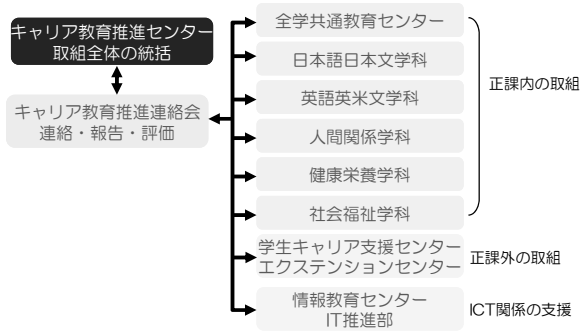
京都光華女子大学

実現の方法と特徴

- 徹底した個別対応教育の導入**
従来の3・4年生の「専門ゼミ」に加えて、1・2年生に「基礎ゼミ」を設置。4年間を通じて、ゼミ担当者により学生とそのキャリア形成を恒常的に支援。個々の学生の学習状況をきめ細かく把握し、状況に応じて支援・指導。
- 学習効果を保証する新たな教育プログラムの導入**
「指導と評価の精緻化」による学習効果の高い教育を導入し、目標とする学力（知識・技能の習得）への到達を保証。
- 学習支援のためのICTとeラーニングの活用**
キャリア教育の基盤として重要なコミュニケーション形成をICTで補完。また、復習・自習などの学習支援やスキルアップ学習用にeラーニングを提供。
- 学生総合データベースの構築と活用**
学生ポータルサイトと面談システムを活用し、学生と深くかわる部署が学生に関する情報を把握。個々の状況に応じた迅速・的確な支援・指導を実現。
- 体系的なインターンシップの実施とその支援**
インターンシップを授業と連携させて、体系的に実施。また、インターネットを活用した学外実習支援システムを開発・運用。

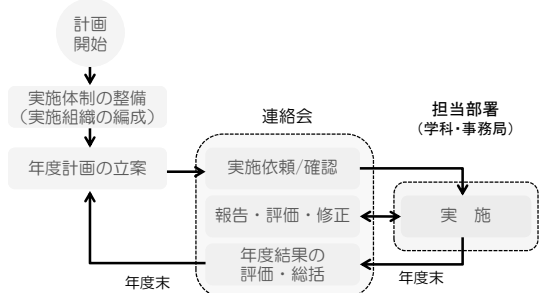
京都光華女子大学

実施体制



京都光華女子大学

取組の実施手順



京都光華女子大学

実施内容

- **基礎教育の充実**
基礎ゼミ（1, 2年時の基礎演習など）や大学基礎講座で、働くことの意味と意義、生き方、学び方などについて学ぶ、合わせて、国、英、数といった基礎学力については、修得不足を補うための教育（リメディアル教育）を実施。
- **新英語教育**
社会人として必要最小限の英語能力を備えることを目的として、無理なく修得できる本学独自の英語教育を開発し、実施。
- **キャリアデザイン講座**
職業への理解を進め、社会人として必要とされることを学ぶ、それまでのⅠ、Ⅱに加えてⅢを開設（21年度開講）。Ⅲではインターンシップを導入し、職業体験を通して、さらに就労意識を高める。
- **専門教育におけるキャリア教育**
専門演習などの専門教育科目にもキャリア教育の視点を導入し、プレゼンテーション、レポート作成、コラボレーションといったより発展的な基本的能力を養成する。

京都光華女子大学

実施内容（つづき）

- **インターンシップ**
目的に応じた各種のインターンシップを置き、働くことの体験を目標に実施する。これにより、職業理解と就労意欲を高める。
- **徹底した個別的対応教育**
期待に応えた教育（学習）成果を約束できるよう、徹底した個別的対応教育を実施する。学生個人のさまざまな状況を考えて、最適な指導と支援を行う。これにより、卒業時の到達水準を約束していく。
- **新たな教育プログラムの導入**
指導と評価を徹底し、きめ細かにまた丁寧に対応することによって、一段と高い学習効果が約束できる学習プログラムを導入する。
- **ICTとeラーニングによる学習支援**
入学前から卒業後に至るまで、学生の情報を記録・蓄積し、学生生活・修学・就職が一体となった情報システムにより、学生生活と将来の進路（就職など）について、一人ひとりに対応した指導と相談を支援していく。

京都光華女子大学

実施内容（つづき）

- **スキルアップと資格取得の支援**
各種の講座を開催して、スキルアップと有為な資格の取得を支援する。また、円滑で効率的な資格取得を進めるため、eラーニングを利用する。インターネットを利用した資格取得支援のeラーニング講座を開く。
- **社会人基礎力養成講座の開講**
厚生労働省がモデルを提示する「社会人基礎力講座」および「その評価テスト」を実施し、同省が提唱する社会人基礎力の養成を進める。

京都光華女子大学

実施結果（1）

— 取組全体の評価 —

- **キャリア教育課程の整備と実施**
 - 正課においては、すべての教科の中に「キャリア教育」の視点を導入
 - 正課外では、講座、就職支援を充実・強化
 - 以上を連携させた、本学の「キャリア教育課程」を実現。
- **教育目標達成のためのプログラムの開発**
 - 3つの目標「就労意識の喚起・醸成、基本的能力の養成、社会人基礎力の養成」を達成するためのプログラム（実現方法）を開発。（個別の取組として報告）
- **キャリア教育・キャリア形成支援体制の整備**
 - 教員に「キャリア形成支援」とこれを支える「キャリア教育」についての意識が醸成された。
 - 教学・事務部門間での分担・協力体制の整備
- **教育改革として**
 - 組織的教育の重要性についての認識
 - 全学的プロジェクトの推進法の修得
 - 教学・事務部門間の協力の重要性についての認識

京都光華女子大学

実施結果（2）

— 就労意識の喚起・醸成 —

- 就労意識の喚起を目指す科目
 - 1, 2年次に開講される以下の科目で実施
 - 基礎ゼミまたはこれに相当する科目
 - キャリアデザイン講座Ⅰ, Ⅱ
 - 基礎ゼミでの就労意識喚起のプログラムを検討
- 就労意識の醸成を目指す科目等
 - 3, 4年次に開講される以下の科目等で実施
 - キャリアデザイン講座Ⅲ
 - 正課内にインターンシップを導入
 - インターンシップ（正課外）
 - より組織的に実施
 - 学外実習科目
 - 職業理解の視点と要素を導入

京都光華女子大学



実施結果（3）

— 基本的能力の養成 —

- 対象とする基本的能力と担当科目
 - 基本的能力
 - 理解力（「聞く・読む」を通してものごとを的確に理解する能力）
 - 論理的思考力（ものごとを論理的に考える能力）
 - 表現力（表現すべきことを的確に「話す・書く」能力）
 - 基礎学力
 - 主な科目
 - 基礎ゼミ等
 - 大学基礎講座Ⅰ・Ⅱ
 - 英語、情報処理などの基礎科目
- 基本的能力の養成としての導入教育の体系化と運営
 - 基礎ゼミ等と大学基礎講座の連携と体系化
 - コミュニケーション基礎力についての教育を重視する方向へ
- 基礎英語教育の組織的運営
 - 組織的運営の強化
 - そのためのテキスト等の統一教材の開発
 - 教育効果を上げるためのeラーニング教材の開発

京都光華女子大学



実施結果（4）

— 社会人基礎力 —

- 本取組で考える具体的な「社会人基礎力」
 - 調査分析力（問題の発見・解決に必要な情報を探索・収集し、これを分析する能力）
 - プレゼンテーション力、レポート作成能力
 - コラボレーション力（他人と共同して問題解決に当たることができる能力）
 - ICT（情報通信）システムの活用能力
- 社会人基礎力養成講座
 - 厚生労働省のYESプログラムに準じた講座として、正課外でⅠ, Ⅱ, Ⅲの3つの講座を実施
- 専門科目における社会人基礎力養成
 - 専門ゼミ等の演習科目と専門実習科目において、社会人基礎力養成の要素を意識的に取り入れた。問題発見・解決、レポート作成、プレゼンテーションを主題としている。
 - 専門ゼミ等において、発表・討論の時間の増加、社会を意識したテーマの設定、さらにはPBL（問題やプロジェクトにもとづく学習）の導入など、本取組の効果が現れている。

京都光華女子大学



個別の取組の紹介

取組	担当部署	主な目的
大学基礎講座、および基礎ゼミにおける基礎的能力養成の取組	全学共通教育センター	基本的能力の養成（コミュニケーション力養成を中心として）
英語共通科目のための教材開発	国際英語学科	基本的能力の養成（基礎学力修得）
ラーニングルームによる個別対応教育	日本語日本文学科	基本的能力の養成（基礎学力修得）
文章力向上のためのeラーニングの活用	〃	基本的能力の養成（基礎学力修得）
ゼミにおけるe-ポートフォリオでの授業内外活動の振り返り	人間関係学科	就労意識の喚起
学外実習支援システムのあり方について	社会福祉学科	社会人基礎力の養成
キャリア支援講座「卒業生を迎えて」	健康栄養学科	就労意識の醸成
正課教育でのインターンシップ	キャリア教育推進センター	就労意識の醸成
正課外教育としての社会人基礎力養成	学生キャリア支援センター	社会人基礎力の養成
学生ポータルサイト、面談システムなど	IT推進部	ICTシステム活用による本取組の支援

京都光華女子大学



取組後の計画

— 推進体制など —

- 推進体制
 - 取組期間中の体制を維持
 - キャリア教育推進センターを全学的機関として発展的に継続
 - その推進体制として「キャリア教育推進連絡会」を継続
- キャリア形成学部の創設
 - 本取組（GP）を発展させ、その趣旨を実現する学部・学科を創設する
- 22年度改組の中でのキャリア教育
 - 本取組の正課教育と正課外教育（就職支援を含む）の統合による「総合的キャリア教育」
 - 新設されるキャリア形成学部が中心となって進める。
- 新たな取組との連携
 - 21年度に選定された次の取組と連携して、就職支援・キャリア形成支援を強化
 - 学生支援推進プログラム（短期大学部）
 - 就職支援推進プログラム（大学）

京都光華女子大学



キャリア形成学部の創設 平成22年度

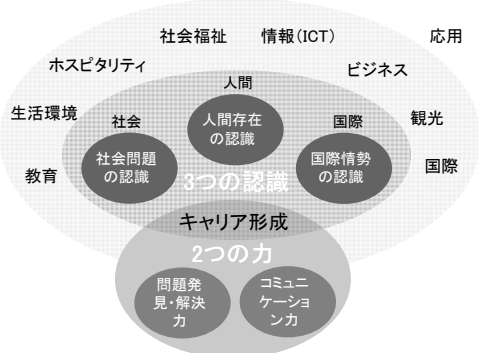
本取組（GP）を発展させ、
その趣旨を実現する学部・学科を創設する
（キャリア形成学部キャリア形成学科）

- 「生き方（キャリア）を探求し生きる」力を修得させ（⇒キャリア形成）、社会人として必要とされる基本的な意識・知識・力を備えた人材を育成する。
- この能力を
生きる力をともなった「総合的社会人基礎力」と呼ぶ。
- このように、この学部では学習する分野ではなく修得する“能力”を提案し教育する。

京都光華女子大学



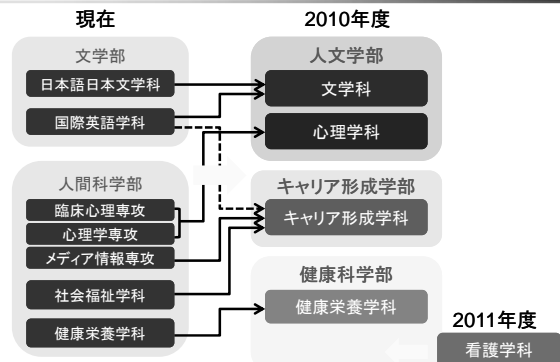
キャリアとキャリア形成を支える3つの認識と2つの力



京都光華女子大学



2010年度改組に伴う学部・学科構成




京都光華女子大学



文部科学省平成19年度現代GP「実践的総合キャリア教育の推進」選定
 京都光華女子大学 キャリア教育シンポジウム
 ～学生個人を大切にしたいキャリア教育の推進～


最終成果報告
 各学科・関連部署の取り組み報告
 2010年3月6日（土）

京都光華女子大学 

初年次教育と就労意識の喚起

『大学基礎講座』と『基礎ゼミ』の試み

全学共通教育センター 教授
 澤井 律之

京都光華女子大学 


大学基礎講座 2001

『大学基礎講座Ⅰ』（1年前期）

- ノートの取り方 ■テキストの読み方
- 図書館の利用の仕方 ■レポートの書き方

『大学基礎講座Ⅱ』（1年後期）


- グループワーキング ■ディベート
- ブレインストーミング ■プレゼン
- 発表会「もっともっと京都」

京都光華女子大学 

大学基礎講座 2007

『大学基礎講座Ⅲ』（2年前期）

- 文章能力の養成
- 小論文
- 自己アピール文
- エントリーシート
- 語彙力強化→漢字能力検定試験受験

京都光華女子大学 


『大学基礎講座』と『基礎ゼミ』の連携

現代GP採択 2008～

『基礎ゼミ』 + 『大学基礎講座Ⅰ』

↓

■初年次教育 ■就労意識の喚起

京都光華女子大学 


『基礎ゼミ』の確立

『基礎ゼミ』 + 『大学基礎講座Ⅰ』

↓

『基礎ゼミ』（2010）

- 少人数ゼミによる初年次教育
- 各学科の特色を重視
- 個別指導
- 体験型学習（就労体験・就労現場見学）

京都光華女子大学 

『大学基礎講座』から『コミュニケーション演習』へ ★

『大学基礎講座Ⅱ』

⇒ 『コミュニケーション演習Ⅰ』

■ 協調的な学習を行うための技術の習得

⇒ 『コミュニケーション演習Ⅱ』

■ 学びの成果を発表するための技術の習得

『大学基礎講座Ⅲ』

⇒ 『コミュニケーション演習Ⅲ』

■ 実用的な文章能力の習得

京都光華女子大学



日本語日本文学科の取り組み

1. ラーニングルーム

「チュートリアルカフェ 軽茶あ」

2. eラーニング教材開発

「文章力UP講座」

文学部日本語日本文学科 教授
朝比奈 英夫

京都光華女子大学



1. ラーニングルーム

「チュートリアルカフェ 軽茶あ」

学生指導、休退学対策、課外授業、
キャリア教育、FD等に関連する取り組み。

広く学生と話し合い相談に応じることを通して、
学習、生活面での不安をできるだけ解消し、
学業を継続する活力を導く。

欠席しがちな学生の出席を確認するとともに、
友人関係を構築して満足感のある就学環境を作り、
毎日の出席を促す機会とする。

課外授業として、近年の労働環境についての
話題を提供し、就労意欲を高める一助とする。

京都光華女子大学



実績と成果

平成20年度

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
開室	-	-	2	4	-	-	5	2	2	2	-	-
人数	-	-	21	43	-	-	41	25	20	20	-	-

平成21年度

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
開室	3	3	3	2	-	-	5	3	-	-	-	-
人数	34	31	25	24	-	-	43	29	-	-	-	-

■ 本取り組みを通じて、学生が正課以外の場で自己表
現・自己実現の機会を求めていることが実感された。

➡ ラーニングコミュニティへの展開
(H22年度)

京都光華女子大学



2. eラーニング教材開発 「文章力UP講座」

キャリア形成の一環として、状況にふさわしい
コミュニケーション能力を修得する。

初歩的な演習として、実用的場面に即した課題
(要約、紹介、提案)を設定する。

とくに重視するのは、作文、添削、推敲の過程を
一連の流れとして進めることである。

eラーニングの機能を利用して、課題の提示、
ワープロでの作文と提出、添削と返却という一連の過程を
一貫して行う環境を用意する。

京都光華女子大学



反省と成果

■ 試行したクラスの反応

文章力up 講座の問題演習は、どの程度、
実力upに役立ったと思いますか？

かなり思う（10名） ある程度思う（3名）
どちらでもない0名 あまり思わない0名 思わない0名

- 日本語力養成を従来型の原稿用紙に手書きで作文するスタイルではなく、現実の文書作成の場に近い、ワープロでの演習を主体とし、実用的な題材を取り入れたことで、臨場感を持って課題へ取り組む姿勢が生まれた。

➡ キャリア形成におけるリアリティの重要性

京都光華女子大学



教育方法の工夫改善を主とする取り組み

KEEP (Koka English Education Program)
の英語教材開発

文学部国際英語学科 教授
和栗 了

京都光華女子大学



目的

誰でも学習しやすい英語教材を開発



英語教育を体系化



標準化



「英語に強い光華」の実現

京都光華女子大学



目的説明

1. 体系化

受験偏差値から卒業偏差値へ

2. リメディアル教育

英語を生かした仕事に就ける

3. 授業と評価の標準化

一定のレベルまでの英語力の到達

京都光華女子大学



具体的施策

1. 国際英語学科「Speaking A」「Speaking B」の教材
（「英会話」を主とする教材開発と
「英会話個人レッスン」の連動化）
2. 国際英語学科「Grammar」の教材開発と
「英語個別指導」の連動化
3. 語彙力（単語と熟語）教材の開発
4. SRA教材の活用法の改革：
「Reading SRA」の授業の方法改善
5. 留学サポート教材の開発
6. 教養英語のテキスト選定と
共通テスト・授業計画のサポート
7. Passportの作成

京都光華女子大学



ゼミにおけるe-ポートフォリオでの 授業内外活動の振り返り

人間科学部メディア情報専攻 准教授
酒井 浩二

京都光華女子大学



教育分野でのポートフォリオ

- ポートフォリオの要件
 - ①記録 (Record)
 - ②振り返り (Reflection)
- 振り返りとは？
 - 多様な角度から取り組みの意味や成果を考察
- 2種のポートフォリオ
 - ①ティーチング・ポートフォリオ：教員
 - ②ラーニング・ポートフォリオ (LP)：学生

京都光華女子大学



ゼミの概要

- 平成21年度の後期に開講
- 1、2年生の必修科目
- 受講生：19名、9名 (1、2年生)
- 授業の主目的
 - 1年生：チームワーク力の形成
基礎的なアカデミックスキルの獲得
就労意欲の喚起
 - 2年生：専門文献を読む力
グループワーク力の形成
就労意識の形成

京都光華女子大学



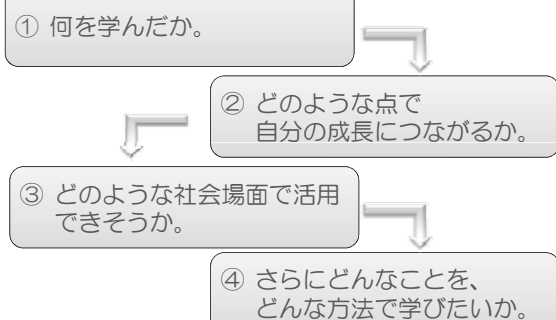
LPの運営

- 授業内容と並行としてLPを毎週投稿
- 事前に教員がLPの項目を決定
- 授業内と授業外の活動に分けて項目を設定
- 授業内で書く科目は、毎週自由に選択
- 宿題としてLPを毎週投稿
- 教員は簡単に毎週コメント

京都光華女子大学



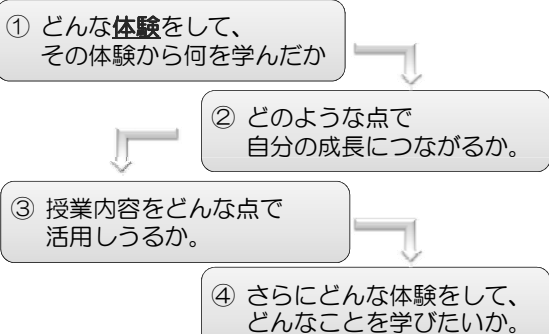
授業内活動で書く項目



京都光華女子大学



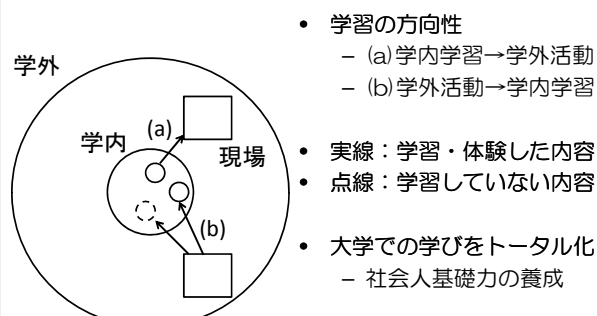
授業外活動で書く項目



京都光華女子大学



授業内外活動の結合



京都光華女子大学



e-ポートフォリオの画面

■ クラス学生のe-ポートフォリオ

■ 鉛筆アイコンー左：学生の投稿、右：教員の返事

投稿/作成日	学生投稿日	タイトル	記入状況	計算ポイント	回答明瞭
2009/10/14		3回生ポートフォリオ(10/14)			2009/10/21
2009/10/07		0ポートフォリオ3回生(10/7)			2009/10/14
2009/09/30		0ポートフォリオ3回生(9/30)			2009/10/07
2008/09/06	2009/10/06	0ゼミ課題			
2008/09/06	2009/10/14	0ゼミ課題 10月7日			
2008/09/06	2009/10/21	010月14日課題			
2008/09/06	2009/10/28	010月21日課題			
2008/09/06	2009/11/04	010月27日課題			
2008/09/06	2009/11/04	0課題			
2008/09/06	2009/11/11	011月4日課題			
2008/09/06	2009/11/11	0アンケート文			
2008/09/06	2009/11/17	011月11日課題			
2008/09/06	2009/11/18	0修正版 アンケート			

受講生の投稿状況

① 投稿文字数

■ 投稿1回に300文字程度（課題は600文字）

② 投稿回数

■ 平均12.8回（課題は14回）

③ 投稿内容

■ 授業内活動：履修科目数に対する投稿対象科目数の割合は平均40.4%

■ 授業外活動：外での遊び、自宅での生活、学習・資格、アルバイト、イベント参加など多様

京都光華女子大学



受講生の評価①

① 授業内活動の記録で成長につながった点

- ノートや授業資料を見て授業内容を振り返ることで、学んだ内容を思い出せた。
- LP作成のために授業をきちんと聞くようになった。
- 授業で学んだ内容を実際を書くことで、その授業の大切さを再認識できた。
- 書くことで気づいた反省点から、学んだことを活かせるようになった。

京都光華女子大学



受講生の評価②

② 授業外活動の記録で成長につながった点

- 自分が何に興味があってどんなことを考えているのか、自分はどうあるべきなのかを認識できた。
- LPのためにしっかり体験・見学するようになった。
- 何をして自分がどう感じたのかが分かり、その体験から次は何をしたいかを考えるようになった。
- 社会のことを考える機会が増えた。
- 世の中の役に立ちたい思いが少しずつ出てきた。

京都光華女子大学



まとめ

- 学内外活動の両方の振り返りの効果
 - 大学内での学びを社会で活用
 - 社会での体験から大学での学びを意義を見出す
 - 大学での活動全体を成長につなげる
 - 今後の活動を展望する良い機会
- 大学での活動全体を通じた成長の促進に、オンラインでのLPは効果的

京都光華女子大学



添付①（LPの一例：授業内活動）

①何を学んだか

■ H21.10.27の「アカデミック・ライティング」でテーマをきめて、賛成か反対かの意見を出し合い、別の視点から物事を見るということを学んだ。

②なぜこの内容を学習することが重要と考えるか

■ 賛成か、反対かの意見をそれぞれいくつかあげて考えていくことで、そのもののメリットやデメリットをみつけることにつながる。ものの良さ悪しを見極めるということはこれからの人生でもとても役に立つ。

③学んだ内容は、どのような場面で活用できそうか

■ 人に意見を求められたときや、自分の考えを主張するときに活用できる。また、会話等でも必要とされ常に使われるものだと思う。

④さらにどんなことを、どんな方法で学びたいか

■ もっと多くのテーマをあげて、みんなで討論していきたい。そうすることによって多くの人の意見や考えが聞けてもの見方が広がっていくと思う。

京都光華女子大学



添付②（LPの一例：授業外活動）

- ①どんな体験をしたか
 - H21.10.24に「沈まぬ太陽」という映画を見に行った。
- ②その体験から何を学んだか
 - 80年代に旅客機が落ちた事故と、その状況を映画化したもので、当時の事故の悲惨さや航空会社の実態を知った。
- ③この体験に関連して、どんな学習が必要か
 - このドキュメンタリー映画を見て、過去のことを知ることによって、当時、事故にあわれた方々のためにもこの事故のことを語り継いでいくことが必要だと思う。
- ④さらにどんな体験をして、どんなことを学びたいか
 - 何千年前、何百年前という過去を知ることでも大切だが、10年前、20年前、30年前という過去を知っていくことで、意外な事実や驚きを知っていくことにつながると思う。自分たちが知っている年よりも数年前のことを振り返った歴史の勉強をしていくことで、こんなことがあったんだという自分にとっての新たな発見があると思う。

京都光華女子大学



添付③（教員のコメントの一例）

- たいていの決めごと（例：子ども手当、憲法改正など）は、賛否両論があり、それらを踏まえて意思決定することがほとんどです。両者の吟味は意思決定で大変重要です。
- 渡辺謙さん主演の話題作ですね。大変良い経験ですね。優れた映画を見ることは人間の思想を高めることに効果的だと思えます。

京都光華女子大学



キャリア支援講座 「卒業生を迎えて」

人間科学部健康栄養学科 准教授
大久保 郁子

京都光華女子大学



健康栄養学科の特性

ほぼ100%の学生が
管理栄養士資格取得を目指して
入学してくる。

しかし

管理栄養士とは何か？を
深く理解してくる学生は
そんなに多くない。

京都光華女子大学



国家試験合格に向けての支援

1年生	・基礎ゼミにおける就労意欲の喚起
2年生	・履修済みの教科における、模擬試験の開始
3年生	・3年生研修における更なる就労意欲の喚起
4年生	・国家試験にむけての集中講義の実施 ・模擬試験の実施 ・クラスアドバイザーによる再三の個人面談 ・父兄からの叱咤激励の依頼文送付

京都光華女子大学



キャリア支援講座

- 目的** 社会人基礎力の養成
複雑多岐に亘る管理栄養士の職場についての理解。
自身の将来の管理栄養士像の具体化。
学習意欲の高揚。
- 対象** 3年生を中心とし、他学年は希望者とする。
- 方法** 各方面で活躍している卒業生を迎え、講演者とする。

京都光華女子大学



キャリア支援講座

招待講師

病院採用の管理栄養士
委託業者採用の病院・施設勤務の管理栄養士
食品関連企業勤務の管理栄養士
クッキングスクール勤務の管理栄養士
各種学校の給食・実験助手勤務の管理栄養士等

講演内容

現在の仕事内容、職場での出来事
国家試験合格に向けての勉強方法 等
学生キャリア支援センターからも、
就職活動・支援の講演をしてもらう。

京都光華女子大学



専門性を高める為の学外実習

事業所1週間（3年生時夏季休暇中）
病院2週間（3年生時春季休暇中）
保健所1週間（4年生時夏季休暇中）

入学時の希望を損なうことなく、
よりなりたい管理栄養士を目指す
目標設定に向けて、
健康栄養学科では支援を継続中である。

京都光華女子大学



学外実習支援システムのあり方

人間科学部 社会福祉学科
山口理恵子・山下幸子

京都光華女子大学



学外実習支援システム構成とそれに伴う更新作業

情報閲覧や課題提出機能の整理と作成

情報閲覧：実習先施設、実習報告書、
実習に関する手続き方法、
ボランティア情報、福祉関連法など
(実習書類の書式ダウンロードも可能)
→ブログを利用

課題提出：実習課題レポート、実習計画書、
中間フィードバック、アンケートなど
→blackboardを利用

京都光華女子大学



学外実習支援システムの利便性

時間と場所の自由度

時間：24時間利用可能

場所：大学構内のコンピュータ室、自宅、
その他ネット環境がある場所など

京都光華女子大学



学外実習支援システムの活用性

実習生への教材、事前学習の資料

教材：個人票、実習計画書の書式ダウンロード
レポート課題、テスト見直し・解答揭示

資料：実習先データ、実習報告書、福祉関連法

京都光華女子大学



今後の課題

実習生ニーズに即したシステム作りと
更新作業の効率性の向上

システム作り：通年型実習の形態に即したツール、
実習先情報
(地図、実習先HPなどとのリンク)

更新作業の効率性：操作方法のしやすさ、
システムの一元化



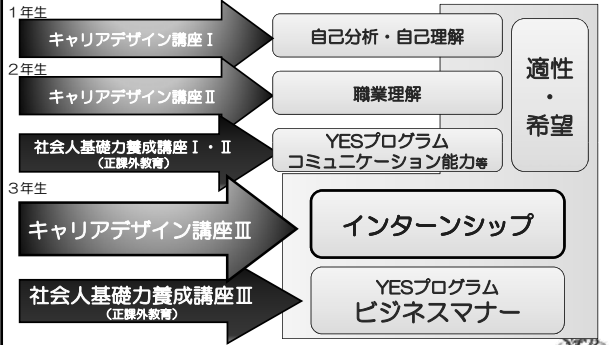
正課教育でのインターンシップ

キャリア教育推進センター 吉田 咲子
キャリアデザイン講座Ⅲ 受講学生代表



「正課教育でのインターンシップ」に関する学習

段階学習で社会人基礎力を理解し、最終段階としてインターンシップに参加



インターンシップ計画

大学コンソーシアム京都の
インターンシップ・プログラム参加を目標

- ◆産官学連携により、歴史も実績も豊富
- ◆京都の大学生すべてに応募資格がある
- ◆事前事後教育は、他大学生と協同学習

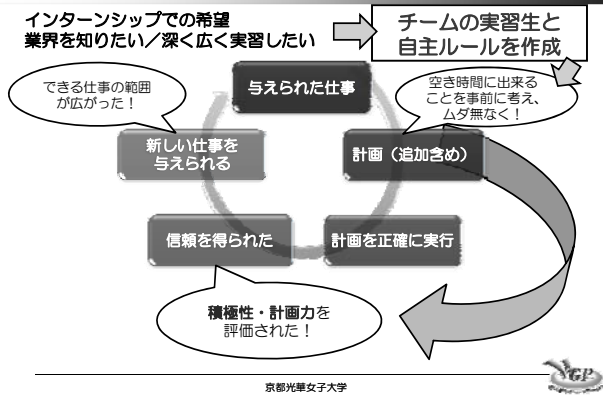
理由

合格率6割は大きな壁

ラーニングルームで切磋琢磨
職場ではひとりで考え
自分の責任で行動



学生発表1：インターンシップで学んだこと！



学生発表1：実習後の成長

課題発見力 ↑
積極的に今すべき事できる事を、
考えるようになった

柔軟性・状況把握力 ↓
責任感の重み知った

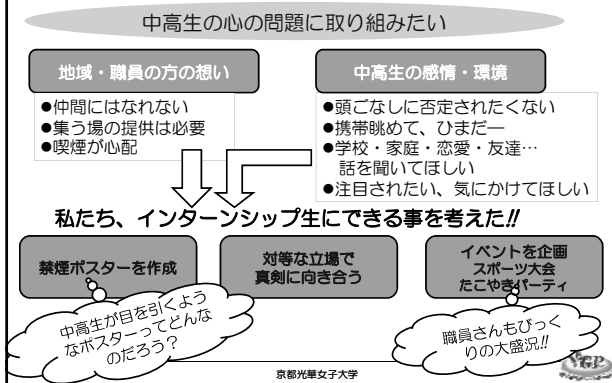
7月実施
9月実施

自分の将来像を立てることができた。
その目標に向かって、学校での生活で、目的意識を
しっかり持ち、優先すべきことをしっかり考える。
そして社会人になる自覚を高めていきたい！

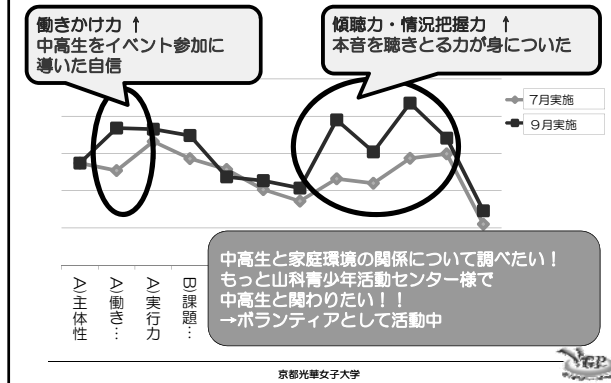
性：力：力：力：力：性
○ 状況：
○ 規律性
○ スト：



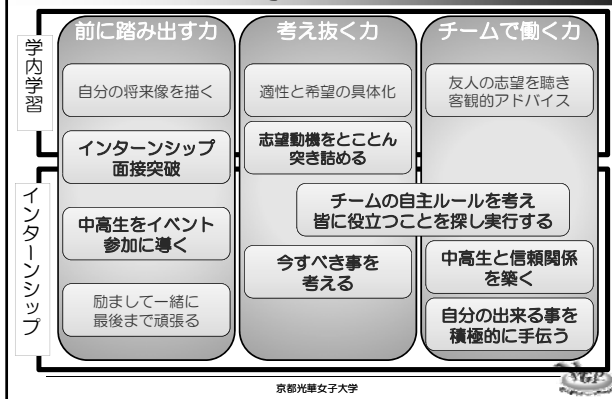
学生発表2：インターンシップで学んだこと！



学生発表2：実習後の成長



インターンシップで身についた力



社会人基礎力養成など正課外教育

学生キャリア支援センター
センター長 原田 雅恒

京都光華女子大学

現代GPプログラムにおける学生キャリア支援センターの役割

1. 正課外教育の展開
 - (1) 社会人基礎力の養成
 - ① 社会人基礎力養成講座
 - ② 社会人基礎力診断
 - (2) スキルアップ講座による資格取得・就活支援

面接スキルアップ講座、話しことば検定対策講座、筆記試験・公務員試験対策講座、日本語検定対策講座
 - (3) インターンシップの支援
2. 就職支援の強化

就職情報システム・面談システムの導入活用

京都光華女子大学

社会人基礎力の養成

正課・・・講読・専門ゼミ・データ解析などの専門教育の中で社会人基礎力の習得

正課外・・・社会人基礎力養成講座
厚生労働省のYESプログラムをベースに「就職基礎能力」の養成を目指す

- ① 読み書き： ビジネス文書の基礎知識
- ② 計算： 利益・給与・旅費・交通費・論理的思考
- ③ 社会人常識： 歴史・地理・政治・経済・社会
- ④ コミュニケーション： 知る・伝える・共に働く
- ⑤ ビジネスマナー： 挨拶・電話・メール・来客対応

京都光華女子大学

社会人基礎力養成講座

	内容	対象	時間数	受講者	学生評価 <small>大満足に達した割合</small>
I	読み書き／コミュニケーション	H20 大2前期	2時間×10回 (土曜日AM)	13⇒2名	74.5%
		H21 大2後期	80分×8回 (水曜日PM)	14⇒2名	53.7%
II	計算／社会人常識	H20 大2後期	2時間×10回 (土曜日AM)	10⇒1名	74.5%
		H21 大2後期	80分×8回 (水曜日PM)	11⇒2名	31.8%
III	ビジネスマナー	H20 大3前期	2時間×10回 (土曜日AM)	69⇒26名	68.7%
		H21 大3前期	80分×10回 (水曜日PM)	60⇒10名	62.3%

講師： 外部講師

京都光華女子大学



社会人基礎力養成講座 今後の課題

- 受講申込者増と出席人数減少防止の検討
講座名，開催日，時間帯，回数，
内容，講師，テキスト，単位化



キャリア形成学部では
「必修の演習」に

京都光華女子大学



社会人基礎力の診断

目的：自分の能力・適性について客観的に知る

診断方法		対象学年	受診者数
自己発見レポート (ハネッセ)	H20	入学時 (大学1年春)	167名(44%)
	H21		253名(62%)
HQテスト (ジェイ・エス・エル)	H19	大学3年	34名
	H20	大学3年	約150名(36%)
	H21	全学年	約760名(48%)
職業適性検査 (ハネッセ)	H20	就職活動開始時 (大学3年冬)	179名(43%)
	H21		188名(51%)

京都光華女子大学



HQテスト (HQ Profile)

- HQ = Human Quotient (人間指数)

- 受診方法： Webまたはマークシート

- 280の質問に4択で回答 (所要時間約40分)
①改善の余地あり ②やや改善の余地あり
③やや行っている ④十分行っている

- 質問の例

- 何かを行う場合、自分に求められていることや期待されていることをよく考えてから行動している。
- 周囲から指摘されなくても、次のアクションを自分自身で考えて行動する。
- 自分の経験則だけで判断せず、他の人の多様な意見も取り入れて問題を解決している。

- 結果閲覧： Webのみ

京都光華女子大学

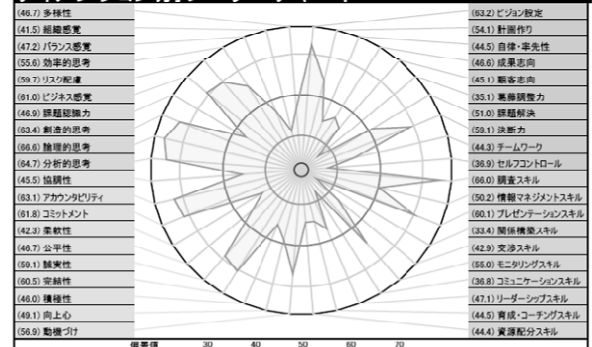


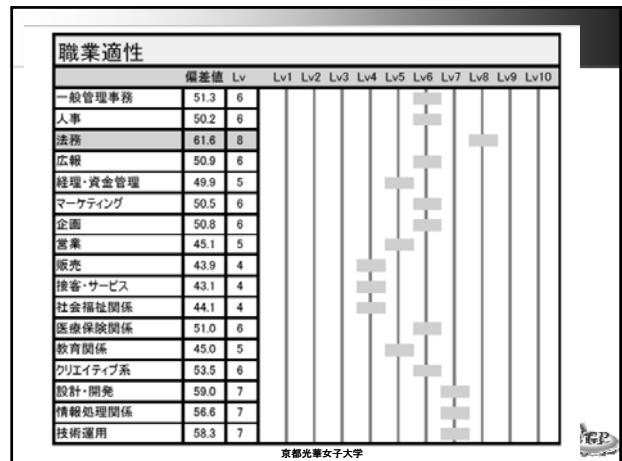
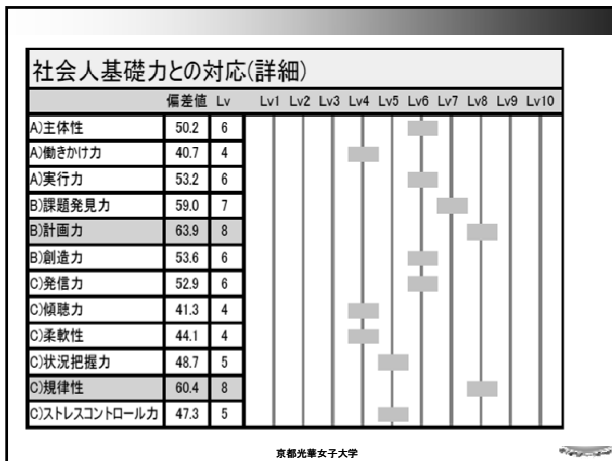
HQテストのWeb受診



HQ結果表示

ディメンション別レーダーチャート





社会人基礎力診断 今後の課題

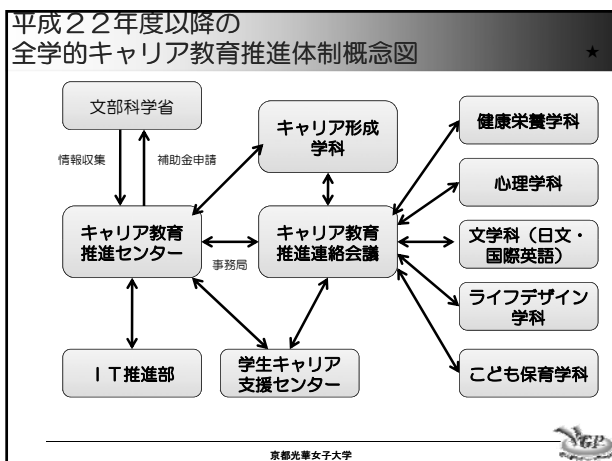
- 診断ツールの選択
 - 診断項目 (社会人基礎力・基礎学力・職務適性など)
 - 質問数 (80~280問)
 - 質問の理解のしやすさ
 - 回答方法 (マークシート・WEB)
 - 所用時間 (15~90分)
 - 普及率 (偏差値の基準)
 - 価格 (1,100~4,000円/名)
- 診断結果の活用
 - 活用方法 (就職指導だけ?)
 - 複数回の結果の比較の意味 (社会人基礎力向上?)

京都光華女子大学

学生キャリア支援Cから見た 現代GPの成果

- 「就職支援システム」「面談システム」の導入による学生の就活支援基盤の整備
- 「社会人基礎力の養成・診断」についてのノウハウの取得
- 今後に向けた「全学的キャリア教育推進体制」の整備
 - キャリア教育推進C...全学のキャリア教育推進、新規文科省補助金事業応募対応
 - キャリア教育推進連絡会議...各学科代表教員・関係事務職員による連携、PDCAサイクル
 - 学生キャリア支援C...就職支援

京都光華女子大学

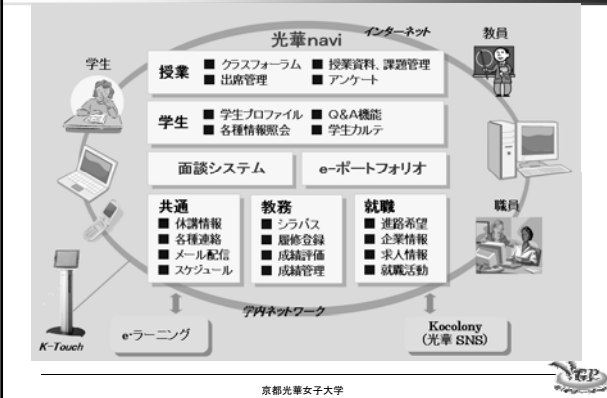


支援ツール：光華navi、面談システムなど

学園IT推進部 部長
情報教育センター
伊藤 勝久

京都光華女子大学

本学の学生向け情報システムの全体像



京都光華女子大学

光華naviの概要

- 学内や自宅のパソコンからインターネットを通じて、学生一人ひとりの大学生生活をサポートするさまざまな情報にアクセスできるポータルサイト。
- 教務関係の随手続き・各種情報の照会・教職員とのコミュニケーション・授業支援・就職支援などたくさんの機能を持った総合情報処理システム。
- 今回のGPの取り組みにおいて、さまざまな情報を有機的に結びつけるための中核的なツール。

京都光華女子大学

面談システムの概要

一目的一
学生の面談データを一元的に保存・管理し、学生の状況を詳細に把握し、これにより学生個々の状況に応じた迅速・的確な支援・指導を行う

一面談状況一覧表示一
どの部署でどのような面談を行ったか一覧表示ができる
分類や登録者で絞り込み表示することで必要な情報の概要把握ができる

一記録する内容一
①面談の種類
(就活方法、求人紹介、履歴書添削、面接練習、内定報告、その他)
②来談者学生証番号・氏名
③面談日
④対応者

京都光華女子大学

総括報告

人間科学部メディア情報専攻 准教授
情報教育センター
キャリア教育推進センター
阿部 一晴

京都光華女子大学

「学生個人を大切にしたいキャリア教育の推進」

取組の概要

正課と正課外教育を統合する「総合キャリア教育」

■ キャリア（形成）教育

- 以下の3点を目標として、社会人として必要な要件（どのような職に就くにもまず必要な意識と能力）を備えた人材を育成する。

□ 高い就労意識と職業理解の喚起・醸成

□ 基本的能力の養成

理解力、論理的思考能力、表現力、基礎学力

□ 社会人基礎力の養成

読解分析力、プレゼンテーション力、

レポート作成能力、コラボレーション力、

KOT活用能力、問題発見・解決力

■ キャリア形成支援

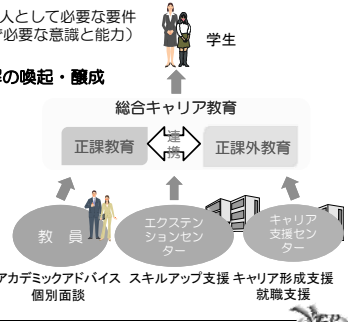
■ キャリアデザインの支援

自己を発見し、その将来を描く

■ スキルアップの支援

仕事に生かすスキルを備える

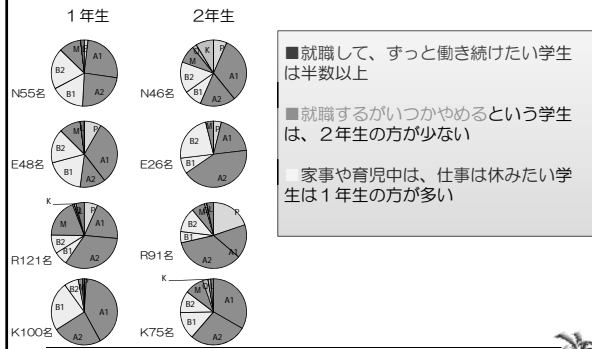
■ 就職支援



京都光華女子大学

取組目標 1：就労意識の喚起・醸成

2010年1月調査

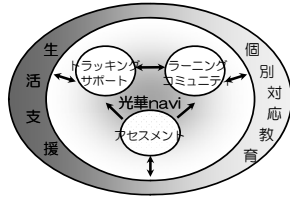


京都光華女子大学

「学生個人を大切にした総合的支援の構築」

エンロールメント・マネジメントと個別対応教育モデルの実践的融合

- ①アセスメントの体系化
- ②トラッキング・サポート
- ③ラーニングコミュニティという3施策を有機的に接合する
- それにより、学生支援と教育モデルの統合度をさらに高め、隙間と取りこぼしのない支援を実現し、創発的な学生支援効果を増幅させる



京都光華女子大学



出席管理システムとその利用

■ 出席管理システム



■ 利用

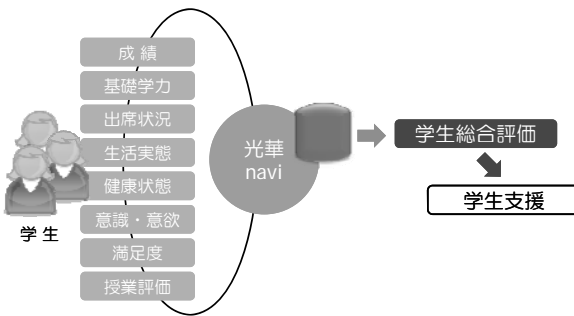
- EM推進センターで出席状況を分析
- 分析結果を学科に通知
- 詳細把握の必要な学生の調査
- 要支援学生への支援



京都光華女子大学



学生総合アセスメントと「光華navi」



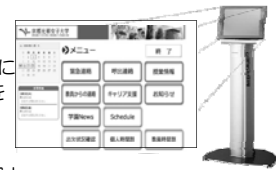
京都光華女子大学



その他のシステムとその利用

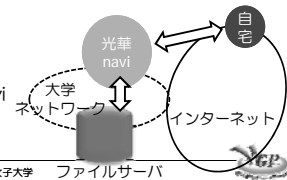
■ 情報掲示端末K-Touch

- 光華navi利用の利便性向上によって、光華naviの利用度を高める。



■ ファイルキャビネット

- 大学でPCを使用する際の個人フォルダ (ファイルサーバ) に、光華naviを通して自宅からアクセスすることを可能にする。
- これにより、日常的に光華naviを利用する習慣をつける。



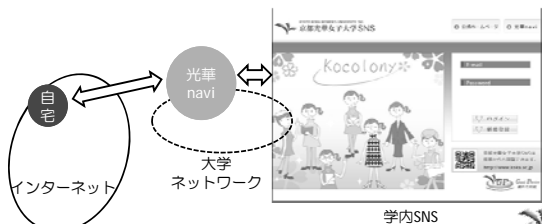
京都光華女子大学

ファイルサーバ



学内SNS (Kocolony) とその利用

- ラーニングコミュニティ (共同体学習) を支援する仕組み「オンラインコミュニティシステム」として学内SNSを導入。
- Kocolonyは光華naviからアクセス



京都光華女子大学



戦略的大学連携事業への参画

■ 平成20年度選定

- 「地域内大学連携によるFDの包括研究と共通プログラム開発・組織的運用システムの確立」(代表校：佛教大学)
- 「eラーニングシステムの共有共用化に伴う教養教育の大学間連携と効率化の促進」(代表校：京都産業大学)

■ 平成21年度選定

- 「多面的な国際交流の充実と高等教育の質向上に向けた国際連携プログラム開発」(代表校：龍谷大学)

京都光華女子大学



新たな選定事業

- 平成21年度選定（短期大学部）
 - 「大学教育・学生支援推進事業」学生支援推進プログラム
短期大学士力養成のための具体的実践としてのキャリア教育の推進
- 平成21年度選定（新規）
 - 「大学教育・学生支援推進事業」（就職支援推進プログラム）
学生個人を大切にしたキャリアメンターによる就活基礎力養成

京都光華女子大学



文部科学省「就職支援推進プログラム」選定

■ 学生個人を大切にしたキャリアメンターによる就活基礎力養成

就職支援を推進する目的としてキャリア相談室を設置

同相談室にキャリアメンターを常駐させて、さらにきめ細かな助言体制の整備と就職支援体制を強化

ゼミ担当教員と連携して、ゼミに訪問にして就職支援を行う

就職希望先の情報収集を行い、就職力を育成を検討

京都光華女子大学



現代GP終了後の計画 平成22年度

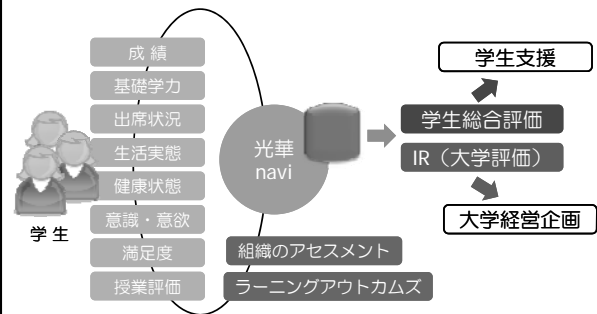
本取組（実践的综合キャリア教育）を発展させ、その趣旨を実現する学部・学科を創設する
（キャリア形成学部キャリア形成学科）

- 「生き方（キャリア）を探求し生きる」力を修得させ（⇒キャリア形成）、社会人として必要とされる基本的な意識・知識・力を備えた人材を養成する。
- この能力を生きる力をともなった「総合的社会人基礎力」と呼ぶ。
- このように、この学部では学習する分野ではなく修得する“能力”を提案し教育する
インフラとしてのICTの役割が更に重要に

京都光華女子大学



総合アセスメントの拡張・発展



京都光華女子大学



文部科学省平成19年度現代GP「実践的综合キャリア教育の推進」選定
京都光華女子大学 キャリア教育シンポジウム
「最終成果報告会」
～学生個人を大切にしたキャリア教育の推進～

本日は、お忙しい中
本学シンポジウムにご参加いただき
ありがとうございました

京都光華女子大学



資料9 本取組関連論文

京都光華女子大学におけるキャリア教育の取組
京都光華女子大学研究紀要，第47号，pp.121-159

京都光華女子大学におけるキャリア教育の取組

—現代 GP「学生個人を大切にしたキャリア教育の推進」—

山本 嘉一郎*

阿部 一晴*

吉田 咲子**

* 人間科学部人間関係学科メディア情報専攻

** キャリア教育推進センター

I まえがき

大学の学生の多くは卒業時に企業へ就職する。つまり、大学卒業後の進路は「企業就職」が一般的である。そこで学生にとって最大の関心事の一つが「就職」となる。そのため大学では、中学校や高校での「進学」と同様、将来の進路としての「就職」を支援してきた。従来からほとんどの大学には、就職活動を支援する部署（たとえば就職課）が置かれてきた。ただその役割は主に、就職先の紹介や求人情報の提供というものであった。ところが、その状況がこの10年ほどの間に大きく変化している。

近年、多くの大学でキャリア支援（就職支援）を強化し、さまざまな取組が行われるようになってきた（上西，2007，p. 2）。その背景については次章で述べるが、取組の多くは、キャリア形成としての低学年からの教育である。そこでは、就職活動といった直接の支援から、就職に堪える能力の形成へ向けてのいわば間接的な支援へと広げられている。働くために必要な基本的能力の養成である。その理由は主に、多くの学生が働くための基礎能力を十分に備えていないという判断による。このようにして、キャリア支援は就職支援からキャリア形成支援へと拡大しつつある。またさらに、働くことへの理解といった就労意識にも課題があるとと言われる。就労意識の形成である。そこに、総合的なキャリア教育の必要性があると考えられる。

以上のキャリア教育は大学教育だけの問題ではない。初等，中等，高等教育を通して社会に出るまでの教育全体に課せられた問題である。これについては中央教育審議会から平成11年末にその答申の中で、小学校から発達段階に応じてキャリア教育を実施することの必要性が指摘され、以後、文部科学省ではこれを政策課題の1つとしてきた（山口，2008，pp. 7～10）。また文部科学省は大学に対して、その教育改革支援事業（大学改革支援プログラム）の中で、平成18，19年度にキャリア教育をテーマとし、21年度には大学教育・学生支援推進事業としてキャリア教育・支援をテーマとした。

これに対して本学でも、就職支援を入学時から開始して就職を総合的に支援する必要性を認識し、平成17年度にキャリア教育を実施することになった。以来、その認識を深め、キャリア教育の在り方について研究してきた。また、平成18年度からは、学生の修学と生活を体系的・組織的に支援するエンロールメント・マネージメントに着手した。キャリア教育はその中で、学生の卒業後の進路を支援する政策として位置づけられた。ここで報告する現代GPにおける実践的総合キャリア教育の取組計画は、これらの改革の一環として企画・立案されたものである。

II キャリア教育と社会的背景

近年、フリーター・若年無業者や新卒者の早期離職が増加する傾向にある。このことは大きな社

会問題とされ、政府においてもその対策の必要性が強く認識されている。文部科学省ではこのような問題に対して、学校には社会人・職業人として自立した人材の育成が強く求められているとして、20年12月、「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」を中央教育審議会へ諮問した（文部科学省，2009a）。これらの問題については、平成15年の文部科学省，厚生労働省，経済産業省による「若者自律・挑戦プラン」の中でも国家的課題として取り上げられ、その対策の一つとしてキャリア教育が挙げられている（文部科学省，2009b）。今回の諮問は、この対策をさらに強化・前進させることが必要な状況にあることを示している。

さらに文部科学省では、大学に教育改革を求めるGP（文部科学省，2009c）の中で、平成18、19年度にその1つのカテゴリーである現代GPのテーマとして「実践的総合キャリア教育の推進」を挙げて、募集した（平成19年度，本学の取組みが選定）。また21年度には、「大学教育・学生支援推進事業」学生支援推進プログラムとしてキャリア教育を支援している（本学短期大学部の取組みが選定）。以上のように、大学教育の支援策としても、キャリア教育が大きな政策課題として取り上げられている。さらに、経済産業省を中心に「社会人基礎力」の養成が提案され、平成20年12月に文部科学省が答申を受けた「学士課程教育」でも、「学士力」の名のもとに社会人基礎力の養成が大学教育の柱として要請されている。

一方、1990年代前半のバブル崩壊後は、就職がそれまでのようには容易でない時代が続いている。平成20年まで数年かけて就職環境はやや改善されたが、20年秋以降は世界的な経済不況とともに近年にないほど悪化した。これらは新卒者についても例外ではなく、22年春には高校・大学を出ても就職できない若者が多数予想される。そのようなことから大学では、この十数年にわたって就職支援を強化してきている。これは大学が「就職率」

などの就職状況で評価されることが多いからである。今、学生の「就職力」をいかに高めることができるかは大学の大きな課題である。少子化時代を迎えて学生確保に困窮する大学では、「就職力」の育成に力を入れている。そのため、直接の就職支援だけではなく、入学直後からの幅広いキャリア教育を実施する大学が急増している。

上西（2007）によれば、上記のような社会的背景のもと、近年、大学においてキャリア教育が強く認識され、実施されている。その背景として、上西（2007）は、「政策的な要請」「入学者確保の必要性」「企業側の要請」「動けない学生への対応」「学生の権利保障」の5つを挙げている。最初の2点は既に述べたとおりである。このように現在、キャリア教育にはこれを要請するさまざまな要因があるものと考えられる。

Ⅲ 本学におけるキャリア教育とGP申請の経緯

本学でキャリア教育を始めた理由も他と同様である。バブル崩壊後の1990年代から2000年代初頭にかけて長期の就職難の時代が続いた。その間、さまざまな就職支援が行われた。その経験の中で、学生に早い時期から就職あるいは職業への関心をもたせ、就労意識を喚起・醸成するところから始める必要があることが認識された。それまで就職支援は、正課の教育とは切り離して別個のものとして行うとする考えであった。就職課が学生生活支援を担当する学生部の中にあつたことはその現れと言えよう。教育に結果が求められるようになったこともあり、これを改め、「就職」を教育の具体的な成果の一つとしてとらえようという発想が次第に芽生えていった。

その結果、就職支援担当部署（当時は「就職課」）の要請で、それまで同部署で行っていたキャリアデザイン講座を正課に組み入れることになり、平成17年度入学生から1・2年次に配当する自由科目（卒業単位に含めない科目）として開設した。

これを平成 19 年度には、全学共通科目として卒業単位とし、キャリアデザイン講座 I および II の 2 科目に増強した。

一方、平成 18 年度末に人間関係学部（現人間科学部）において、教育支援と学生支援を連携させた「総合学生支援」策としてエンrollment・マネジメントが提案された。本学のエンrollment・マネジメントは、入学前からの卒業後まで、学生一人ひとりに対してその立場に立って、その不安を解消するため、あらゆる支援を体系的・組織的に行うものである。これを同学部では全学に先立って、平成 19 年度に実施し、20 年度からは全学的に実施されるに至っている。就職支援とこれに至るまでのキャリア形成支援は、このエンrollment・マネジメントの取組みの中で見直されることとなり、この取組みの計画策定が行われた。その結果、平成 19 年度の現代 GP として申請するに至った。

IV 総合キャリア教育開発への取組 (GP における取組)

1 概要

本学では、GP の申請にあたって、本学におけるこれまでのキャリア教育とキャリア支援の経験から、「実践的総合キャリア教育」を次のように考えた。

現代社会がかかえる「若者の就労」の問題に対し、キャリア教育の課題を就労意識の喚起・醸成と職業人としての基本的能力の養成と捉える。基本的能力としては、読む、書く、聞く、話すの基礎能力の習得から始め、これを発展・高度化した社会人基礎力の習得を目指す。そのため、導入教育から専門教育までをキャリア教育の視点から体系化し、正課の教育課程を大学全体として構築する。さらに、スキルアップを含むキャリア形成・就職支援等の正課外教育との連携を図り、総合的

で実践的なキャリア教育課程を構築・推進する。その有効な方法を徹底した個別対応教育に求め、その実現を支援するために ICT の活用を図る。個別対応教育は多様な学生に対して、教育効果を上げるための唯一の解決法である。これを実現するには時間的・空間的に学習およびコミュニケーション形成の場を広げる必要があり、ユビキタスな教育環境を可能にする ICT の活用で解決する。

(以上、平成 19 年度現代 GP 申請書より)

その取組の要点は次のとおりである。ここでは、①「キャリア教育に関する基本的な考え」（キャリア教育の基本的な目的（ねらい）をどのように考えたか）、②それ（目的）を達成するための「教育体系」（キャリア教育としての教育課程）、③教育課程を実施するための「(広い意味での) 教育の方法」について、その概要を述べる。

a) キャリア教育に関する基本的な考え（人材育成の目標）

本学が専門職として養成する分野から一般的な職種までを対象として、基本的に要求される高い就労意識（働く意欲と希望）および職業人（社会人）としての基本的な能力を十分に備えた人材を育成する。そこで以下の 3 点を目標として、社会人として必要な要件を備えた人材を育成する。

－就労意識の喚起・醸成

－基本的能力の養成

－社会人基礎力の養成

“労働”あるいは“職”に関心を持たず就労意欲が低い、従って学習意欲が低くかつ学習することの意義を見出せないでいる若者が多いことが大きな社会問題となっている。また、大学生の学力不足が問題視され、大学での教育を経てもなお就労に必要な基本的能力に欠ける者が多いとされている。専門的な知識・技能・技術を習得していても、“理解力”や“表現力”といった基本的能力が不十分では、その専門性も生かすことがで

きない。今、社会は高い就労意識を持ち基本的能力を十分に備えた人材を求めているものと理解される。

“基本的能力”としては、理解力（「聞く・読む」を通してものごとを的確に理解する能力）、論理的思考力、表現力（表現すべきことを的確に「話す・書く」ことのできる能力）、調査分析力、他人と共同して問題解決にあたることのできるコラボレーション力、そしてこれらの能力を支え拡張するための情報システム活用力（知的活動に情報機器を活用できる能力）などを対象とする。これらをさらに高度に習得させることにより、「問題発見・解決」に自立的・能動的に当たることのできる人材を育成する。

b) 教育体系（キャリア教育としての教育課程）

以下のように、「正課」および「正課外」教育からなる、総合的で実践的な「キャリア教育課程」である。

－正課教育（＝正課のキャリア教育課程）

導入教育および発展・応用教育から成り、上記 a) で示した 3 点を目標として、専門課程を含めて原則としてすべての科目を「キャリア教育」の視点から体系化する。

－正課外教育

学生のキャリア形成および就職の支援、スキルアップ（ワークスキルの修得）など、正課内では行えない教育および支援を体系的・組織的に行う。

c) 方法

上記の教育課程を実施し、a) の目標を達成するため、次の方法を導入する。

- －個別対応教育
- －個別対応
- －ICT の活用

2 教育課程

本教育課程（キャリア教育課程）は、既存の全学共通、あるいは学科ごとの基礎・専門科目をベースにして、「キャリア教育」の視点から構築するバーチャルなもの（学科横断的な課程）である。正課教育と正課外の教育を体系化した総合的な課程である。対象は大学の全学部学科としている。その教育課程は図4.1および表4.1に示すとおりで、大きく次の3点で構成される。また、カリキュラムとの関係は表4.2のとおりである。

－正課教育のうち、全学共通で実施されるもの

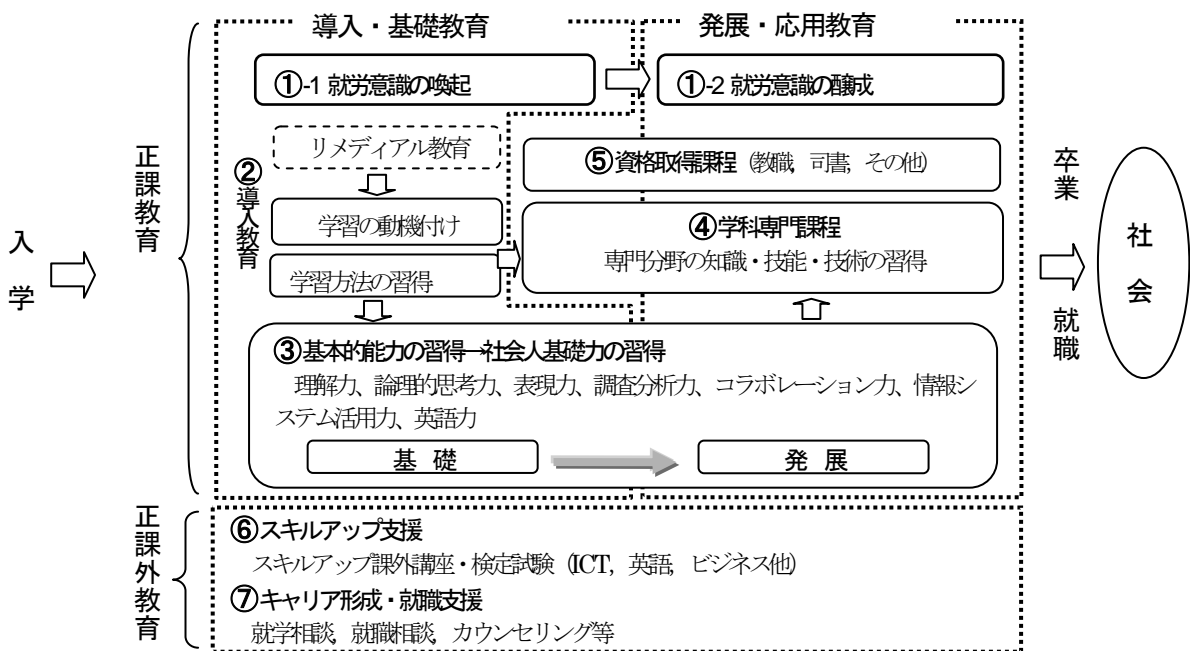


図 4.1 キャリア総合教育課程のイメージ

表 4.1 教育目標と教科・講座

目 標		初期段階 (1, 2 年次)	発展・応用段階 (2~4 年次)
①就労意識の喚起・醸成		A1 (基礎ゼミ, キャリア科目)	A2 (キャリア科目, インターンシップ, 学外施設実習)
②導入教育	基礎学力の補習	B0 (リメディアル教育)	
	学習の動機付け	B1 (基礎ゼミ)	
	学習方法の習得	B2 (大学基礎講座, 基礎ゼミ)	
③基本的能力の習得 →社会人基礎力の養成	理解力 (聞く・読む)	C1 基礎的学習 (大学基礎講座, 基礎ゼミ, アカデミックライティングなど)	C2 社会人基礎力養成 (主に講読、専門ゼミ、データ解析などの専門教育の中で実施)
	論理的思考力		
	表現力 (話す・書く)		
	調査力 (調査・分析)		
	コラボレーション力		
	英語力	D (英語)	
情報システム活用力	E1 (情報処理基礎教育)	E2 (応用的情報処理教育)	
社会人基礎力		F 社会人基礎力養成講座	
⑥スキルアップ		G1 スキルアップ講座・検定	G2 スキルアップ講座・検定

表 4.2 キャリア教育課程としてのカリキュラム (教育目標と科目)

教育目標	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
①就労意識の喚起・醸成	基礎ゼミ							
		キャリアデザイン講座 I	キャリアデザイン講座 II		キャリアデザイン講座 III → インターンシップ			
					専門実習 (学外施設実習)			
			インターンシップ					
②導入・基礎教育	基礎ゼミ (学習の動機付け・学習方法の教育)							
	リメディアル							
	大学基礎講座 (学習の動機付け・学習方法の教育)							
③-1 基本的能力の養成	大学基礎講座							
	基礎ゼミ							
	情報処理							
	英語							
		講読						
③-2 社会人基礎力の養成					専門ゼミ			
			社会人基礎力講座 (基礎)		社会人基礎力講座 (発展)			
④専門職教育			専門課程					
			資格取得課程					
⑤スキルアップ	スキルアップ講座 (ICT、英語、ビジネス等)							
	資格検定試験 (ICT、英語、漢字、文章能力、ビジネス他)							

凡例 正課教育 正課外教育

図 4.1 の①-1 と-2, ②, ③ (前半部分), ⑤
 - 正課教育のうち, 各学科で実施されるもの
 この種の教育は, 次の 3 種類で構成される
 導入・基礎教育 (図 4.1 の①-1, および③の
 前半)
 専門教育 (図 4.1 の③の後半, および④)
 専門職養成教育 (学科による。図 4.1 の④)

- 正課外教育
 図 4.1 の⑥および⑦
 正課部分は「導入・基礎教育」と「発展・応用
 教育」の段階からなり, キャリア形成へ向けて段
 階的・体系的に進める。「導入・基礎教育」の段階
 の目的は, 「① -1 就労意識の喚起」と「③ 基本
 的能力の習得」(基礎段階) である。③ の教育へ

円滑に入るために、「② 導入教育」を行う。基礎学力についてはリメディアル教育を実施し、これを必要とする学生は早期に、大学教育を受けるために必要なレベルへ到達させる。具体的な教育内容は表4.1 の通りである。

「発展・応用教育」の段階では、「① -2 就労意識の醸成」を図り、「③ 基本的能力の習得」をいわゆる「社会人基礎力の習得」(前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力)の水準に高める¹⁾。前者には表4.1 のA2 のように、「インターンシップ」を積極的に活用する。後者については主に、講読、専門演習(ゼミ)、データ解析などの専門教育の中にこれらの能力を習得させる教育方法を取り入れて行う。専門職を目指す学習および教職などの資格取得にはそれぞれ、「④ 学科専門課程」および「⑤ 資格取得課程」で対応する。合わせて、課外で「社会人基礎力養成講座」を開設、正課教育を補完・強化する。両段階と並行して、正課外で⑥「スキルアップ支援」(キャリア形成に有効な各種の資格取得の支援など)と⑦ キャリア形成・就職支援を行う。

3 方法

上記の教育課程における所期の目的の達成には、一人ひとりの能力、個性、状況に応じた「個別対応教育」がきわめて有効であると考えられる。集合教育では、たとえ少人数であっても十分な成果を上げることは難しい。第1 に、重要課題の「就労意識の喚起・醸成」では、個別相談・指導など、個々の学生との十分なコミュニケーションを形成し、その意識を引き出すことが必要である。第2 に、基本的能力をはじめとして、所定の習得水準を保証した教育には、新たな教育プログラムが必要である。その実施には、学生の学習・習得状況の的確な把握と支援が必要である。教室内だけの対

¹⁾ 実施段階では、これをより明確に区分するため、「基本的能力」はその基礎段階に対しての呼称とし、発展段階は「社会人基礎力」と呼ぶこととした。

面・集合教育では不十分である。本取組ではこれを、ICT の活用とeラーニングの併用により解決することとした。これにより、教室での対面教育に加えてユビキタスな学習環境とコミュニケーションの機会を提供する。学生はいつでもどこでも学習支援を受けることができるなど、個別対応教育の実現に大きな効果を発揮すると考えられる。本取組の具体的な教育方法は次の5点よりなる。

- －徹底した個別対応教育の導入
 - －学習効果を保証する新たな教育プログラムの導入
 - －学習支援のためのICTとeラーニングの活用
 - －学生総合データベースの構築と活用
 - －体系的なインターンシップの実施とその支援
- 以下、これらの教育方法について説明する。

(1) 徹底した個別対応体制の導入

学生への個別対応体制として、従来の3・4年生の「専門ゼミ」に加えて、1・2年生に「基礎ゼミ」を置く。いずれも10名以内を原則として、4年間を通じてのゼミ担当者による学生とそのキャリア形成への恒常的な対応を可能にする。授業においては教科担当者が個々の学生の学習状況の把握につとめ、その状況に応じた支援・指導を行う。これにより学生の主体的な学習意欲を引き出す。

(付録1)

(2) 学習効果を保証する新たな教育プログラムの導入

徹底した個別対応教育の下、「指導と評価の精緻化」により学習効果の高い教育を進める。これにより、目標とする学力(知識・技能の習得)への到達を保証する。(付録2)

(3) 学習支援のためのICTとeラーニングの活用

本取組実現の基盤として重要になるコミュニケーション形成をICTにより支援する。そのユビキタス性によりコミュニケーション環境が時間的・空間的に大きく広がり、個別対応教育としての支援効果が期待できる。授業はLMS(学習支援システム)上で授業情報・教材を提供、あわせてコ

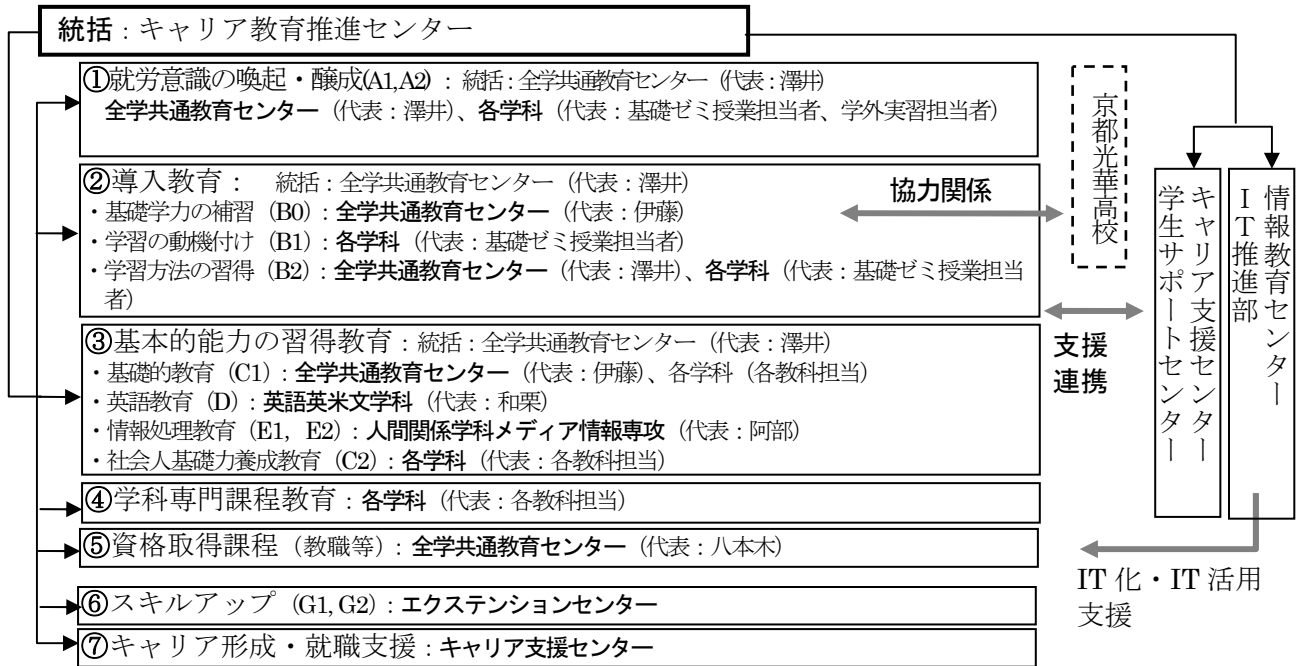


図 4.2 実施体制（A1, A2 などは表 4.1 中の記号に対応）
実施段階に変更のため、計画（申請）時と一部異なる。

コミュニケーションの場を開設する。また、復習・自習教材による各教科の学習支援およびスキルアップ学習用に e ラーニングを提供する。学生はユビキタスな学習環境で効率的にスキルアップと資格取得を目指すことができる。

(4) 学生総合データベースの構築と活用

教務、学生生活、就職など、学生に関する情報を一元的に管理し、個々の学生の状況を詳細に把握する。これにより、学生個々の状況に応じた迅速・的確な支援・指導を可能にし、情報提供を円滑にするための学生ポータルサイトを強化する。大学での活動に必要な情報を提供し、円滑な学習と学生生活を支援する。

(5) 体系的なインターンシップの実施とその支援

目的別にインターンシップを準備し、授業との連携を図るなど、体系的に実施する（後出の表 5.1 参照）。インターンシップでは、実習中の知識・技能面に加えて精神面の支援が必要である。これを効果的に行うため、学習支援とコミュニケーション形成に ICT を活用する。既存の ICT システム（電子メールや LMS）を利用するとともに、開発中の学外実習支援システムを利用する。

4 実施体制

実施体制は図4.2に示す通りである。図中の①などの番号は、他の図表のものと対応する。本取組の全体の管理・運営は「キャリア教育推進センター」（専門部署）が担当する²。①～③および⑤の教育については「全学共通教育センター」が統括し、主体となって教育にあたる。「基礎ゼミ」など、各学科が協力・担当する。キャリア形成・就職支援には「キャリア支援センター」が、スキルアップ講座などの課外講座には「エクステンションセンター」があたる。そのほか、教務および学生生活に関する事務処理と支援を「学生サポートセンター」が行う。学生総合データベースと学生ポータルの運用、e ラーニング、その他のICT活用は、情報教育センターおよびIT 推進部が担当する。必要な教材の開発にあたっては専門業者の協力を得、リメディアル教育の教材開発と実施では、併設校の京都光華高校の協力を得る。

² 計画段階では、次のようにしていた。本取組の全体の管理・運営は「エンロールメント・マネジメント推進本部」（専門部署として準備中）が担当する。直接にはその下部組織の「キャリア教育推進部」があたる（部署名は仮称）。

このため、次の組織を編成することとした。

- －キャリア教育推進センター
- －キャリア教育推進連絡会

(1) キャリア教育推進センター

キャリア教育推進センター（以下「センター」）は本取組推進の中核組織として、新たに設置した。その役割は次のとおりである。

－本取組（総合キャリア教育）の組織及び実施についての統括

- －取組推進における全体組織の管理・運営
- －取組全体についての実務

センターにはセンター長以下数名の所員（教学および事務）を置くこととした。所員は、本取組の企画立案にあたった教職員、および推進にあたって関係の深い部署の代表で構成することとした。またこのために、本事業で新たに専任の教員と事務職員各1名を雇用し、発生する業務の処理にあたることとした。

(2) キャリア教育推進連絡会

キャリア教育推進センターで計画した実施事項の多くは既に述べたように（図4.2参照）、学科、附属機関、事務部署で実施される。これを実施しPDCAサイクル³（以下PDCA）を有効に働かせるためには、取組の伝達・報告の場が必要である。キャリア教育推進連絡会（以下「連絡会」）は、この役割を果たす会議として設置した。

その業務は次のとおりである。

- －取組の実施にあたっての各担当学科・部署等間での調整
- －取組結果の点検・評価

その役割が上記のとおりであることから、連絡会のメンバーは各学科の代表、および関係機関・部署の代表で構成することとした。また、併設の短期大学部からも、オブザーバーとしてそ

の代表に参加を要請した。

5 取組の評価

評価体制は図4.3の通りである。全体的な評価と個々の教育の評価からなる。全体の評価点検と改善検討はキャリア教育推進センターが中心になり、学外専門家も加えて年間2回程度行う。あわせて同センターは、個々の教育の評価のとりまとめを行う。また、評価および改善の実効性を高めるため、教務、学生生活等の関係委員会が協力する。個々の教育の評価は、各実施組織が中心となって随時行い、常に授業へのフィードバックを行って改善に努める。あわせて、全体評価に参加する。以上のようにPDCAを徹底する。

本学で進めている教育改革では、評価の精緻化を図っている。個々の学生の学習効果を精緻に把握するもので、高い精度で学習効果を測定する。社会人基礎力の習得状況については、HQ

（Human Quotient）診断などを導入し、その効果を測定する。就労意識については、個別面談とアンケート調査により効果を判定する。取組の最後には総括と総合評価を行い、本学のキャリア教育を確立するとともに、今後の展開の方向を定める。

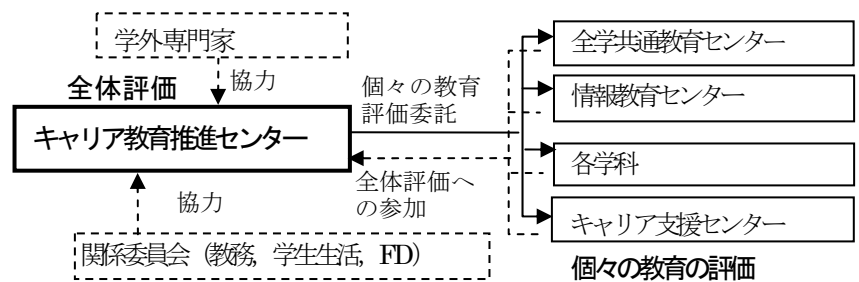


図 4.3 評価体制（学内体制と学外専門家の支援）

6 全体スケジュール

取組の全体スケジュールは表4.3の通りで、3年計画で実施する。この過程を経て、正課教育と正課外教育を総合してキャリア教育全体の体系化を

³ Plan（計画）、Do（実行）、Check（評価）、Act（改善）のサイクルにより継続的な業務改善を行う方法。

表 4.3 取組の全体スケジュール

(表内の番号・記号は前出の表 1 中のものに対応)

取組項目		平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
正課教育				
①就労意識の喚起・醸成	基礎ゼミ・キャリア科目 A1	拡充・強化	継続	継続
	インターンシップ A2	検討・準備	試行	実施
②導入教育	大学基礎講座 B2、基礎ゼミ B1	拡充	継続	継続
	リメディアル教育 B0	検討	試行	実施
③基本的能力の習得	大学基礎講座 C1	拡充	継続	継続
	基礎ゼミ C1	試行	実施	完成
	英語教育の改善 C1	検討・準備	試行	実施
	専門教科の中での実施 C2	検討	実施	継続
	情報システム活用力 E1、E2	拡充	継続	継続
④⑤専門課程	学科専門課程、資格取得課程	検討・試行	実施	実施
新教育方法導入	個別対応教育プログラム	試行	改善・実施	継続
正課外教育				
③社会人基礎力の養成	講座・能力検定 F	試行	試行・実施	継続
⑥スキルアップ	講座・検定試験 G1、G2	拡充	継続	継続
⑦キャリア形成・就職支援	面談支援システムの導入	準備・試行	実施	継続
ICT化とeラーニング				
正課のICT化	授業へのLMS導入	拡大	拡大	全授業へ
	学外実習支援システム	開発	開発・試行	運用開始
eラーニング導入	正課への導入	試行	導入拡大	継続
	スキルアップ講座	導入拡大	継続	継続

進める。あわせてその実施に必要な支援環境を整備し、効果的で円滑な実施体制を整える。ほぼこのスケジュール通りに進んでいる。

括に基づいて年度初めに当該年度の計画を各担当部署・担当者から提出。これを全体で確認して開始し、連絡会で報告・省察する形で進めた。

V 実施状況

本章では、前章で述べた計画の中で主題としてきたものについて、これまで2年間の実施により得られた主な成果について、平成19、20年度の結果報告(キャリア教育推進センター、2009、2009)に基づいて報告する。

1 取組全体の進め方

本取組は平成19年7月に選定を受け、実施計画書を提出したのち、10月からスタートした。その手順は図5.1のとおりで、基本的には表4.3にも示したように、年度単位で実施している。まず、初年度には実施組織を編成し、実施体制を整えた。その体制のもとで、全体および初年度の実施計画を確認、担当部署・担当者へ実施依頼を行った。各担当部署・担当者では詳細実施計画を立てて実施、実施結果は後述の連絡会で報告し、PDCAに努めた。平成20年度、21年度は、前年度末の総

(1) 実施体制の整備(実施組織の編成)

本取組の実施組織とその体制は、前章の3項で述べたとおりである。キャリア教育推進センターおよびキャリア教育推進連絡会がその中核組織である。平成19年7月末に選定が決定し次第、直ちに申請計画に基づいて、両組織の編成に入った。このうち「キャリア教育推進センター」は学長の指揮のもと、本取組の全権限と全責任を有する機関として設立した。本取組は単に従来のキャリア教育やキャリア支援を強化するものではなく、教育改革の一つであり、強力な推進機能が必要と考えたからである。キャリア教育推進連絡会を実施および実施事項に関する「審議機関」とせず、実施にあたってのセンターからの依頼、関係部署間の報告、実施状況の省察、情報共有などを主としたのも、同様の考えによる。

連絡会は初年度は隔月、20年度からは原則として毎月開催している。これにより、これまで教学内では主要な話題としてこなかったキャリア支援

やキャリア教育について、広く認識されるなど、本取組が目的の一つとする、キャリア教育の視点からの教育改革が進んでいるものと評価している。

(2) 年度計画の立案・確認

各年度の実施計画はまずセンターにて行われ、文科省へ当該年度の調書（大学改革等補助金（大学改革推進事業）調書）として提出される。その提出にあたっては、事前に連絡会へ報告が行われ、各担当部署ではこれに基づいて、当該年度の実施計画（到達目標を含む）の作成が行われる。

(3) 実施・報告・評価・修正（PDCA）

実施計画に従って、各担当部署およびセンター

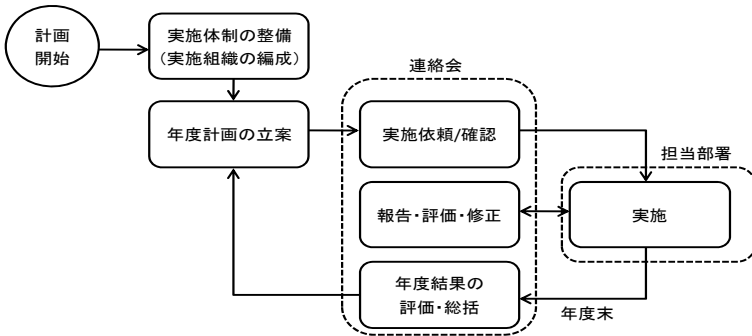


図 5.1 取組の実施手順

にて担当事項を実施する。実施結果および進捗状況について定期的に連絡会で報告・評価し、必要に応じて計画を修正するなど、その後の実施内容・方法へ反映させている。

2 学生への周知

本取組は、卒業後は社会人として生きていくことになる学生に対して、「自信をもって生きていくことのできる」人材として育てることを目標としている。したがって、本教育（キャリア教育）の対象である学生に対して、この取組を実施することを周知し、その目的・趣旨と内容を十分に理解させ、学生の積極的参加を促すことは、取組の成否にかかわる重要な課題である。そこで以下のような方法で、学生に対する丁寧なアナウンスを行った。

- －学生配布用リーフレットの作成と配布
- －関連の授業での説明
- －取組関連の実施事項におけるアピール
- －ホームページによるアナウンス

しかしながら、学生への周知は容易ではなく、実施当初はもちろん、1年半を経過した20年度末においても十分な状態ではなかった。そこであらためて、学生の参加意識を高めるため次のような政策を実施することとした。

- －取組に関連する授業の初回の授業で、当該授業が現代 GP の一環として位置づけられていること、およびその中での役割について受講生に説明する。
- －各種の講座、およびキャリア支援等の正課外教育において、当該活動が本取組の一環として実施されるものであることを説明する。
 - －関連の事業・行事については、その案内を学生だけでなく、全教職員にメールにて行う。
 - －e ラーニング教材の利用促進へ向けて、授業等において学生への働きかけを強化する。

- －本取組のポスターの掲示、GP マークの提示を積極的に行い、取組への認知度の向上を図る。

(1) 学生配布用リーフレットの作成と配布

当初の計画に従って、学生配布用リーフレットを作成した（図 5.2）。リーフレットには、学生から見てこの取組によりどのような利益が得られるのか、また学生に対してどのようなことが実施されるのかなどを中心に掲載している。リーフレットは19年度末に完成し、20年度初めに全学生を対象に



図 5.2 学生配布用リーフレット

19年10月の本取組開始時に、同様の内容のプリントを適宜配布した。

(2) 関連の授業での説明

キャリア教育としての中心科目であるキャリアデザイン論（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの3科目で、それぞれ配当年次は1, 2, 3年）では、受講生に対して直接、キャリア教育の重要性、キャリア教育の目的と合わせて、本取組について説明している。

(3) 取組関連の実施事項におけるアピール

本取組では、正課の中で中心となる科目のほか、正課外でのスキルアップなどの講座やeラーニング、キャリアマインドや社会人基礎力などの評価テストを行っている。その中では、これらが本取組の一環として行われていることを説明している。また、本取組のロゴマーク（図5.3）を作成し、関連の事業では配布物などに表示するようにしている。



図 5.3 本取組の
ロゴマーク

(4) ホームページによるアナウンス

取組開始後すぐに、本取組専用の広報用ホームページを開設した。URLは次のとおりである。

<http://www.koka.ac.jp/enrollment/gp.html>

このページでは、取組の趣旨・内容についての解説を行うとともに、平成19年度、20年度の報告書（キャリア教育推進センター、2008、2009）を掲載している。また、活動状況について随時報告するサイトとして専用のブログ（図5.4）を設けており、このページからアクセスできる。



図 5.4 取組の活動状況報告用ブログ

3 就労意識の喚起・醸成

就労意識の喚起・醸成は前章で述べたように本取組の中心的課題の一つである。「高い就労意識（働く意欲と希望）」を持つことをその目標としている。これらは主に、次の科目等で行っている。

- －就労意識の喚起を目指す科目
 - 1, 2年次に開講される以下の科目
 - 基礎ゼミまたはこれに相当する科目
 - キャリアデザイン講座Ⅰ, Ⅱ
- －就労意識の醸成を目指す科目等
 - 3, 4年次に開講される以下の科目等
 - キャリアデザイン講座Ⅲ
 - インターンシップ（正課外）
 - 学外実習科目

(1) 基礎ゼミでの就労意識の喚起

本取組では、従来の3・4年次の「専門ゼミ」に加えて、1・2年次に「基礎ゼミ」を置くこととしている。これにより、4年間を通じてのゼミ担当者による学生とそのキャリア形成への恒常的な対応を可能にする。その中で、「基礎ゼミ」では「就労意識の喚起」を中心課題の1つとして取り組んでいる。実施にあたっては次の事項を申し合わせた。

- －キャリア教育の最も重要な役割は「働くことの意義」を見出すことである。そのきっかけを作っていく（喚起していく）ことを「基礎ゼミ」の目標の一つとする。
- －そのために十分な時間を充てるとともに、（ごく）少人数の授業の利点を生かして、効果的な教育を実施する。
- －その内容と方法について担当者間および学科等で十分に検討し標準化する。さらに、PDCAを重ねることが重要である。最終的には、大学全体としての標準化を目指す。その結果として、「光華方式就労意識喚起教育」を確立する。
- －学生が興味を持ち自主的な参加に至ることが肝要であり、対話および体験の要素を取り入

れた授業が効果的と考えられる。

ーまた、個別相談・指導など、個々の学生との十分なコミュニケーションを形成し、その意識（職への意識）を引き出すことに努める必要がある。これを就労意識喚起教育の一つの特色とする。学生の多様性にも対応する必要がある。

ー入学当初は、特定の学科を除いては、将来についての明確な意識を持たない学生が多数であることを認識しておく必要がある。最初はまず、今の自分の他に将来の自分があることを意識し、将来の自分に夢あるいは希望を持つきっかけを作ることから始めることが効果的と考えられる。

以上について現在(平成 21 年度入学生までは、学科によって基礎ゼミあるいはこれに相当する科目の開設状況が異なり、約半数の学科ではまだ 1 年次にのみ開設されている。平成 22 年度入学生からはこれを、すべての学科で 1, 2 年次を通して基礎ゼミ（または基礎演習）として開設することとした。とくに新設予定のキャリア形成学部では、4 年間にわたるゼミで体系的に、就労意識の喚起から醸成までを丁寧に行う。

(2) キャリアデザイン講座と就労意識の喚起

キャリアデザイン講座は、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの 3 科目を開講している。これにより、職業に就くことへの意欲（就労意識）を高め、さらに就きたい職業への具体的なイメージが持てるようになることを目標としている。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲはそれぞれ、1, 2, 3 年次の配当としている。Ⅲでは後述するように、インターンシップを授業内容に取り入れ、職業あるいは働くことの具体的な理解を通して就労意識を高めることを目指している。Ⅰは平成 17 年度、Ⅱは平成 20 年度、Ⅲは平成 21 年度から開始している。そのうちⅠとⅡの具体的な内容は次のとおりで（各科目のシラバスより）、就労意識の喚起を主要な目的としている。

ーキャリアデザイン講座Ⅰ

「自分の将来と大学生活の過ごし方」をテーマとして、①自分の将来を考え、②目標をつくる大切さを考え、③社会に必要な能力を考え、④社会で働くということを考え、⑤なりたい自分の実現に向けて大学生活の過ごし方を考える。これにより、「自ら目標を定め実行する・考え討議する・発表する」力を修得する。

ーキャリアデザイン講座Ⅱ

「職業と私の進路」をテーマとし、卒業後の進路選択に備えて、「働くとは」「学生と社会人との違い」「働くいきがい」「学生時代の過ごし方」などを考え、働くことの魅力を知る。また、世の中の職種や資格について理解を深め、進路を具体的にイメージすること、社会人として必要なコミュニケーション力をつけることを目指す。

(3) 就労意識の醸成

就労意識の醸成は前述のように、キャリアデザイン講座Ⅲおよび正課外のインターンシップにおいて行っている。また、学外実習を要する課程では、その中で職業理解を通して就労意識の醸成を図っている。

a) キャリアデザイン講座Ⅲ

キャリアデザイン講座Ⅲは 3 年次前期の配当で、1, 2 年次のキャリアデザイン講座ⅠおよびⅡに続いて、「職業理解」を主要なテーマの一つとしている。この科目は、教室での講義・演習に加えて、夏休みに 1~2 週間のインターンシップを体験することを修得要件としている。教室での講義・演習では、インターンシップについて理解し参加に必要な知識・技能を習得する。その上で、インターンシップに参加し、終了後は教室に戻ってレポートを作成し発表する。これにより、体験と省察を通じた「職業理解」を目指している。

b) 専門実習

いくつかの学科の専門実習および資格取得課程では、当該分野の職場における学外実習を行っている。その際、インターンシップとしての視点を

もって実習につくことを指導している。その対象は、社会福祉学科の学外実習（社会福祉援助技術現場実習）、健康栄養学科の学外実習（臨地実習）、教育実習、博物館実習である。

c) 正課外のインターンシップ

本取組で実施しているインターンシップを表 5.1 に示す。このうち正課外のものは表中の①で「一般ビジネス研修」と呼んでいる。毎年、大学

コンソーシアム京都、経営者協会、ハロワーク等からその年度のインターンシップの募集がある。その説明会を4月に開催した後、キャリア支援センターで申し込みを受け付ける。終了後は報告書の提出を求め、省察することによってその成果の定着を図っている。平成20年度は17名がインターンシップを受けることができた。

表 5.1 正課・正課外のインターンシップ（研修、対象学年、内容）

研修名	対象 時期	内容
①一般ビジネス研修	全学科 2～4 年生 夏休を中心に 2 週間～1 月程度	○既存プログラム（大学コンソーシアム京都、経営者協会、ハロワーク等）を学生の希望に応じて紹介 ○本学で上記団体の説明会を実施する。 ○キャリア支援センターにインターンシップ担当において学生の相談に対応する。
②教育課程に組込まれた実習	人間健康学科 3～4 年生	○管理栄養士養成の教育課程（臨地実習） ・給食の運営実習（3 年次 5 日間）、臨床栄養学実習（3 年次 10 日間）、公衆栄養学実習（4 年次 3 日間） ○上記の実習の準備・支援・指導科目として、人間健康 B 総合演習 I、II（3、4 年）を提供。
	社会福祉学科 3 年生	○社会福祉士養成の教育課程（社会福祉援助技術現場実習） ・対象施設は高齢者施設、障害者施設、児童養護施設、社会福祉協議会等で 3 年次 通年実習（210 時間以上） ○上記の実習の準備・支援・指導科目として、社会福祉援助技術現場実習指導 A（2 年後期）、B（3 年通年）を提供。
③光華方式インターンシップ	キャリアデザイン講座Ⅲ 受講者 3 年生 夏休に 2 週間程度	○キャリアデザイン講座Ⅲ（業界・企業・仕事に関する講座）の最終仕上げとしてインターンシップを実施する。 ○インターンシップ先は本学とネットワークの深い（卒業生が多い）企業が中心。職種は例年希望の多い事務、営業、販売等を対象とする。 ○インターンシップ先の選定は、本人の希望をもとにキャリア支援センターの職員、ゼミ担当の教員の指導・支援、自らが行なう。

表 5.2 社会人基礎力-3つの能力 12の要素-
基礎力.net（2009）を参考に作成

3つの能力	12の要素
前に踏み出す力 一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力	主体性…物事に進んで取り組む力 働きかけ力…他人に働きかけ巻き込む力 実行力…目的を設定し確実に行動する力
考え抜く力 疑問を持ち、考え抜く力	課題発見力…現状を分析し目的や課題を明らかにする力 計画力…課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力 創造力…新しい価値を生み出す力
チームで働く力 多様な人々とともに、目標に向けて協力する力	発信力…自分の意見をわかりやすく伝える力 傾聴力…相手の意見を丁寧に聴く力 柔軟性…意見の違いや立場の違いを理解する力 状況把握力…自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力 規律性…社会のルールや人との約束を守る力 ストレスコントロール力…ストレスの発生源に対応する力

4 基本的能力の育成

本取組では、社会人としての「基本的能力」の養成を挙げている。またその発展として、「社会人基礎力」を習得することとしている。「基本的能力」としては、次の項目を想定している。

- －理解力（「聞く・読む」を通してものごとを的確に理解する能力）
- －論理的思考力（ものごとを論理的に考える能力）
- －表現力（表現すべきことを的確に「話す・書く」能力）
- －基礎学力

これらの能力はこれまで、基礎ゼミ等、大学基礎講座、英語、情報処理、その他、各種の「基礎科目」を中心に養成してきた。しかし、十分な教育効果を挙げるには至らず、その原因として次のような問題が認識されている。

- －教員間で、社会に出る学生の必要な修得能力として十分な認識がされていない。むしろ、専門科目に比べて軽視されてきたところがある。
- －目的（修得目的）を基準とした体系化が行われていない。
- －科目全体として組織的な運営が行われていない。

本取組では、以上の点を中心に上記の科目及びその運営について、以下のような改善に取り組んでいる。

(1) 基本的能力の養成としての導入教育の体系化と運営

前記の理解力、論理的思考力、表現力の基礎についてはこれまで、導入教育として行ってきたものである。該当科目は基礎ゼミ等および「大学基礎講座」である。大学基礎講座は平成13年度に、全学共通の導入教育として開始したものである

（藤田，2002a）。本学独自の教科書を用意するなど（藤田，2002b）、導入教育としての大きな成果を上げてきた。その目的は、大学での学び方（ノ

ートの取り方、図書館の利用法、レポートの書き方など）を修得、学習意欲を喚起し、大学での学習を成功に導くことにある。一方、基礎ゼミ等は、導入時にきめ細かな教育と指導が必要であるとの判断で、学科ごとに設けられていった。その目的は両科目間で相当に重複するため、十分な連携と導入教育としての体系化が必要と認識され、本取組を機会に検討が進められている。

とくに近年では、より基本的な「読む、書く、聞く、話す」のコミュニケーション基礎力についての教育が必要になっており、導入教育の中で、これらの教育を重視する方向にある。

(2) 基礎英語教育の組織的運営

従来より、全学共通の英語科目については、その教育効果の観点から、内容の統一と組織的運営が検討されてきた。本取組を機会に、これを2年計画で実施することとした。その要点は次のとおりである⁴。

- －組織的運営の強化
- －そのためのテキスト等の統一教材の開発

教材の統一は、本科目全体を組織的に運営するためには必要不可欠である。そこで今回、本学学生の特性への対応、および本学が目指す英語教育の実現の観点から、独自の教材を開発して望むこととした。以下、この教材について報告する。

開発した教材は通常の紙ベースのテキストとこれに基づく電子教材である。電子教材は学生の自習・復習用にインターネットを介して利用できるeラーニング教材として開発した。用意した電子教材は次のとおりである。テキストをリーディング・リスニングしたのち、練習問題で理解度を確認するといった学習法を想定している。テキストと音声はダウンロードし、学生のパソコンあるいはiPodなどの携帯情報端末で利用することもできる。

⁴ この取組は本学国際英語学科により開発中のKEEP（Koka English Education Program）による。

ーリーディング用テキスト（文字）およびリスニング用音声
ー練習問題

このほか、iPodでの利用を想定して、画面に表示されるテキストを見ながらイヤホンで読上げの音声を聞くコンテンツの開発を試みた（山本他，2008）。このコンテンツはポッドキャストとして配信している。学生は、自身のパソコン上で配信サイトの登録をしておけば動画・音楽の再生・管理ソフトiTunesを使用して自動的に最新のコンテンツをダウンロードすることができる。ダウンロードしたコンテンツはiPodで視聴できる（図5.5）。

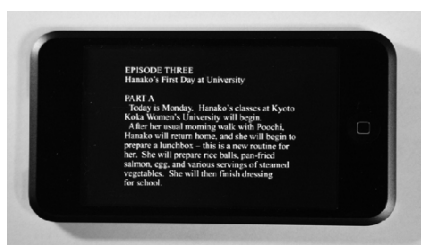


図 5.5 iPod 用音声入り
テキストの画面

これらの教材を使用した英語教育は1年次の英語（基礎英語）で、20年度から実施している。全学科で統一した授業を組織的に実施している。1年次の英語は現在、すべての学科で週2回、学生は必修科目として履修する。従来、この2回で内容が異なるものを履修してきた。今回は、いずれも同じテキストを使用し、週2回の授業で1つの内容の科目を受講する形になっている。ただ、既存のカリキュラムの上で実施していることもあり、体系的・組織的英語教育の効果を上げるにはさらに改善が必要である。そこで、22年度入学生からはカリキュラムを変更し、これをさらに徹底する。とくに新設するキャリア形成学部では、修得レベルに応じたステージ制を導入するなど、大きな改善を予定している。

5 社会人基礎力の養成

以下の能力を基礎に、「問題発見・解決」に自立的・能動的に当たることができる力を養成する。これは、経済産業省の提唱する「社会人基礎力」

（「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」）（表 5.2 参照）の養成を目指したものである（経済産業政策局産業人材政策室，2009）。

- ー調査分析力（問題の発見・解決に必要な情報を探索・収集し、これを分析する能力）
- ープレゼンテーション力
- ーレポート作成能力
- ーコラボレーション力（他人と共同して問題解決に当たることができる能力）
- ーICT（情報通信システム）活用能力

社会人基礎力の養成は基本的能力の養成を経て、その発展として位置づけている。従って主に、3、4年次を中心とする専門課程教育と正課外の講座で行っている。

(1) 社会人基礎力養成講座

社会人基礎力養成講座としては、厚生労働省のYESプログラム⁵（厚生労働省，2009）に準じた講座として、正課外でⅠ、Ⅱ、Ⅲの3つの講座を実施している。このうちⅠ、Ⅱは2年生、Ⅲは3年生を対象にしている。各講座の内容は表 5.3 のとおりである。その受講状況は表 5.4 に示すとおりである。表に示すように、受講者数は目標をかなり下回る。就職面接や資格対策などのスキルアップ講座では比較的多くの受講者があるのと対照的である。その要因はいくつか考えられるが、より基礎的な能力の習得といったものへの関心が不十分であることや時間設定などが主要な要因と考えられる。前者については、低学年、とくに初年次でのキャリア教育をしっかりと行うことが肝要と考えられる。その意味で、初年次の基礎ゼミの役割は重要である。後者については、平成21年度から平日（それまでは土曜日）に回数を15回から8回程度とする対策をとった。

(2) 専門科目における社会人基礎力養成

⁵ 厚生労働省が推進する「若年者就職基礎能力支援事業」。企業が若年者に求める就職基礎力の内容とそれを身につけるための目標を提示している。YESプログラムとは、Youth Employability Support Program による。

専門課程教育では主に、専門ゼミ等の演習科目と専門実習科目において、社会人基礎力養成の要素を意識的に取り入れた。問題発見・解決、レポート作成、プレゼンテーションを主題としている。その方法・結果を連絡会で報告・議論することにより、有効な教育法を追求している。専門ゼミ等において、発表・討論の時間の増加、社会を意識したテーマの設定、さらにはPBL（問題やプロジェクトにもとづく学習）の導入など、その影響が現れている。

6 ICTシステムの活用

取組の課題を解決する方法として、「個別指導・個別対応教育」と並んでICTの活用を考えた。本取組の特徴の一つである。ここでは、その導入・活用状況について報告する。

(1) キャリア形成・キャリア支援面談システム

図 5.6 にシステムとその運用の概念を示す。図のように、本システムには入学時および在学中に発生する各種の学生情報を収録する。その情報を学生への個別指導等に活用し、学生のキャリア形成と就職活動の支援を行う。本システムは、学生総合情報管理・提供システム「光華 navi」⁶内に用意した。計画では、次の情報を収録することとした。

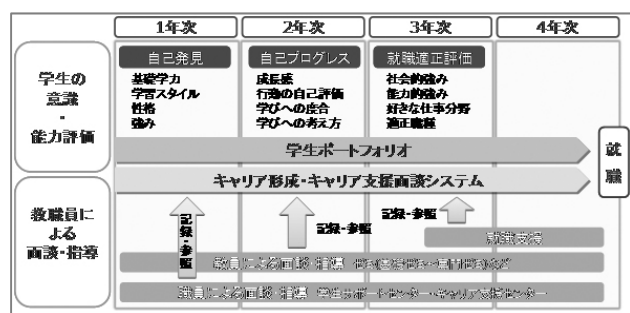


図 5.6 キャリア形成・キャリア支援面談システムとその運用

⁶ 学生が必要とする修学・生活情報を一元的に提供する学生ポータル役目を果たす Web 情報提供サービス。

－学生のアセスメントデータ

基礎学力、性格、意識（キャリアマインド）、適正などの自己分析結果

－教職員による面談・指導の記録

面談の日時、目的、内容、経過など

アセスメントとしては、1年次と3年次を対象として、基礎学力、性格、意識、適正などのテストを実施し、全学年を対象に社会人基礎力評価のテスト（HQ テスト）を実施している。これらは一部、システムへの入力を行っているが、システムの機能上の問題などで、まだ全面的にシステムへ収録するには至っていない。一方、面談・指導の記録については、個人情報保護やプライバシーへの配慮などの問題が指摘され、その解決にあたっていているところである。

面談記録・閲覧のシステムの導入と試験運用は予定通りに進んだが、本運用にあたってはこれらの課題を順次解決しているところである。その中でキャリア支援面談については、平成20年度末に一部解決し、21年4月より、学生キャリア支援センターにて運用中である。キャリア支援センターでは現在、次の項目についてシステムへの記録を行っている。

－面談日（必須）

－面談者（自動記録のため入力不要）

－面談事項（必須。カテゴリー化）

－種別（必須。メニューより選択）

－担当教員・関連他部署（学生サポートセンター、学生キャリア支援センター）に伝えたいこと。（任意）

これらの記録はこれまで、同センターで手書きのカードを使って行われてきたものであるが、同センターでの参照を容易にするとともに、担当教員（ゼミ、クラス担当）も随時閲覧することができ、学生の指導に役立てられるものと考えている。

本システムは今後、本学の総合学生支援（平成20年度学生支援 GP にて選定）に引き継がれる。同取組では、学生の過去・現在の状況についての

総合評価（アセスメント）を支援の基礎に置いており、上記の課題の解決策について検討中である。

(2) ラーニングポートフォリオ (e ポートフォリオ)

ラーニングポートフォリオは、学習目標、学習計画、学習結果など、学生の学習・生活活動を記録し、自己の省察および教員とのコミュニケーションによって、学生のスキル、精神面、人格形成などさまざまな面での成長を支援するものである。とくに、その成果を数量的に評価することが困難なものについて有効であるとされている。就労意識の喚起・醸成あるいは社会人基礎力の育成といった課題には有効であろうと考えられる。

現在、本学で実施している e ポートフォリオの使用形態は次の 2 とおりである。

ー教員が設問形式で記入させる形式

たとえば、学年初めに、その学年での達成目標とその計画を回答させる。これに設問者の教員がコメントすることにより、教員と学生のコミュニケーションを図り、学生を励ましアドバイスを与えることによって支援しようとするものである。図 5.7 にその 1 例（学生が開く設問



図 5.7 e-ポートフォリオの画面例

の画面)を示す。これは筆者の一人が、担当のゼミで行っている例である。

ー学生が自身で記録する形式

学生が日記のように、自身の学習や生活についての目標、計画、活動などの記録を行い、自身の意識と行動を確かめ省察することによって成長してもらおうとするものである。

このように通常、ポートフォリオは学生の自発的な書込みを前提としている。これが原因と考え

られるが、書込みは多くない。ゼミなどで担当教員が授業の一環として（成績評価の対象として）回答を要請したときのみ、書込みが多くなるという状態である。そこで、ポートフォリオの運用について、次の 2 点を提案しておきたい。一つは、学生に対して書込みを強制するような方法をとる必要があるということである。授業の一環とするのもその一つである。幸い本学では、基礎ゼミなどでキャリア形成を主題としていくので、この方法が可能になると思われる。もう一つは、教員がコメントを丁寧に行うということである。ポートフォリオは学生と教員の密接なコミュニケーションにより成果が得られるものであり、丁寧なコメントは不可欠である。これが学生のポートフォリオへの信頼と期待につながるものと考えられる。

(3) e ラーニングコース

LMS（学習支援システム）上に自習用コースとして、次のような学習コースを用意している。

ーリメディアル等

統計学，日本語（ASP を利用），英語（本学独自開発）

ースキルアップ

TOEIC 対策，レポート作成，プレゼンテーション，ディベート

ー就職活動支援

就職面接対策，働く意義と会社の仕組み，社会人マナー

その目的は、e ラーニングの「いつでもどこでも学習できる」ユビキタス性を活用し、学生へ幅広い学習機会を提供することにある。利用状況は全体にやや低調であるが、一部のコースでは利用者が多いものもある。20 年度末に利用状況を分析し、利用率の向上策を検討した。その結果、学生への周知に最大の課題があるとして、授業での案内など、その対策を強化している。

(4) 実習支援システム

この ICT システムは、学外実習の円滑な実施とその学習効果の向上を図ることを目的としている。

学外実習がかかえるさまざまな問題、とくに実習生への支援を、ITを利用することによって解決しようとするものである。インターネット上に構築される仮想的なコミュニケーション空間のユビキタス性を活用し、大学・実習先・実習生との間でリアルタイムで高密度な連携および支援を実現する。支援の第1は、学外実習期間中の学生への迅速で十分な支援である。第2は、実習先施設および実習先指導者との連携の問題である。第3は、実習中に他の授業を欠席せざるを得ない場合への学習支援である。

このシステムが対象とするのは、社会福祉学科の学外実習（社会福祉援助技術現場実習）、健康栄養学科の学外実習（臨地実習）、教育実習、博物館実習である。この中から社会福祉学科の学外実習を対象に試験システムを開発し、平成20年度に試験運用を行った、その結果、いくつか改善点はあるが、上記支援における基本的な目的は達成できるものであることが確認できた。そこで21年度はこれを拡大して、教育実習などその他の学外実習に適用しているところである。また、当初の対象に加えて、インターンシップへの活用を準備中である。

7 アセスメント

本取組みではこれまで述べたように、高い就労意識、基本的能力、社会人基礎力をその教育目標としている。これらの現状と習得状況を評価するため、次のようなアセスメントを行っている（表5.5参照）。これらの受診状況は表5.6のとおりである。

- －プレースメントテスト
- －自己発見レポート
- －HQテスト
- －就職適性検査

プレースメントテストは基礎学力を調べるもので、入学時、2年、3年への進学時に行っている。科目は国語、英語、数学である。現在、学科によ

って実施学年と実施科目は異なるが、今後はこれを統一していく方向で計画している。それぞれ、関係の科目での習熟度別クラス編成など学生の学習支援に役立っている。

自己発見レポートは、進路に対する意識、性格の傾向、問題解決のスタイル、基礎学力、社会的強み、職業への興味を測定する。入学時に全学生を対象に実施している。21年度入学生の受診率は62%である。現時点では、20、21年度の実施結果より、本学学生の現状の評価とその分析を行ったところであり、本取組みで挙げる基本的能力の強化と就労意識は強化すべき課題としてあらためて認識された。

HQテストは、社会人基礎力を評価するものとして、全学年を対象に実施している。学生の現在の能力と可能性、行動の傾向、性格、職業適性などが評価される（株式会社ジェイ・エス・エル、2009）。学生はこれを、進路選択に生かすことができる。大学としては、学生の個々の指導・支援に生かすことができる。とくに、就職支援には重要な情報となる。その結果は、Webによって担当教員が閲覧でき、学生の指導・支援に活用することができる。ただ、このテストは1回約40分を要し、やや受診者の負担が大きく、改善を要すると考えている。

就職適性検査は3年生を対象に実施している。就職活動を開始するにあたって、学生の就職適正を検査し、就職先の選択やアピールポイントの認識など、就職活動の戦略・戦術の検討に役立っている。平成20年度、179名の受診があり、対象者の約半数が受診しており、比較的関心が高い。

このように、学生への個別対応と個別的対応教育に必要な情報として、現在、さまざまな測定を行い、その有効性を検証しているところである。そのため、ここで示したように測定内容が相当に重複しているところがある。21年度中に今後の評価システムを確定したいと考えている。その要点は次のとおりである。

ー全体の体系化

ー学生の負担を最小限にするコンパクトなテスト

ーエンロールメントマネジメント（付録 1）

ト

の一環としての実施。

表 5.3 社会人基礎力講座の構成と内容

対象学年	1・2年生		3年生
講座	社会人基礎力養成講座Ⅰ	社会人基礎力養成講座Ⅱ	社会人基礎力養成講座Ⅲ
内 容	①基礎学力(読み書き) ・説明文を書く ・要約文を書く ・意見文を書く ②基礎学力(計算) ・整数の計算 ・分数・小数の計算 ・方程式 ・集合	③基礎学力(社会人常識) ・税金の仕組み ・環境問題 ・高齢化社会 ・情報化社会 ・日本の歴史と文化 ④キャリアデザイン(職業人意識) ・大学生活、何してる？何しよう？ ・会社で働くということ ・いろいろな仕事 ・社会で求められる力 ・私のキャリアデザイン	⑤コミュニケーション ・分かりやすく話す ・意見の主張 ・プレゼンテーション ・的確に聴く ・ディスカッション ⑥社会のマナー ・挨拶の基本 ・言葉遣いと敬語 ・電話と訪問のマナー ・来客対応のマナー ・仕事の基本と気配り

表 5.4 社会人基礎力講座の受講状況

講 座	内 容	対象学年	受講者数
社会人基礎力養成講座Ⅰ	読み書き・コミュニケーション	2	13*
社会人基礎力養成講座Ⅱ	計算・社会人常識	2	10*
社会人基礎力養成講座Ⅲ	ビジネスマナー	3	63**

* 平成 20 年度, ** 平成 21 年度

表 5.5 学生の意識・能力評価の実施年次と評価目的

種別	1 年生	2 年生	3 年生
自己発見	自己発見レポート ・基礎学力 ・学習スタイル ・性格の傾向 ・社会的強み プレースメントテスト ・基礎学力	自己プログレスレポート ・成長感 ・行動レベルの自己評価 ・学びへの度合い ・学びへの考え方	就職適性検査 ・社会的強み ・能力の強み ・好きな仕事分野 ・適性職種
HQ (Human Quotient)	第1回HQ診断 ・性格・思考・態度 ・スキル・行動	第2回HQ診断 ・性格・思考・態度 ・スキル・行動	第3回HQ診断 ・性格・思考・態度 ・スキル・行動

表 5.6 各種アセスメントの受診状況

テスト	対象学年	受験者数	
		20 年度	21 年度
自己発見レポート	1	167	253
就職適正検査	3	179	—
HQ テスト	全学年	151	約 700
就労意識調査	1	325	—

VI まとめ

本取組の計画とその実施状況について述べた。そこで述べてきたようにこの取組は、今、社会が大学に求める「社会人としてふさわしい人材の育成」に応えるため、その教育課程を「キャリア教育」の視点から見直し、大学の教育を社会に対して責任を果たせるものとするための教育改革である。実施状況に見る限り、その最終的な成否はまだ判定できないが、解決法は少しずつ明らかにできつつある。また各取組事項ではそれぞれ、計画した事項を着実に実施している。取組完了時には、これらの実施結果から十分な情報が入手され、上記の視点からのキャリア教育の在り方と有効な方法が見出せるものと期待している。以下、この取組によりこれまでに認識できた事項について述べ、本論のまとめとする。

6.1 大学の在り方とキャリア教育

大学は今、これまでになく大きな社会的責任を問われている。同時に期待もされている。その回答を考えるには、50%を超える若者が大学へ進学する大学大衆化を前提とする必要がある。大学に課せられているのは社会が期待する社会人を育成することである。これを「大衆化」と合わせて考えると、大半の大学の使命（ミッション）はまず、「大衆」を育成するということになる。そこから、大学においていかにキャリア教育が重要であるかが分かる。今、「キャリア」の意味は従来の狭い意味、すなわち「ワークキャリア」から「生き方そのもの」と考えることが増えている。その意味では、大学で提供するキャリア教育は、従来の狭い意味で「キャリア」を捉えるのではなく、広い意味で考えることが必要である。その視点に立ってキャリア教育を行うことにより、真に求められる社会人を送り出すことができよう。

そこで修得させるべき能力が「社会人基礎力」ということになるが、それは単に企業における業務遂行能力ではなく、自らの生き方を自ら考え決定していくことのできる「生き方」についての自立的な能力と考えるのが適切であろう。そのような能力を大学では、可能な限り学生に修得させる責任がある。その意味で、大学は「何が学べるか（どのような分野が学習できるか）」から「何を修得できるか」へ大きく舵を切る必要があると考える。そのため本学では平成22年度に、このような理念に基づく新たな学部「キャリア形成学部」を開設する。この学部は、本取組の構想とそこで得られた知見から、これをさらに発展・実践しようとするものである。

6.2 この種の取組を推進するポイント

このような教育改革、さらには大学改革を推進するには大きな原動力を必要とする。大学では一般に、その原動力は強くない。とくに「教育機能」についてはその傾向が強く、「大学競争時代」にあって教育力が問われる現在、どの大学でも苦慮している状況にある。これをどのように高めるかは最大の問題であるが、その問題についての議論はまたの機会として、ここではその他の要素について、本取組の経過から、現実に十分解決可能であろうと考えられる問題について述べておく。

第1は関係者への周知活動である。関係者と言えは教職員を想起するであろうが、同様にあるいはそれ以上に重要な関係者は学生である。教職員・学生への周知活動が最も重要な課題であると考える。その意味で、本取組で連絡会を設け、できるだけ多くの関係者が参加する形で、繰り返し取組の趣旨を確認してきたことは効果的であると評価している。それでも、開始後2年を経過しても全教職員に十分にその趣旨や実施内容が伝わるには至っていない。活動の一つひとつについて、

全教職員にその都度伝える必要があるろう、またそれが、学生への周知を図ることにもなる。一方、対学生においては、さらに周知活動は十分でなく、個々の取組に参加している学生も取組の趣旨を理解していることは少ない。学生が取組の趣旨を理解して参加することは取組の成功につながるので、重要な問題である。以上の点については現在、その改善に取り組んでいる。

第2に、実施に際して既存の学内文化との融合を図ることである。大学にはどこでも、取扱事項別に「委員会」がある。大学の管理・運営はこの「委員会」を基礎に行われている。したがって、このような取組を行う場合はまず、既存の委員会との関係を考えることになる。そこには大きな無理(矛盾)がある。この種の取組は、既存の取り扱い事項のカテゴリーの一つ(たとえば「教務」)に当てはまるわけではない。既存の委員会は横の連携はきわめて不得手であり、取組は横の連携を必要とする。したがって、別途、他の委員会に優先する委員会を作ることになり、その結果、その活動は他から遊離してしまう。そこに工夫が必要である。本取組では、委員会方式をとらず、キャリア教育推進センターが立案した実施事項を連絡会において各担当学科・部署へ依頼し実施してもらおうという方式を採った。結果的に、この方式が成功しているように思われる。

謝 辞

本論は本学で選定された平成19年度現代GP「学生個人を大切にしたいキャリア教育の推進」の計画と実施状況について報告したものである。本取組は、キャリア教育推進センター所員をはじめ、学生キャリア支援センター、および本学短期大学部含む全学の教職員の方々の参加により推進されている。本論の執筆はその結果として可能になったものである。これらの皆様に厚くお礼申し上げる。また最後に、本取組の申請および推進にあた

って指導的役割を果たしていただいている本学学長の一郷正道先生に厚く謝意を表したい。

文 献

上西 充子 編著, 2007, 大学のキャリア支援 — 実践事例と省察 —, 経営書院.

株式会社ジェイ・エス・エル, 2009, ヒューマンスキル開発 (HQ / Human Quotient®),

<https://www.jsl.jp/service/hqp.html>

アクセス日:平成21年9月26日

基礎力.net, 2009, 社会人基礎力について,

<https://www.kisoryoku.net/user/login>

アクセス日:平成21年9月26日

キャリア教育推進センター, 2008, 学生個人を大切にしたいキャリア教育の推進—平成19年度報告書,

<http://www.koka.ac.jp/files/gphoukoku19.pdf>

アクセス日:平成21年9月26日

キャリア教育推進センター, 2008, 学生個人を大切にしたいキャリア教育の推進—平成20年度報告書,

<http://www.koka.ac.jp/files/gphoukoku19.pdf>

アクセス日:平成21年9月26日

経済産業政策局産業人材政策室, 2009, 「社会人基礎力」について,

[http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/index.](http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/index.htm)

[htm](http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/index.htm)

アクセス日:平成21年9月26日

厚生労働省, 2009, 「若年者就職基礎能力支援事業(“YES-プログラム”)」について,

<http://www.mhlw.go.jp/general/seido/syokunou/yes/>

[u/yes/](http://www.mhlw.go.jp/general/seido/syokunou/yes/)

アクセス日:平成21年9月26日

藤田 哲也, 2002a, 京都光華女子大学における導入教育:大学基礎講座, 京都大学高校教育研究, 8, pp. 131–147.

藤田 哲也 編著, 2002b, 大学基礎講座, 北大路

書房.

文部科学省, 2009a, 進路指導・キャリア教育について,

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/
アクセス日:平成 21 年 9 月 26 日

文部科学省, 2009b, 「若者自立・挑戦プラン」,

http://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/wakamono/h17/002/001.pdf

アクセス日:平成 21 年 9 月 26 日

文部科学省, 2009c, 大学教育の充実—Good Practice—,

http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/gp.htm

アクセス日:平成 21 年 9 月 26 日

山口 憲二 編著, 2008, キャリアデザインの多元的探究, 現代図書.

山本嘉一郎, 箕田千恵, 坂野真見, 2008, iPod によるモバイル e ラーニングに関する実験, 年報人間関係学, No. 11, pp.31~44.

教育, ホームルーム, 個別相談などによって **Campus Involvement** を促進する。在学者には, 指導と評価の精緻化, TA による学年縦断的な教育体制, 奨学金制度の拡充などによって, 学習効果を保証する。同時に, キャリア教育, キャリアアップ講座, 資格取得サポートによって人的資本の向上を図り, 個別の就職支援とあわせて確実に就業するまでをバックアップする。卒業生に対しても, 資格取得のサポート, 転職や就業上の相談, カウンセリングなどで生活環境の向上に力を添える。そして, 統合的な情報処理システムにより, 以上すべての政策を有機的に運用する。要するに, 京都光華女子大学のエンロールメント・マネジメントとは, 入学前から卒業後にいたるまでの一貫した個別対応教育を通じて, 学生のあらゆる不安や疑問に徹底的に対応し, さらにその過程で主体的な学習意欲を引き出すことによって, より高度な水準で教育理念の具体化を目指す, というものである。

(平成 19 年度現代 GP 申請書より)

付 録

付録 1 本学におけるエンロールメント・マネジメントの概要

エンロールメント・マネジメントとは, 大学の理念や組織目標を最大限に実現させるべく, さまざまな資源を統合的かつ戦略的に動員し, 結果として学生の満足度を向上させ, 学業と学生生活を質的に豊かなものにする政策群を指す。

本学の場合は以下のような内容である。受験生に対しては, ウェブによる全面的な情報開示, ブログによる教員の紹介, オープンキャンパス, 授業の公開などによって, 進学判断に必要な情報の提供をおこなう。合格者には, 入学前教育, 履修説明会, **Housing** の 100%保証によって, 不安を解消する。新入生に対しては, ガイダンス, 導入

付録 2 学習効果を保証するための新たな教育プログラム (個別対応教育プログラム)

本教育システムは, 《指導の精緻化》と《評価の精緻化》を指導方針の骨格に据えながら, 学生一人ひとりの熟達度に見合ったプログラムを構築することで, 学生の主体的な学習意欲を引き出し, あらかじめ設定された学力 (知識・技能の習得) 水準への到達を実現しようとするものである。《指導の精緻化》は「丹念な学力の把握」と「個別指導」の 2 点から構成される。前者は, 学生の熟達度を教員と学生の双方が逐次的に把握するため頻繁に熟達状況をチェックし, これを学生にフィードバックする制度である。具体的には, 授業期間中に数度の宿題や小テストを課し, すみやかに採点のうえ返却するという方法をとる。たとえば「データ解析入門」という授業では, 定期試験のほか, 小テスト 3 回, 宿題 7 回, 出席確認は毎回行

う。小テスト、宿題とも、採点結果はウェブ (LMS) に掲示し、翌週の授業中に解答と解説を行う。後者は、熟達度に応じた丁寧な個別指導を行う制度である。クラス全体を対象とした指導(全体指導)では、個々の学生の疑問に答えたり、個々の学生の学習課題を指摘したりすることには限界があるため、これによって全体指導を補完する。また、複数の科目で学力に伸び悩んでいる学生に対しては、クラスアドバイザーが指導計画を策定し、定期的に面談を行う。

《評価の精緻化》は、「厳密な成績評価」、「出席確認の体系化」、および「GPA による精密な学力指導」の3点から構成される。「厳密な成績評価」は、定期試験一本での不安定な成績評価を脱却し、宿題、小テスト、出席など複数の評価ポイントによって成績を評定することである。これにより、努力と能力に応じて公正かつ適切に評価が行われ、学生には授業期間全体を通じて学習の努力を促す

こととなる。「出席確認の体系化」は、科目横断的に出席確認を体系化し、情報を教員が共有することによって、個々の学生の出席動向を把握する制度である。出席率の低下は科目単位で発生するだけでなく、学生単位で(複数の科目で同時に)発生する。履修科目全体で出席率低下の学生は、容易にドロップアウトにつながる。学生単位で出席動向を把握することにより、こうした問題に早期に対処することができる。各学生の履修科目全体での成績状況を把握するため、GPA (Grade Point Average : 評定平均値) を導入する。全科目対象だけでなく、さまざまな下位スコアを算出する。細目の数値化により、各学生の成績動向を精密に把握し、個別指導の材料とする。また、GPA 上位の学生にはTA 採用等の優遇策を講じる。 _

(平成 19 年度現代 GP 申請書より)

あとがき

平成 19 年度に文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」として選定を受け、2 年半に渡って「学生個人を大切にしたいキャリア教育の推進」に取り組んできた。本報告書はこの取組みで実施してきたこと、取組みの成果、およびその評価について報告したものである。本取組はそのサブタイトルにあるように、個別対応と個別対応教育という本学が長年大切にしてきた教育法をさらに発展させ、大学が社会から付託されている「社会人養成」という課題に取り組んだものである。その中心は、就労意識の喚起・醸成、基本的能力の養成、そして社会人基礎力の養成にある。いずれも大きな課題であり、方法が確立しているわけではなかった。本学ではこれに、個別対応教育と学生支援という本学独自の総合学生支援「エンロールメントマネジメント」のもとに取り組んできた。その結果、1, 2 年次の基礎ゼミのプログラムをはじめとして、それぞれの課題への取り組み方とキャリア形成教育のあり方について、一定の知見が得られたように思う。その成果はとくに次のような点で強く感じられる。

- ① 本取組は全学的に推進するものであることから、教育・学生支援の全学的推進体制を組み、その推進を通して機能させることができた。これにより、全学プロジェクトの推進、およびこれを組織的に進めるノウハウを修得することができた。
- ② 本取組では全学科のカリキュラムを「学生のキャリア形成」の視点から「総合キャリア教育」として体系化し、これを組織的に実施することを試みた。これにより、教育課程の体系化と組織的实施についての学内理解が進んだ。
- ③ 本取組には全教員が参加し、その担当科目と学生支援活動において、キャリア形成教育と就職支援を行うことになった。その結果、教員の間でキャリア形成教育の必要性についての理解が格段に進んだ。

本取組の成果を受けて平成 22 年度より、恒常的な機関として「キャリア教育推進センター」を設置し、学生のキャリア形成教育を中心とするキャリア支援にあたることとした。学生のキャリア支援についてはまだまだ未解決の課題が多く、今後とも試行錯誤を続けることになるが、この活動により、社会の大学に対する期待に応えていきたいと考えている。

最後に、本取組みに熱意をもって参加いただいた関係教職員の諸氏に謝意を表したい。また、外部評価をいただいた諸先生、ならびに本取組みとして開催したシンポジウムに参加いただいた方々をはじめ、いろいろな形で本取組みを支援していただいた方々に厚くお礼申し上げたい。

キャリア教育推進センター長
山本 嘉一郎

平成19年度 文部科学省 現代的教育ニーズ取組支援プログラム選定

学生個人を大切にしたキャリア教育の推進

— 個別対応と個別対応教育による就労意識の喚起・醸成と基本的能力の養成 —

最終報告書

発行日 平成22年3月31日
編集発行 京都光華女子大学 キャリア教育推進センター
〒615-0882
京都府京都市右京区西京極葛野町38
TEL 075-325-5315
事業推進代表者 一 郷 正道
事業推進責任者 山 本 嘉一郎



車両進入禁止



京都光華女子大学

京都光華女子大学大学院 / 京都光華女子大学短期大学部